

# 新潟市文化財センター年報

## 第3号

—平成26（2014）年度版—

2016

新潟市文化財センター

# 新潟市文化財センター年報

## 第3号

—平成26（2014）年度版—



秋葉区 原遺跡出土縄文土器（第8次・SK3出土）

2016

新潟市文化財センター

# 新潟市文化財センター

## 【設置】

新潟市文化財センター（以下「文化財センター」）は、埋蔵文化財及び有形民俗文化財を保存し、活用を図ることにより、これらに対する市民の関心及び理解を深め、もって市民文化の向上に資するため、『地方教育行政の組織及び運営に関する法律』第30条の規定に基づき設置された教育機関です。

## 【事業】

- ① 埋蔵文化財の調査及び研究に関すること。
- ② 発掘調査等により出土した考古資料の収集及び保存並びに公開その他の活用に関すること。
- ③ 有形民俗文化財の保存及び活用に関すること。

新潟市内には旧石器時代から江戸時代に至る700か所以上の遺跡が知られています。平成17（2005）年の14市町村による広域合併後の各種開発事業等の増加に伴い、発掘調査も増加の一途をたどり、新たに発見される遺跡も年々増加しています。また、それらに伴う出土遺物や記録類も増えています。

文化財センターは各種開発事業や史跡整備等に伴う発掘調査を行い、埋蔵文化財の調査研究・収蔵保管・展示活用を進めていくために平成23（2011）年7月にオープンしました。

文化財センターには、民俗資料収蔵庫も併設されており、併せて市指定文化財の旧武田家住宅を移築復元しています。



新潟市文化財センター外観

# 例 言

- ・本書は、文化財センター及び文化スポーツ部歴史文化課埋蔵文化財担当（以下「埋蔵文化財担当」）の主に埋蔵文化財に係わる平成26年度の業務年報である。Ⅰに新潟市の埋蔵文化財行政の概要、Ⅱに各種開発事業に伴う埋蔵文化財に係る事前審査、Ⅲに文化財センター業務、Ⅳに史跡古津八幡山遺跡歴史の広場業務、Ⅴに資料紹介や研究ノート等の研究活動について収録している。
- ・『新潟市文化財センター年報』（以下「『年報』」）は平成26年から刊行され、本書は第3号にあたる。文化財センター開館までの新潟市の埋蔵文化財行政の概要及び経緯、文化財センターの概要については、第1号〔新潟市文化財センター2014〕に記載されている。
- ・本書は文化財センター・埋蔵文化財担当職員が中心になり、分担執筆した。執筆者の氏名は各文章の末尾に記載した。また、Ⅴ3は澤田純明氏・佐伯史子氏・奈良貴史氏（新潟医療福祉大学）より玉稿を賜った。なお、全体の統一をはかるために内容が変わらない範囲で編集者が若干の字句の修正を行った。
- ・本書に記載されている施設名及び所属等については、本書刊行当時のものである。
- ・Ⅱ2、Ⅲ2の試掘・確認調査、本発掘調査、工事立会の各概要は主要なもののみを掲載した。
- ・Ⅱ2、Ⅲ2の各概要の図1「調査地点の位置」は、国土基本図（2,500分の1）を使用しており、縮尺は10,000分の1または15,000分の1（Ⅱ2（10））で掲載した。また、地図の上位が北である。
- ・図・表番号は、各章ごとに1から付けている。しかし、Ⅱ2、Ⅲ2は項（概要）ごとに、Ⅴは節ごとに番号を付けている。
- ・掲載遺物の実測・トレース等は文化財センターで行った。
- ・本書の編集は金田拓也・八藤後智人が行った。

# 目 次

Ⅰ 新潟市の埋蔵文化財保護行政について	1
Ⅱ 開発事前審査	2
1 事前審査内容	2
2 平成26年度の前審査に係る試掘・確認調査の概要	7
Ⅲ 文化財センターの事業	39
1 本発掘調査の概要	39
2 平成26年度の本発掘調査	40
3 整理作業の概要	46
4 資料の収蔵・保管	47
5 資料の公開・活用	48
6 教育普及活動	59
7 保存処理	64
8 新潟市文化財センター運営協議会	65
9 決算額	65
Ⅳ 史跡古津八幡山遺跡歴史の広場	66
1 史跡古津八幡山遺跡整備事業の概要	66
2 教育普及活動	66
3 古津八幡山古墳復元整備の概要	69
Ⅴ 研究活動－資料報告・研究ノート等－	70
1 西蒲区御井戸B遺跡出土の石製模造品について	70
2 沖ノ羽遺跡から出土した古墳時代後期の「甗」について	72
3 仲歩切遺跡から出土した骨様物質の組織形態学的分析結果	74
引用・参考文献	78

# I 新潟市の埋蔵文化財行政について

**概要** 新潟市では、「文化財に関する事項」は市長部局の歴史文化課が補助執行することとされている。そのうち埋蔵文化財については、埋蔵文化財担当及び文化財センター（西区木場）が所管している。

事務分掌としては、開発事前審査、試掘・確認調査、工事立会、古津八幡山遺跡を除く史跡管理を埋蔵文化財担当が、本発掘調査、保存処理、収蔵保管、展示活用、史跡古津八幡山遺跡の史跡整備と管理・活用等を文化財センターが行っている。

**開発事前審査** 開発事前審査では、民間開発や公共工事に対する事前協議を行い、『新潟市試掘確認調査基準』（平成19年4月1日）に基づいて試掘・確認調査の可否を判断している。また、本市は政令指定都市のため、『文化財保護法』（以下「『法』」）第93条及び第96条に基づく事務については、新潟市教育委員会が『新潟市埋蔵文化財取扱要綱』（平成19年4月1日）に基づいて『法』に伴う指示を行っている。

**本発掘調査** 本発掘調査は、民間や国・県などの原因者から新潟市が受託して「埋蔵文化財本格発掘調査事業」として実施している。また、本市が原因者の場合は関係各部署からの依頼を受け、同様に実施している。

平成26年度の埋蔵文化財本発掘調査と整理作業に係る事業費は表1の通りである。内容に本発掘調査と表示されているものが、今年度に本発掘調査を実施した事業であり、事業費には調査費の他に整理作業費が一部含まれている。また、本発掘調査と表示されていないものは、前年度以前に本発掘調査が行われた事業であり、整理作業費や報告書刊行費が含まれている。

**埋蔵文化財** 新潟市内には、埋蔵文化財包蔵地が、731か所（平成27年3月31日時点）存在する。平成26年度は、試掘調査による新発見遺跡が7か所ある。

**指定文化財** 有形文化財（考古資料）のうち、国指定が1件、県指定が10件、市指定が25件ある。

県指定文化財のうち6件は、新潟県埋蔵文化財センターに所蔵されている他市町村出土資料のため、市内出土資料の県指定文化財は4件となる。

市指定文化財は西蒲区出土資料が最も多い。各資料が合併以前からの地域の歴史や特色を示す重要な資料である。このような文化財を地域振興に活用することで、市内の活性化へとつながると考える。

発掘調査によって増加する資料を保存するだけでな

く、地域のために活用することが重要である。平成26年度も速報会等の最新の発掘調査成果の発表の他に、企画展によりの場遺跡や緒立遺跡、鳥屋遺跡などを改めて注目する機会など、新しい発掘調査成果と合わせて、既存の資料を掘り返して広く活用するよう取り組みを行っている。（金田拓也）

表1 平成26年度新潟市本発掘調査・整理作業事業費一覧

調査番号	原因者	事業名	遺跡名	内容	事業費 (円)	調査面積 (㎡)	担当		
2005002 2006005 2007004 2008002	農耕地	満日地区ほ場整備発掘調査事業	神ノ羽遺跡	整理作業	22,000,000	-	遠藤恭雄		
中谷内遺跡									
内野遺跡									
大沢谷内遺跡									
2013002	新潟市	大沢谷内遺跡発掘調査事業	大沢谷内遺跡	整理作業 報告書刊行	38,000,000	-	相田泰臣		
2013003	新潟市	峰岡上町遺跡発掘調査事業	峰岡上町遺跡	整理作業	12,400,000	-	前山精明		
2013005 2013006	農耕地	道土地区ほ場整備発掘調査事業	下新田遺跡	整理作業	12,000,000	-	龍田優子		
2014001			農耕地					両新地区ほ場整備発掘調査事業	細池寺道上遺跡
2007005 2008006 2010003 2011005 2012006 2013004	西蒲遺跡	整理作業							
2014002				新潟市	細池寺道上遺跡発掘調査事業	細池寺道上遺跡	本発掘調査 整理作業		
2014003	新潟市	手代山北遺跡発掘調査事業		手代山北遺跡	報告書刊行	2,900,000	63.0		遠藤恭雄
合 計					406,317,000	6,167.9	-		

表2 新潟市内指定文化財（考古資料）一覧

国指定文化財（考古資料）				
名称	指定年月日	員数	所在地	出土地
越後国菟瀨古墳群出土品	S37.2.2	一括	中央区柳島町2-10 歴史博物館内	西蒲区
県指定文化財（考古資料）				
名称	指定年月日	員数	所在地	出土地
龍籠鏡 (越後国菟瀨古墳群出土品)	S37.3.29	1面	東京国立博物館	西蒲区
木崎山出土地鉄具	S59.3.27	一括	秋葉区金津93番地1 県埋蔵文化財センター内	上越市
の場遺跡出土品	H8.3.29	一括 5,585点	西区木場2748番地1 文化財センター内	西区
五丁歩遺跡出土品	H13.3.23	一括 1,394点	秋葉区金津93番地1 県埋蔵文化財センター内	南魚沼市
蒲題遺跡出土品	H16.3.30	一括 2,160点	西区木場2748番地1 文化財センター内	南区
上之平遺跡・吉ヶ沢遺跡出土品	H17.3.25	一括 1,103点	秋葉区金津93番地1 県埋蔵文化財センター内	阿賀町
青田遺跡出土品	H21.3.24	一括 2,076点	秋葉区金津93番地1 県埋蔵文化財センター内	新発田市
滝寺遺跡群・大貫遺跡群出土品	H23.3.22	一括 1,012点	秋葉区金津93番地1 県埋蔵文化財センター内	上越市
南赤坂遺跡出土品	H25.3.26	110点	西区木場2748番地1 文化財センター内	西蒲区
余川中道遺跡出土品	H26.3.25	255点	秋葉区金津93番地1 県埋蔵文化財センター内	南魚沼市
市指定文化財（考古資料）				
名称	指定年月日	員数	所在地	出土地
布目遺跡出土尖底深鉢形土器	S38.3.30	1個	東京国立博物館	西蒲区
自然触壁	S41.3.29	1個	西蒲区巻甲3069-1 巻郷土資料館内	西蒲区
緒立土器	S47.3.30	一括	西区木場2748番地1 文化財センター内	西区
五ヶ坂須恵器	S51.3.9	1個	西蒲区巻甲3069-1 巻郷土資料館内	西蒲区
中才遺跡出土品	S52.3.4	一括	西区木場2748番地1 文化財センター内	西蒲区
市内遺跡出土品	S58.3.31	72点	北区山山3452 北区郷土博物館内	北区
鳥屋遺跡発掘調査出土品	S59.4.1	一括	西区木場2748番地1 文化財センター内	北区
上黒山遺跡出土品	S59.4.1	一括	北区山山3452 北区郷土博物館内	北区
本町中世石仏	H51.1.20	1体	秋葉区新津 本町2-2917	秋葉区
大鹿諏訪神社中世石仏	H51.1.20	1体	秋葉区大鹿 諏訪神社前	秋葉区
盛岩寺中世石仏	H51.1.20	3体	秋葉区大安寺815	秋葉区
馬場原遺跡出土品	H57.1.14	3,017点	西区木場2748番地1 文化財センター内	南区
の場遺跡出土品（県指定分は除く）	H51.1.3	一括	西区木場2748番地1 文化財センター内	西区
笹山前遺跡出土 縄文時代の深鉢形土器	H10.3.24	1点	中央区柳島町2-10 歴史博物館内	江南区
新谷遺跡出土浅鉢形土器	H11.9.29	1点	西区木場2748番地1 文化財センター内	西蒲区
南赤坂遺跡出土「の」字状垂飾	H11.9.29	1点	西区木場2748番地1 文化財センター内	西蒲区
大沢遺跡出土中期前葉縄文土器	H11.9.29	12点	西区木場2748番地1 文化財センター内	西蒲区
上ノ原遺跡採集石棺	H11.9.29	1点	西区木場2748番地1 文化財センター内	西蒲区
上ノ原遺跡出土「深靴」土偶	H11.9.29	1点	西区木場2748番地1 文化財センター内	西蒲区
御井戸遺跡出土縄文時代木製品	H11.9.29	9点	西区木場2748番地1 文化財センター内	西蒲区
山谷古墳出土品	H11.9.29	一括	西区木場2748番地1 文化財センター内	西蒲区
南赤坂遺跡出土古墳時代北方系土器 (県指定分は除く)	H11.9.29	一括	西区木場2748番地1 文化財センター内	西蒲区
前平野遺跡出土須恵器	H11.9.29	1点	西区木場2748番地1 文化財センター内	西蒲区
沙山遺跡出土中世釣針	H11.9.29	一括	西区木場2748番地1 文化財センター内	西蒲区
葛塚遺跡出土朱塗り線刻物画土器	H14.3.8	1個体	西区木場2748番地1 文化財センター内	北区

\*この一覧は概略のため、所有者等を記載していない。詳細な一覧は（新潟市教育委員会2015）に掲載されている。

## II 開発事前審査

### 1 事前審査内容

#### (1) 開発事前審査

**概要** 貴重な国民的財産である遺跡（埋蔵文化財包蔵地）を将来にわたって良好な状態で保存していくためには、開発事業その他に伴う掘削で破壊されないよう、十分な措置を講じなければならない。そのため、『法』第93条及び第94条によって、こうした掘削等については事前の届出・通知が事業者には義務づけられているところだが、実際の運用としては事業の計画段階から試掘・確認調査の実施や、その結果に伴う事業内容の調整まで長期間を要することが多いため、できる限り事前協議を早くから実施することが肝要である。

新潟県内では、取決めにより公共事業のうち国土交通省直轄道路事業、高速道路事業、新幹線事業については新潟県教育委員会が、その他の公共事業及び民間事業については市町村教育委員会が協議調整を担当する役割分担としている。従って、本市では市内で行われる多数の土木工事などの事業について、公共・民間の別を問わず、全て事前審査を行い、必要なものについて事前協議の対象とすることを原則としている。

実際にはさまざまな形態の事業があるため、具体的な審査等の進め方は以下の通りである。

**公共事業** 国・県機関の実施する土木事業については、年に1度、新潟県教育庁文化行政課が一括して関係機関に照会し、得られたデータを県下の市町村に提供して、審査及び事業者との協議を依頼している。

国・県機関が実施する事業のうち、平成26年度の新潟市関連分は平成25年度の50件とほぼ同数の49件である（表1）。内訳は①すでに取扱い中で方針が決まっているものが8件、②協議不要と判断されたものが34件（河川内の工事など）、③協議中で取扱い方針未定のものが2件、④新規事業で今後協議を必要と判断したものが5件であった。その後、③及び④の7件について、関係部署との協議を行い、取扱いを決定している。

市が実施する事業については、年度ごとに市内に一斉照会をかけ、その回答をもとに協議している。規模を問わず、原則すべての市事業を対象とするため、回答件数が千件単位と膨大になり、短期間での審査・協議が困難となっている。今後、事業主体からも自発的に歴史文化課へ協議するよう、折に触れ呼びかけを行っている。

国・県・市事業のいずれも、年1度の照会で把握しているため、年度途中で発生する小規模事業を拾いきれない場合があり、こうした事業をどのようにして事前協議に乗せていくかが今後の課題である。

**民間事業** 民間事業中最多の建築事業については、建築確認申請書を提出する際、本市独自の施策として「建築確認申請事前調査報告書」の添付を義務付けている（担当は建築部建築行政課）。その事前調査項目に「埋蔵文化財の有無」があることから、建築主は全ての案件について歴史文化課窓口へ照会して確認番号を取得するため、その時点で遺跡に該当するかどうか把握できる仕組みとなっている（なお、公共の建築事業についても「計画通知」段階で同様の措置を取っている）。開発行為については、各区の『開発審査協議会設置要領』に規定されている通り、『都市計画法』第32条による事前協議書が各区役所建設課に提出された後、歴史文化課を含む庁内関係各課に意見照会されるため、全ての案件について取扱い方針の審査と協議を行っている。また、本市では多くの土木事業が農地内で行われるため、事前に『農地法』に係る転用申請・届出が提出されることから、市内に6つ（北区・中央・秋葉区・南区・西区・西蒲区）存在する農業委員会事務局に歴史文化課への情報提供を依頼し、全件について審査のうえ、取扱い方針を決定し、必要なものについて事業者と協議を行っている。

このように、民間事業者の行う各種開発等については、許認可事務を担当する庁内各課等と緊密に連携し、事前把握を行っている。その他、不動産鑑定評価や土地売買検討時の事前調査に伴う照会も相当数にのぼっている。しかし、試掘・確認調査結果を踏まえて協議を行うには日数が不足しがちであるため、今後は各事業者が事前照会をより早い段階で自発的に行うよう、各種の機会をとらえて周知するなどの措置が必要である。

また、開発行為事前協議時の事前相談が開始された段階で、各区役所建設課から事業者に対し歴史文化課へも連絡を取るよう指導する対策が取られている。さらに、事前照会にあたっては窓口対応の他FAXを活用するなど、遠隔地の事業者の負担を少なくし、気軽に連絡が取れる工夫もしている。

**平成26年度** 平成26年度の協議実績の概要は以下の通りである。

国・県機関が実施する事業の件数については先に触れ

た通りである。国関係では取扱いが必要となったものはなかった。県関係では圃場整備及び農道関係事業がほとんどであった。特に、秋葉区の両新地区圃場整備事業が大きな割合を占めている。他には、西蒲区内で複数の圃場整備事業が採択段階に上がってきており、今後試掘・確認調査が大幅に増加する見込みである。市が実施する事業の審査件数については、平成25年度の691件から434件と前年比の約40%減となっている（表1）。平成26年度に合併建設計画関連事業が終了することによるものであろう。内訳としては、水道関係151件（34.8%）、道路関係114件（26.2%）、下水道関係68件（15.7%）、建設関係40件（9.2%）が主なものである。

民間事業に係る事前審査については表2に示した。平成25年度とほぼ同傾向であるが、案件ごとの重複を除いた実数は7,591件（平成25年度6,686件に比して13.5%増）と大きく増加している。このところの景気回復傾向を反映したものだろうか。内訳は、開発行為は増加（平成25年度の62件から72件）、農地転用は30%の大幅増（同じく511件から668件）、建築確認申請に係る審査件数は微減（同じく4,742件から4,261件）であった。

**(2) 試掘・確認調査**

**概要** 事前審査・協議において、遺跡の有無を事前に把握する必要があると判断した箇所には試掘調査、すでに周知遺跡となっているが、その詳細な内容が不明な場合には確認調査を実施している。経費は市の事業「市内遺跡範囲等確認調査事業」として公費から支出し、原則として事業者は一切の負担を要求していない。なお、事業費は国の補助対象（文化庁 補助割合50%）となっている。

試掘調査については、公共事業はもちろん、民間事業の場合もほとんどは事業者の理解と協力を得て実施している。以前は、まれに試掘調査の実施を拒否される場合があったが、近年はほぼ全ての案件で承諾が得られている。試掘調査の意義と効果に対する理解が事業者に浸透してきていると思われる。

平成26年度 表3・4の通り、47件の試掘調査、30件の確認調査の計77件を実施した。平成25年度の件数と比較すると試掘調査が15件の減、確認調査が7件減となっている。確認調査が減少した原因としては、平成25年度から続く建築関係事業の減少が影響していると推測される。地域別では、市街地内の亀田砂丘に多くの遺跡が所在する江南区、同じく新津丘陵や多くの埋没自然堤防が存在し、開発対象となることが多い秋葉区、そして遺跡密度が相対的に高い西蒲区の調査件数が例年通り多くなる傾向が出ている。

表1 平成26年度公共事業事前審査事業主体別内訳

事業主体	件数	遺跡に該当	試掘調査の協議をしたもの	94条通知
国	12	0	0	0
県	37	10	11	10
市	434	27	59	11
合計	483	37	70	21

表2 平成26年度民間事業事前審査内訳

区名	審査種別				審査・照会 件数	93条 届出
	開発行為	農地転用	建築確認	窓口照会 文書照会		
北区	6	0	378	560	0	944
東区	9	114	696	1,134	0	1,953
中央区	13	47	978	1,717	0	2,755
江南区	8	100	405	654	0	1,167
秋葉区	11	6	414	647	0	1,078
南区	4	82	288	461	0	835
西区	19	267	868	1,405	0	2,559
西蒲区	2	52	234	487	0	775
全市合計	72	668	4,261	7,065	0	12,066
遺跡に該当	2	27	105	176	0	310
試掘調査の協議をしたもの	16	25	*	530	0	571

\*建築確認のみの案件（個人住宅など）については周知遺跡の範囲にかかるもののみ協議の対象としているため、原則として試掘調査は生じない。

表3 平成26年度試掘・確認調査、工事立会件数

区名	調査内容	事業者	件数		埋蔵文化財 検出件数	割合 (%)
			公共	民間		
北区	試掘調査	公共	5	5	0	0
		民間	0	0	-	-
	確認調査	公共	0	0	-	-
		民間	0	0	-	-
工事立会	-	-	2	0	0	
東区	試掘調査	公共	0	4	-	-
		民間	4	4	0	0
	確認調査	公共	0	2	-	-
		民間	2	2	1	50
工事立会	-	-	1	0	0	
中央区	試掘調査	公共	4	8	1	25
		民間	4	4	2	50
	確認調査	公共	0	1	-	-
		民間	1	1	1	100
工事立会	-	-	1	0	0	
江南区	試掘調査	公共	1	11	1	100
		民間	10	10	2	20
	確認調査	公共	1	8	0	0
		民間	7	7	3	43
工事立会	-	-	15	3	20	
秋葉区	試掘調査	公共	1	8	0	0
		民間	7	7	2	29
	確認調査	公共	2	11	1	50
		民間	9	9	6	67
工事立会	-	-	20	5	25	
南区	試掘調査	公共	0	4	-	-
		民間	4	4	0	0
	確認調査	公共	0	1	-	-
		民間	1	1	0	0
工事立会	-	-	1	0	0	
西区	試掘調査	公共	2	3	1	50
		民間	1	1	0	0
	確認調査	公共	1	2	0	0
		民間	1	1	1	100
工事立会	-	-	1	1	100	
西蒲区	試掘調査	公共	0	4	-	-
		民間	4	4	2	50
	確認調査	公共	3	5	2	67
		民間	2	2	1	50
工事立会	-	-	10	4	40	
合計	試掘調査	公共	8	47	3	38
		民間	39	39	8	21
	確認調査	公共	7	30	3	43
		民間	23	23	13	57
工事立会	-	-	51	13	25	

平成26年度経費（単位：千円）

調査等内容	金額
試掘調査	13,665
確認調査	3,325
管内踏査 (工事立会)	1,661

表4 平成26年度試掘・確認調査一覧(調査番号順)

調査番号	遺跡名 遺跡番号	調査種別	開発種別		調査地	遺跡種別	遺跡の時代	調査で 確認された時代	調査 期間	調査 日数	調査面積 (調査対象面積) (㎡)	調査担当	検出遺構	出土遺物	取扱い	備考
			事業者	内容												
2014101	近世新沼町跡 575	試掘調査	民間	集合住宅	中央区 本町通一丁目 172番2	港町跡	近世	近世	4/14 ~5/13	5	106 (51099)	朝岡政康	井戸・土坑・ 溝(近世)	近世陶磁器・ 石製品・木製品(近世)	工事立会	周知化 (本町通1丁目 172番地2地点)
2014102		試掘調査	民間	事務所	江南区 曙町四丁目 328番1	-	-	-	4/15	1	32 (1974)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2014103		試掘調査	民間	貸店舗	北区 喜屋字正六 3079番1 外	-	-	-	4/16	1	29.97 (1,152.56)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2014104		試掘調査	民間	店舗	東区 上水戸一丁目 10番5 外	-	-	-	4/22	1	18 (3,129.07)	諫山えりか	なし	なし	取扱不要	
2014105	近世新沼町跡 575	試掘調査	民間	集合住宅	中央区 上大川前通 四丁目 40番1	港町跡	近世	近世	4/18・19	2	15 (1,052.68)	諫山えりか	溝・性格不明遺構・ 柱穴(近世)	近世陶磁器・ 土製品・木製品・ 金属製品(近世)	工事立会	周知化 (上大川前通 40番地1地点)
2014107		試掘調査	民間	店舗	中央区 堀之内南二丁目 274番11 外	-	-	-	4/17	1	19.2 (2,208.01)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2014109		試掘調査	民間	個人住宅	江南区 丸山字清水ヶ丘 200番	-	-	-	4/11	1	2 (212)	諫山えりか	なし	なし	取扱不要	
2014110		試掘調査	民間	集合住宅	江南区 城山四丁目 甲443番1 外	-	-	-	4/21	1	27 (9,125.1)	廣野耕造	なし	なし	取扱不要	
2014111	原遺跡 126	確認調査	民間	神社改築	秋葉区 程島字原 244番	集落跡	縄文(中~晩期)	縄文	4/21~25	5	67.44 (1,736.01)	朝岡政康	土坑・ピット (縄文)	縄文土器・ 石器・礫(縄文)	工事立会	
2014112	(沢海遺跡) 761	試掘調査	民間	宅地造成	秋葉区 中村字沢海 387番 外	遺物 包含地	縄文(後期)	縄文・近世	4/15~17	3	27 (4,614.4)	諫山えりか	ピット	縄文土器・近世陶磁器・ 土器・石器(縄文)	工事立会	新発見遺跡
2014113	中新田久保遺跡 208	確認調査	公共 (市)	天日乾燥 施設	秋葉区 満願寺字久保 410番 外	遺物 包含地	平安	平安・近世	5/8 ~8/18	6	222 (19,500)	諫山えりか	溝・性格不明遺構 (平安)	土師器・黒色土器・ 須恵器(平安)・ 近世陶磁器(近世)	工事立会	
2014114		試掘調査	公共 (県)	耕地改修	秋葉区 金津 81番 外	-	-	-	5/7・8	2	36.3 (2,412)	相田泰臣	なし	なし	取扱不要	
2014119	(内畑遺跡) 765	試掘調査	民間	宅地造成	秋葉区 結字内畑 184番4 外	遺物 包含地	古代	古代	5/15 ~7/11	4	82.7 (3,843.29)	朝岡政康	なし	土師器・須恵器(古代)	工事立会	新発見遺跡
2014120	(亀田四ツ栗野 居付遺跡) 762	試掘調査	民間	宅地造成	江南区 亀田四ツ栗野 512番3 外	遺物 包含地	平安・近世	平安・近世	5/20	1	36 (1,097.29)	朝岡政康	ピット(平安)・ 木田・土坑・溝 (近世)	土師器・須恵器(平安)・ 近世陶磁器(近世)	工事立会	新発見遺跡
2014121		試掘調査	民間	養護施設	中央区 本馬場一丁目 948番 外	-	-	-	5/22	1	38.15 (3,606.95)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2014122	六地山遺跡 3	確認調査	民間	倉庫	西区 曾和字沢田 381番1 外	遺物 包含地	弥生(後期)・ 奈良・平安・鎌倉	弥生	5/21	1	19.5 (696.26)	諫山えりか	なし	弥生土器・土師器(不明)	工事立会	
2014123	南赤坂遺跡 616	試掘調査	民間	太陽光発電 設備	西蒲区 竹野町南馬場 5342番	集落跡	縄文(前期)・ 古墳(前期)・ 奈良・平安	縄文	5/26~29	4	150.92 (10,900)	朝岡政康	掘設谷	石器(縄文)	慎重工事	範囲拡大
2014126	近世新沼町跡 575-13	確認調査	民間	集合住宅	中央区 上大川前通 四丁目 40番1	港町跡	近世	近世	5/26~29	4	12 (1,052.68)	諫山えりか	溝・焼土(近世)	近世陶磁器・ 木製品・金属製品(近世)	工事立会	
2014130	新道遺跡 756	確認調査	民間	個人住宅	西蒲区 登字新道 甲4097番5	遺物 包含地	飛鳥・奈良	-	7/4	1	9 (295.15)	諫山えりか	なし	なし	慎重工事	
2014131		試掘調査	民間	土地売買	西蒲区 漆山 8157番1	-	-	-	6/23	1	36 (2,767.19)	諫山えりか	なし	なし	取扱不要	
2014132	日本南遺跡 391	確認調査	民間	個人住宅	江南区 日本一丁目 94番 外	遺物 包含地	縄文(後・晩期)・ 弥生(前・中期)・ 古墳(前期)・ 奈良・平安・室町	弥生・平安	6/25	1	8.12 (336.66)	諫山えりか	なし	弥生土器(弥生)・ 土師器(平安)	工事立会	
2014133		試掘調査	民間	保育園	西区 新通西二丁目 1311番 外	-	-	-	7/3	1	27 (1,933)	諫山えりか	なし	なし	取扱不要	
2014134	(京木遺跡) 764	試掘調査	公共 (市)	県道	江南区 安津字京木 1848番 外	遺物 包含地	奈良・平安	奈良・平安	6/16~20	5	376 (19,000)	朝岡政康	土坑・溝	土師器・須恵器(古代)・ 近世陶磁器・石製品・ 鉄製品	本発掘 調査	新発見遺跡
2014136	大沢谷内遺跡 342	確認調査	民間	農道	秋葉区 小向字長持 115番 外	集落跡	縄文(晩期)・ 弥生・古墳・ 奈良・平安・中世	奈良・平安	6/25 ~7/1	4	113 (4,732.61)	朝岡政康	水田開墾遺構・溝・ ピット	土師器・須恵器(古代)	工事立会	
2014137		試掘調査	公共 (県)	校舎	中央区 白山通二丁目 68番2	-	-	-	7/2	1	49.54 (6,300)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2014139		試掘調査	民間	宅地造成	江南区 磯ノ子二丁目 419番1 外	-	-	-	6/27	1	27 (1,378.56)	諫山えりか	なし	なし	取扱不要	
2014140	(下田東遺跡) 763	試掘調査	民間	店舗	西蒲区 竹野町字下田 2456番1 外	遺物 包含地	縄文(前期)・ 平安	古代	7/7・8	2	27 (1,948.48)	諫山えりか	なし	鉄製品(古代)	工事立会	新発見遺跡
2014141		試掘調査	民間	店舗	江南区 旭二丁目 1968番1 外	-	-	-	7/10・11	2	18 (2,852.13)	諫山えりか	なし	なし	取扱不要	
2014144		試掘調査	民間	工場	東区 山本字下屋敷 1500番1	-	-	-	7/14~18	5	279.47 (27,000)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2014145	近世新沼町跡 575	試掘調査	公共 (市)	駐輪場	中央区 古町通三番町 634番	港町跡	近世	近世	7/29・30	2	21.84 (302.14)	朝岡政康	なし	近世陶磁器・ 木製品(近世)	慎重工事	
2014147		試掘調査	民間	集合住宅	東区 海老ヶ瀬 字新堀北 1153番1 外	-	-	-	8/19	1	22.58 (1,168.99)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2014150	下田東遺跡 763	確認調査	民間	店舗	西蒲区 竹野町字下田 2456番1 外	遺物 包含地	縄文(前期)・ 平安	縄文・平安	7/17~22	3	22.5 (1,948.48)	諫山えりか	なし	縄文土器・土師器(平安)・ 石器(縄文)	工事立会	
2014151		試掘調査	民間	集合住宅	北区 木崎字尾山前 851番3 外	-	-	-	8/20	1	23.3 (1,519.44)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	



試掘調査風景(江南区城山四丁目・2014110)



確認調査風景(島灘遺跡・2014187)

調査番号	遺跡名 遺跡番号	調査種別	開発種別		調査地	遺跡種別	遺跡の時代	調査で 確認された時代	調査 期間	調査 日数	調査面積 (調査対象面積) (㎡)	調査担当	検出遺構	出土遺物	取扱い	備考
			事業者	内容												
2014152	舟戸遺跡 132	確認調査	民間	個人住宅	秋葉区 西島字桜大門 28番6 外	集落跡	弥生(後期)・ 古墳(前・中期)・ 奈良・平安	古代	8/22	1	8.32 (299.65)	諫山えりか	なし	土師器・須恵器・ 土製品・軽石(古代)	慎重工事	
2014153		試掘調査	民間	土地売買	秋葉区 金沢町二丁目 575番2 外	-	-	-	8/25	1	22.5 (1,397.12)	諫山えりか	なし	なし	取扱不要	
2014154	庄瀬館跡 223	確認調査	民間	個人住宅	南区 庄瀬字裏通 635番1	城館跡	室町	近世	9/3	1	6.75 (296.16)	諫山えりか	なし	近世陶磁器・木製品(近世)	慎重工事	
2014155	高矢C遺跡 135	確認調査	民間	宅地造成	秋葉区 古津字本村 239番1 外	遺物 包含地	古墳	古代・中世	8/26・27	2	48 (1,925.86)	朝岡政康	土坑・溝・ピット	土師器・須恵器(平安)・ 珠洲焼・越前焼(中世)・ 製鉄関連遺物・骨	開発中止	
2014156	竹尾遺跡 30	確認調査	民間	集合住宅	東区 紫竹七丁目 520番地3 外	遺物 包含地	室町	-	9/2	1	10.8 (175.37)	朝岡政康	なし	なし	慎重工事	
2014157		試掘調査	民間	土地売買	江南区 元町一丁目 1263番1 外	-	-	-	9/3	1	18.63 (949.55)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2014158	大瀧遺跡 16	確認調査	民間	個人住宅	江南区 大瀧字村北 1206番1	遺物 包含地	平安・中世	-	9/4	1	11.78 (766.83)	朝岡政康	なし	なし	慎重工事	
2014159	結七島遺跡 209	確認調査	民間	太陽光発電 設備	秋葉区 福原字敷付 147番2	集落跡	古墳・飛鳥・ 奈良・平安・中世	-	9/11	1	21 (557.5)	諫山えりか	なし	なし	慎重工事	
2014160	山ノ家遺跡 302	確認調査	民間	集合住宅	江南区 駒込二丁目 486番地1 外	遺物 包含地	縄文(前・中期)・ 弥生(中期)・ 古墳(前期)・ 奈良・平安	-	9/9	1	10.2 (556.51)	諫山えりか	なし	なし	慎重工事	
2014161	駒込小丸山遺跡 359	確認調査	公共 (市)	備蓄	江南区 藤山七丁目 588番 外	遺物 散布地	縄文(中～晚期)・ 弥生(中期)・ 奈良・平安	-	9/19	1	1.7 (80)	諫山えりか	なし	なし	慎重工事	
2014162	(細越遺跡 796)	試掘調査	公共 (市)	集会施設	西区 内野町 385番 外	遺物 包含地	古代	古代	9/11・12	2	59.2 (2,710.04)	朝岡政康	なし	須恵器(古代)	工事立会	新発見遺跡
2014163	三王山遺跡 419	確認調査	民間	個人住宅	江南区 城山二丁目 1206番 外	集落跡	平安・中世	-	9/26	1	4.18 (392.44)	朝岡政康	なし	なし	工事立会	
2014164	丸山遺跡 13	確認調査	民間	店舗	江南区 丸山ノ内 鎌倉字組 字宮前168番1 外	遺物 包含地	平安	平安	9/30	1	14.7 (382)	諫山えりか	なし	土師器(平安)	工事立会	
2014166		試掘調査	民間	社屋	北区 大瀬柳字溝内 111番 外	-	-	-	10/1	1	35.97 (3,440.57)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2014167		試掘調査	民間	工場	南区 上塩鉄字道上 207番 外	-	-	-	10/2	1	39.92 (3,952)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2014169		試掘調査	民間	工場	西蒲区 漆山字砂押 8323番 外	-	-	-	10/28	1	36 (7,263.63)	諫山えりか	なし	なし	取扱不要	
2014170		試掘調査	民間	区画整理	江南区 丸山ノ内 善之丞組 字浦藤60番1 外	-	-	-	10/17～ 30	8	157.5 (40,874.95)	諫山えりか	溝状の落ち込み・ ピット	なし	取扱不要	
2014171		試掘調査	公共 (市)	土地売買	中央区 東方代町 777番4 外	-	-	-	10/15～ 17	3	115.18 (14,700)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2014172		試掘調査	民間	農道整備	秋葉区 小向字枳形 132番2 外	-	-	-	10/27～ 31	5	102.67 (2,182.79)	朝岡政康	なし	近世陶磁器	取扱不要	
2014173	舟戸遺跡 132	確認調査	民間	宅地造成	秋葉区 古津 2077番 外	集落跡	弥生(後期)・ 古墳(前・中期)・ 奈良・平安	弥生	10/15～ 17	3	57 (8,094)	諫山えりか	なし	弥生土器	本発掘 調査	
2014174	砂岡遺跡 406	確認調査	民間	宅地造成	江南区 砂岡二丁目 936番 外	遺物 包含地	平安	-	10/24	1	11.71 (531.03)	朝岡政康	なし	土師器(古代・客土)	慎重工事	
2014175	江内遺跡 193	確認調査	民間	貸家	秋葉区 川口字 甲252番2 外	遺物 包含地	平安・中世・近世	-	11/5	1	9.61 (393.29)	朝岡政康	なし	なし	慎重工事	
2014179	仲歩切遺跡 572	確認調査	公共 (県)	園場整備	西蒲区 道上字歩切 759番 外	遺物 包含地	奈良・平安・室町	古代	11/4～7	4	86.7 (266,000)	諫山えりか	性格不明遺構	土師器・黒色土器・須恵器・ 石製品(古代)	工事立会	
2014184		試掘調査	民間	店舗	東区 牡丹山三丁目 105番 外	-	-	-	11/14	1	22.94 (1,446.12)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2014185		試掘調査	民間	集合住宅	北区 木崎字尾山前 909番1	-	-	-	11/26	1	19.26 (1,038.97)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2014186	漆山上田遺跡 750	確認調査	公共 (県)	園場整備	西蒲区 漆山 959番 外	遺物 包含地	奈良・平安	-	11/17	1	6 (2014187と同じ)	朝岡政康	なし	なし	工事立会	
2014187	烏瀬瀬遺跡 623	確認調査	公共 (県)	園場整備	西蒲区 巻東町字小寺高 994番 外	遺物 包含地	古墳・奈良・平安	古代・近世	11/17～ 20	4	37.41 (46,129) 2014186と同じ	朝岡政康	溝(近世以降)	土師器(古代)・近世陶磁器	本発掘 調査	
2014189	細越遺跡 796	確認調査	公共 (市)	集会施設	西区 内野町 385番 外	遺物 包含地	古代	古代	12/10・ 11	2	49.16 (2,710.04)	朝岡政康	なし	なし	工事立会	
2014190		試掘調査	公共 (市)	グラウンド 整備	西区 山田 2790番1 外	-	-	-	12/16	1	24.1 (8,300)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2014195	高矢C遺跡 135	確認調査	民間	個人住宅	秋葉区 古津字南保 181番 外	遺物 包含地	古墳	-	12/25	1	9 (277.15)	諫山えりか	なし	なし	慎重工事	
2014196	牡丹山諏訪神社 古墳 767	学術調査	-	-	東区 牡丹山三丁目 106番1 外	古墳	古墳(中期)・ 古墳(中世・近世)	中世・近世	9/1～10	10	45.75	橋本博文 周濠	埴輪・須恵器(古墳)・ 珠洲焼(中世)・土師質土器・ 近世陶磁器・土製品(近世)	-	新発見遺跡 ※	
2014197		試掘調査	民間	駐車場	南区 茨曾根字丸湯 6498番1	-	-	-	1/27	1	17.79 (1,246)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2014198	秋葉遺跡 182	確認調査	民間	宅地造成	秋葉区 秋葉一丁目 7290番4 外	遺物 包含地	縄文(中～後期)・ 弥生(中期)・ 奈良・平安	縄文	1/29	1	12.58 (902.58)	朝岡政康	なし	縄文土器	慎重工事	
2014199		試掘調査	民間	工場	秋葉区 小戸上組字前田 6番 外	-	-	-	2/5・6	2	65.16 (12,332.74)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2014200		試掘調査	民間	土地売買	秋葉区 矢代田 字土居ノ内 5272番1 外	-	-	-	2/12	1	28.1 (1,956.9)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2014201	金塚山遺跡 10	確認調査	民間	個人住宅	江南区 北山字前山 53番3 外	遺物 包含地	縄文・奈良・平安	弥生・古代	2/19	1	16.75 (355.82)	朝岡政康	なし	弥生土器・ 土師器・須恵器(古代)・ 石	工事立会	
2014202		試掘調査	民間	区画整理	秋葉区 矢代田三沢沖	-	-	-	2/24～26	3	53.81 (62,000)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2014203		試掘調査	民間	工場	南区 新飯田字松子江 2099番 外	-	-	-	3/3～4	2	89.31 (8,332)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2014205	山木戸遺跡 112	確認調査	民間	店舗	東区 山木戸四丁目 448番2 外	遺物 包含地	古墳・ 奈良・平安・ 中世・近世	古代・近世	3/2	1	9.31 (608.56)	朝岡政康	なし	土師器(古代)・ 近世陶磁器(近世)・ 土製品・石製品	工事立会	
2014208		試掘調査	民間	宅地造成	江南区 横越中央三丁目 5941番 外	-	-	-	3/12	1	30.28 (2,137.41)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2014209		試掘調査	公共 (市)	市道	中央区 明石二丁目 29番2 外	-	-	-	3/20	1	31.85 (3,240)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2014210		試掘調査	民間	福祉施設	南区 庄瀬字中作 672番1 外	-	-	-	3/18	1	18 (2,473.87)	諫山えりか	なし	なし	取扱不要	
2014211		試掘調査	民間	工場	北区 鳥見町字田 2434番 外	-	-	-	3/24	1	50 (3,841.60)	諫山えりか	なし	なし	取扱不要	
2014215		試掘調査	公共 (国)	国道	中央区 鏡三丁目 外	-	-	-	8/4～3/2	5	130.4 (3,393)	佐藤友子 加藤元康	なし	なし	取扱不要	※
2014216		試掘調査	民間	集合住宅	江南区 城山二丁目 甲1228番 外	-	-	-	3/27	1	18.25 (1,701.56)	朝岡政康	井戸・溝 (近世～近代)	縄文土器・弥生土器・ 土師器・須恵器(古代)・ 近世陶磁器・土製品(近世)・ 石製品	取扱不要	
2014226	中新田久保遺跡 208	確認調査	公共 (市)	浄水場	秋葉区 万籬字久保 410番1 外	遺物 包含地	平安	平安	2/3	1	12 (19,500)	遠藤恭雄	なし	なし	工事立会	

※ 2014196(牡丹山諏訪神社古墳)は牡丹山諏訪神社古墳発掘調査団が、2014215(中央区鏡三丁目 外)は新潟県教育委員会が実施した発掘調査のため、新潟市が実施した発掘調査に含まれない。

表5 平成26年度工事立会（管内踏査）一覧（調査番号順）

調査番号	遺跡名	所在区	工事原因	調査担当	調査期間	検出 遺構	出土 遺物
2014106	下郷南遺跡	江南区	個人住宅	諫山えりか	4/8	×	×
2014108	森田遺跡	秋葉区	個人住宅	諫山えりか	4/1	×	×
2014115	山ノ家遺跡	江南区	個人住宅	諫山えりか	5/8	×	×
2014116	浦B遺跡	西蒲区	水道	廣野耕造	5/26・27	×	×
2014117	巻館跡	西蒲区	水道	廣野耕造	5/12・13	×	○
2014118	原遺跡	秋葉区	神社	廣野耕造	5/13	×	×
2014124	高矢C遺跡	秋葉区	倉庫	朝岡政康	5/23	×	×
2014125	前山遺跡	江南区	集合住宅	廣野耕造	4/22	×	×
2014127	六地山遺跡	西区	倉庫	諫山えりか	6/16~19	○	○
2014128	沢海遺跡	秋葉区	宅地造成	諫山えりか	6/16	×	×
2014129	下郷南遺跡	江南区	個人住宅	諫山えりか	6/9	×	×
2014135	下大口遺跡	北区	水道	廣野耕造	6/24	×	×
2014138	前山遺跡	江南区	ガス	廣野耕造	6/23	×	×
2014142	結七島遺跡	秋葉区	個人住宅	諫山えりか	7/4~18	×	×
2014143	細池寺道上遺跡	秋葉区	電力	諫山えりか	7/4	×	×
2014146	内野遺跡	秋葉区	個人住宅	諫山えりか	7/14	×	○
2014148	葛塚遺跡	北区	個人住宅	諫山えりか	7/15	×	×
2014149	沢海遺跡	秋葉区	宅地造成	諫山えりか	7/15 ~10/1	○	○
2014165	庄瀬館跡	南区	個人住宅	諫山えりか	10/9・10	×	×
2014168	手代山北遺跡	江南区	道路	諫山えりか	9/30	×	×
2014176	亀田四ツ興野居付遺跡	江南区	宅地造成	朝岡政康	10/23	×	○
2014177	三王山遺跡	江南区	個人住宅	朝岡政康	10/8	×	×
2014178	仲歩切遺跡	西蒲区	圃場整備	諫山えりか	1/5~2/20	○	○
2014180	中谷内遺跡	秋葉区	圃場整備	諫山えりか	10/11 ~12/1	×	○
2014181	内野遺跡	秋葉区	圃場整備	諫山えりか	10/11	×	×
2014182	沖ノ羽遺跡	秋葉区	圃場整備	諫山えりか	10/11 ~12/1	×	×
2014188	細池寺道上遺跡	秋葉区	道路	諫山えりか	11/5 ~12/10	×	×
2014191	家掛遺跡	西蒲区	圃場整備	諫山えりか	12/22 ~2/13	×	○
2014192	西江浦遺跡	秋葉区	圃場整備	廣野耕造	2/3 ~2/18	×	×
2014193	細池寺道上遺跡	秋葉区	圃場整備	諫山えりか	12/9	×	×
2014194	細池寺道上遺跡	秋葉区	圃場整備	諫山えりか	11/17 ~2/26	×	○
2014204	丸山遺跡	江南区	宅地造成	廣野耕造	2/20	×	×
2014206	下新田遺跡	西蒲区	倉庫	廣野耕造	3/11	×	×
2014207	舟戸遺跡	秋葉区	宅地造成	廣野耕造 金田拓也	3/16・17	×	×
2014212	中新田久保遺跡	秋葉区	浄水場	廣野耕造	3/5	×	×
2014213	丸山遺跡	江南区	店舗	諫山えりか	12/1	×	○
2014214	金塚山遺跡	江南区	個人住宅	諫山えりか	3/26	×	○
2014217	竹尾遺跡	東区	集合住宅	諫山えりか	3/27	×	×
2014218	下新田遺跡	西蒲区	圃場整備	諫山えりか	11/4	×	○
2014219	砂岡遺跡	江南区	ガス	諫山えりか	5/26	×	×
2014220	下田東遺跡	西蒲区	店舗	諫山えりか	10/22	×	×
2014221	栄木遺跡	江南区	排水路	朝岡政康	12/4 ~1/24	×	×
2014222	長島館跡	西蒲区	個人住宅	諫山えりか	6/3	×	×
2014223	上町遺跡	西蒲区	個人住宅	諫山えりか	7/22	×	×
2014224	大淵遺跡	江南区	個人住宅	諫山えりか	12/19	×	×
2014225	平遺跡	秋葉区	個人住宅	諫山えりか	3/27	×	○
2014227	三王山遺跡	江南区	個人住宅	諫山えりか	11/1	×	×
2014228	下田東遺跡	西蒲区	店舗	諫山えりか	11/5	×	×
2014229	細池寺道上遺跡	秋葉区	下水道	諫山えりか	10/24 ~11/18	×	×
2014230	大沢谷内遺跡	秋葉区	農道	朝岡政康	11/1 ~11/18	×	×
2014234	近世新潟町跡 (本町通1番町 172番地2地点)	中央区	集合住宅	諫山えりか	6/9	×	×

### (3) 工事立会

**概要** 工事立会は、遺跡の範囲内で行われる各種土木工事等に対し、原則として事前の試掘・確認調査で遺跡の内容を十分把握したうえで、文化庁次長通知（平成10年9月29日付庁保記第75号）及び『新潟県基準』（平成11年9月10日付教文第578号）に従って実施している。

- 具体的には、
- ・土木工事等により、明らかに遺跡の一部が破壊されるが、掘削範囲がきわめて狭小（『新潟県基準』によれば原則として掘削幅1m以下）であり、記録保存を目的とした本発掘調査の実施が困難であるもの
  - ・掘削が遺物包含層等に及ばず、保護層も確保できる見込みであるが、施工が設計通りであるか立会によって確認する必要が認められる場合 などである。

工事立会にあたっては、『法』第93条の届出・同94条の通知に対する取扱い指示文を返送する際、工事日程が決定次第連絡を求め、事業者の工程に従って本市の埋蔵文化財担当専門職員が現地へ赴くこととしている。

ただし、直前の連絡だけでは工事日程との調整が難しいため、特に長期間にわたる大規模な工事の場合、事業者へ協力を求め、あらかじめ施工者代理人を交えた打合せを綿密に行うようにしている。これにより、工事立会による工程の一部変更など、施工者側の柔軟な対応について理解を得られやすくなった。

工事立会により遺物や遺構が発見された場合は、その場で最大限の記録化を行い、出土遺物や記録類は、試掘・確認調査に準じた取扱いとしている。ただし、対象となる遺跡によっては相当量の遺物・記録類が生じることがある。加えて工事立会件数も年々増加傾向にあるため、資料も増加しているが、その整理体制や方法が確立されていない。貴重な遺跡情報としての立会結果を十分に生かすため、本書を含む『年報』の活用なども含め、大きな課題として今後の検討が必要である。

また、大規模開発や圃場整備などに関わる長期間にわたる工事立会では、限られた人数の職員での対応に困難をきたすことがある。現在は、委託作業員の活用などで維持している状態だが、土壌や遺物を見極めることのできる熟練作業員は十分な人数が確保できないことが多く、早急な解決が必要である。

平成26年度 表5の通り、51件の工事立会を行った。平成25年度の72件から約30%の減少である。秋葉区及び西蒲区内での圃場整備関係や、昨年度に引き続き個人住宅関係の案件が多い。

事前審査に係る主要な試掘・確認調査の概要を次節に示した。  
(廣野耕造)

## 2 平成26年度の事前審査に係る試掘・確認調査の概要

### (1) 原遺跡 第7・8次調査(2013188・2014111)

所在地 新潟市秋葉区程島字原244番

調査の原因 神社(両皇大神宮)建替え(民間事業)

調査期間 平成25年11月25・27日(2日間・2013188)、  
平成26年4月21日～25日(5日間・2014111)

調査面積 23.25㎡(2013188)・67.44㎡(2014111)  
(調査対象面積1736.01㎡)

調査担当 朝岡政康

処置 工事立会

**調査に至る経緯** 原遺跡北東部に位置する両皇神社社殿の建替えにあたり、遺跡の残存状況把握を目的とした確認調査(第7次・2013188)を行った。その結果、切土が行われる社殿区域に遺物包含層が遺存することが明らかになった。そこで、平成26年度に遺物包含層残存区域での遺構記録及び深層部における遺跡の有無を確認するためのトレンチによる確認調査(第8次・2014111)を実施した。その結果、遺構確認面のⅢ層内に遺物は存在しておらず、工事立会によって対応すべきと判断した。

**位置と環境** 新津丘陵の西北部に位置する(図1・3)。遺跡は北西に向かって張り出す海拔20m台のなだらかな尾根に立地する(図4)。遺跡の南に形成された解析谷を経由する峠越えは新津丘陵東麓への往来が最も容易なルートであり、本遺跡に備わる立地的な特性を表わしている。調査地は遺跡の西端付近に位置し、尾根先端部の緩傾斜地にあたる。調査地内の堆積土はⅠ～Ⅳ層に大別できる(図5)。図5に示す等高線は遺構確認面にあたるⅢ層上面地形である。

**検出遺構** 土器埋設土坑2・土坑4・ピット9基を確認した。確認面は土器埋設土坑のSK3・11がⅡ層内、これ以外がⅢ層上面である。このうちⅢ層上面を確認面とするSK9で後期後葉と晩期前葉土器が混在し(図5-7～14)、Ⅱ層内で確認されたSK3で晩期初頭土器が含まれることから(図5-1)、他の遺構についても後期後葉～晩期前葉に属す可能性が高い。2基の埋設土器における口縁部遺存率は、SK3が36%、SK11が57%である。

**出土遺物** すべてが縄文時代に属す。表面採集資料を合わせた遺物量は、コンテナケースで土器類6箱・石器類1箱・搬入礫1箱である。

土器類は口縁部遺存資料で72個体、底面遺存資料で50個体を数える。他に焼成粘土塊が7点ある。これらは中期前葉・中期中葉・後期前葉・後期中葉・後期後葉・晩期前葉・晩期中葉に大別でき、主要資料を図5～7に示



図1 調査位置図(1/10,000)

す。18・19・23・25・36・43は表面採集品である。各資料の番号末尾に胎土区分を示した。Ⅰ類は磨耗粒子を含むグループで、石英・長石・岩石からなるⅠA類と岩石に限定されるⅠB類に細分する。Ⅱ類は磨耗粒子が欠落するグループで、雲母を含むⅡA類と石英・長石・岩石からなるⅡB類に細分する。算用数字は破碎状態にある石英・長石の含有量で、多量に含むものを1、概して少ないものを2とする。末尾に示すドットはガラス質粒子(黒曜石類似粒子を含む)を含有する資料で、多量に含むものを黒で表わす。

16～27は中期前葉から後期中葉土器。本次調査では客体的な存在にとどまる。16～18は竹管工具によって平行沈線を施す中期前葉土器。17は交互刺突と隆帯、18は隆帯を複合する。19は隆帯・沈線によって口縁部文様を描く中期中葉土器である。20・21は後期前葉前半の三十稲場式土器。甕形土器の体部上端の細片で、20は刺突文、21は結節を伴う無節縄文を施す。22は後期前葉後半の南三十稲場式土器。いずれも深鉢で、22は縁帯文をもつ口縁部、26は刺突と列点を施す体上部の資料である。27は横位平行沈線に区切文を加えた後期中葉の深鉢土器。内面全体に被熱したアスファルトが付着する(写真)。

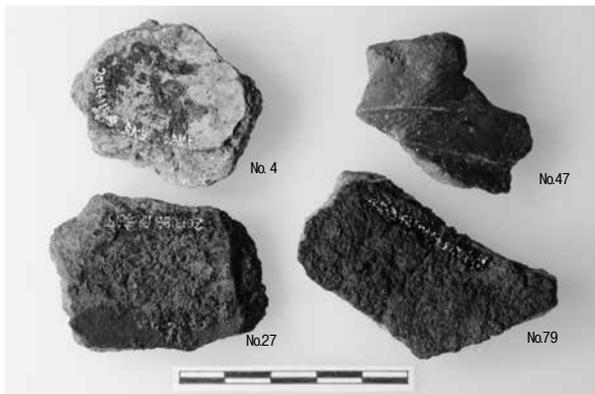
SK11出土の7～11と遺構外出土の28～42は、後期後葉の有文土器。後述の晩期初頭土器とともに本次調査の主体をなす資料である。10・28～31は波状口縁深鉢。口端区画を行う10・29・30と欠落する28・31に分かれ、28には頂部が窪んだ貼瘤を付す。7・8・33は平口縁深鉢で、33には双頭をなした小突起を配す。7は口端に縄文を施したのち、横位および斜行格子目沈線を加える。深鉢の体部には入組文などの磨消縄文や沈線文(39)を施す。34は鍵状をなした入組文の上位に十字沈線を加えた貼瘤を付す。40～42は注口土器の体部資料。40・41は磨消縄文、42は縦位凹線を加えた貼瘤と微隆起線をもつ。本時期土器群の胎土は分散傾向にある。

SK 3 出土の 1、SK 9 出土の 12~14、遺構外資料の図 6-43~58・59~64 は晩期前葉の有文土器である。1・12・43~48 は深鉢。いずれも山形突起をもち、三叉文と磨消縄文を施す。このうち 47 は、外面の突起付近に被熱したアスファルトが薄く付着する (写真)。49~51 は鉢もしくは浅鉢。49・50 は口縁部の区画内に三叉文、体部資料の 48 は入組文を施す。52~54・56 は壺の体部破片で、三叉文・入組文や列点文をもつ。13・60~62 は注口土器。下半部にあたる無文の 5・59 もこの段階に属す可能性が高い。60 は口縁部から体部上半の資料で、破損面に注口部の痕跡が残る。13・60 の体部には三叉文が描かれる。61・62 は注口部で、前者の基部に三叉文を配す。63・64 は香炉形土器の下部資料。体部下端に文様帯をもち、前者は三叉文、後者は羊歯状文を施す。本時期の資料は前半の大洞 B 式段階と後半の同 B C 式段階に二分できるが、後者の確実な資料は 64 に限定され、大半が晩期初頭に位置づけられる。本段階の有文土器の胎土も多様である。

65・66 は晩期中葉の有文土器。磨消縄文によって雲形文を描く浅鉢または鉢。彫去の浅い扁平な施文に特徴があり、大洞 C 2 式段階に位置づけられる。

3・6 (扉絵写真掲載)、67~75・77・78 は、縄文以外の文様を欠く深鉢。非結末羽状縄文 (67)・結節付斜行縄文 (68・69)・斜行縄文 (3・6・70~75)・網目状撚糸文 (77)・撚糸文 (78) の 5 種に大別できる。75 と壺形土器 76 で使用される縄は、「直前段反撚」原体による。本グループの胎土は I A 類に集中する傾向があり、ガラス質粒子の含有頻度が高い点も特徴である。体部破片の 4 と 79 では、内面に被熱したアスファルトが付着する (写真)。80~86 は底部資料。底面形態は平底 (6・15・80~82) と揚底 (83~86) に大別でき、後者の割合が 40% ほどに達する。前者の底面には、15 個体で網代圧痕 (15・81・82)、1 個体で笹の葉圧痕 (80) がみられる。

石器類は数量的に少なく、石鏃未成品 1 点・磨石 3 点・石皿+砥石 1 点・磨耗礫 3 点・微細剥離痕をもつ剥



アスファルト付着土器

片 2 点・剥片 6 点・石核 1 点の出土にとどまる。89 は SK 8、これ以外は遺構外から出土した。89 は珪質頁岩を使用する平基無茎石鏃の未成品。長さ 2.1 cm・幅 1.4 cm・重さ 1.4 g 程度の小形品である。87 は玉髓、88 は流紋岩、90 は黒曜石製の剥片。87・88 の矢印範囲に微細剥離を認める。90 は山形県月山産黒曜石とみられる。91 は花崗岩、92 は安山岩を石材とする磨石で、ともに被熱する。網点は前者が磨耗面、後者が黒化範囲を表わす。93 は砂岩を石材とする石皿+砥石で、被熱によって赤化する。磨耗によって片面が窪み、裏面を中心に線条痕が残る。以上のほかに搬入礫が 28 点 (2,224 g) 出土した。

まとめ 原遺跡は新潟市内の中で最も早く報告された遺跡であり〔犬塚 1896〕、長年に渡る踏査を通じ、縄文時代中期前葉から後期前葉までの間を中心とした新津丘陵最大規模の集落跡として知られていた〔川上 1989 a〕。さらに近年では、「耳形土製品」の数少ない出土地としても注目されている〔石原・木村 1996〕。こうしたなかで行われた今回の調査では、本遺跡のあり方を考える上で重要な以下のような知見が得られた。

第一点は遺跡の形成過程についてである。遺物の主体を占める後期後葉~晩期初頭土器群は、新津丘陵で従来皆無に等しかった資料にあたり、この時期の遺跡空白域を埋める有益な情報をもたらした。少量ながら出土した晩期中葉土器は、現時点において本遺跡の下限資料となる。図 3 のように新津丘陵北部には本遺跡を含め 5 か所の晩期遺跡が分布するが、南西約 5 km に位置する大沢谷内遺跡の成立時期と本遺跡の下限が並行関係にあることが明らかになった点は重要である。第二点はアスファルト付着土器の出土である。確認された 4 点は後期中葉から晩期前葉に属す資料である。いずれも加熱された状態にあり、本遺跡内でアスファルトの加工が行われたことを物語る。大沢谷内遺跡では成立段階にあたる晩期中葉地区からアスファルトが付着した土器や石器と共にアスファルト塊が多数出土し、流通起点となった原産地遺跡として注目されている。本遺跡のアスファルト付着土器はこれに先行する時期の資料であり、大沢谷内遺跡の成立にあたり本遺跡居住集団がこれに深く関与した可能性を示唆する。第三点は後期後葉~晩期前葉のいわゆる粗製土器において磨耗石英の含有を指標とする I A 類やガラス質粒子を含む資料が卓越する現象である。こうした含有物の内容は、本遺跡の南に流れる東島川の沢砂組成に類似することから、本遺跡で製作された土器を特徴づける混和材とみなされる。今後は大沢谷内遺跡晩期中葉地区から出土した土器との比較を通じ、両遺跡の関連性を具体的に検討していく必要がある。(前山精明)

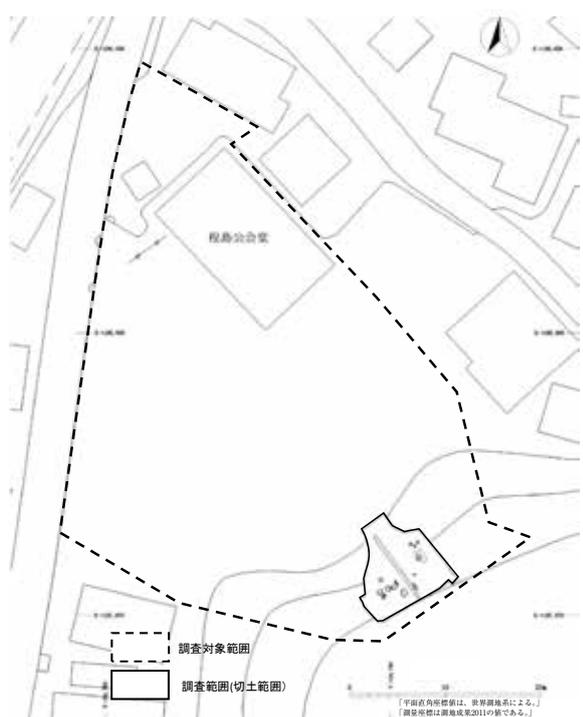
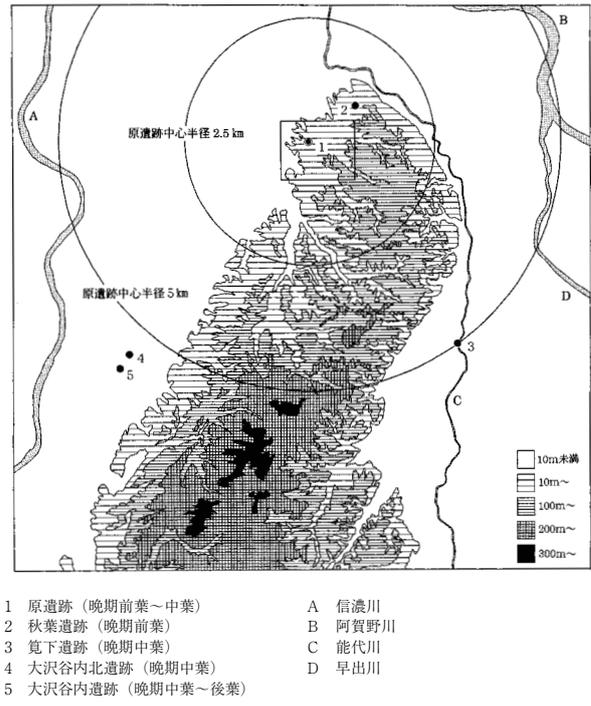


図2 トレンチ位置図 (1/800)



- 1 原遺跡 (晩期前葉~中葉)
- 2 秋葉遺跡 (晩期前葉)
- 3 笥下遺跡 (晩期中葉)
- 4 大沢谷内北遺跡 (晩期中葉)
- 5 大沢谷内遺跡 (晩期中葉~後葉)

図3 新津丘陵北部周辺の縄文時代晩期遺跡 (1/150,000)

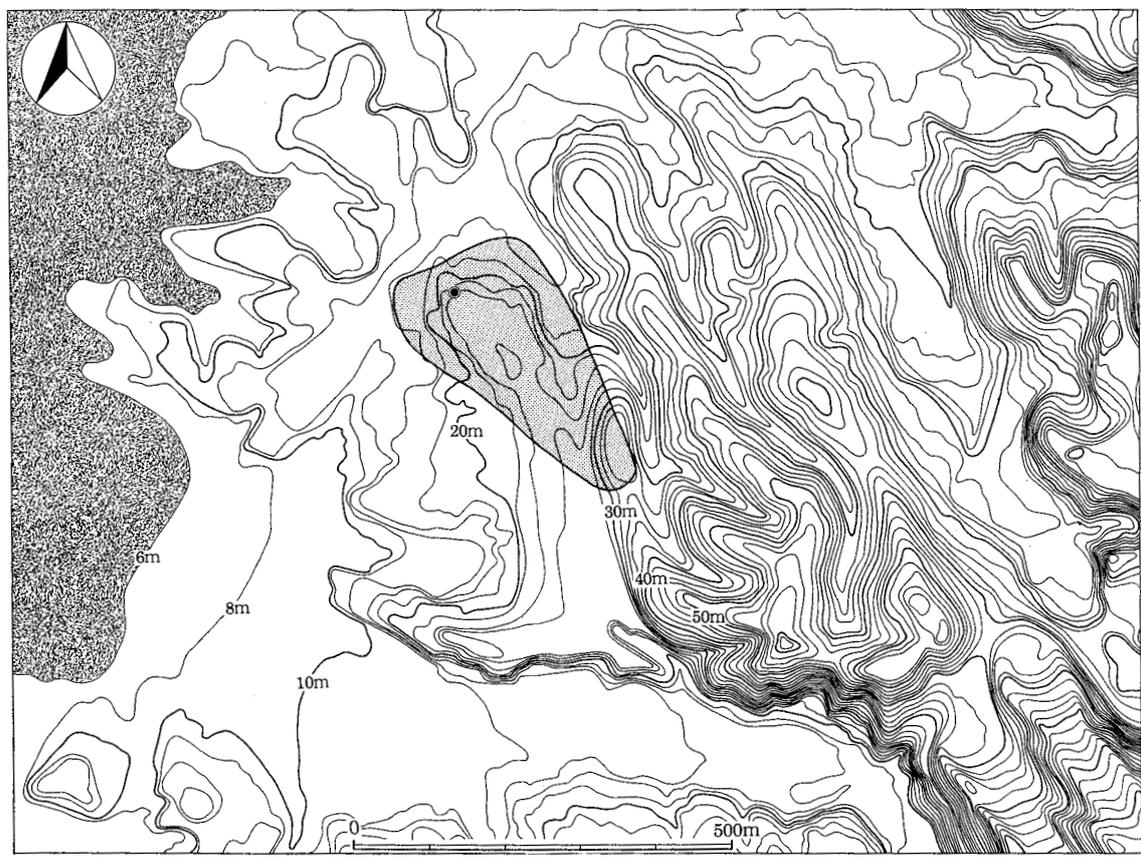


図4 原遺跡の範囲と周辺の地形 (ドットは調査地点、1/10,000)

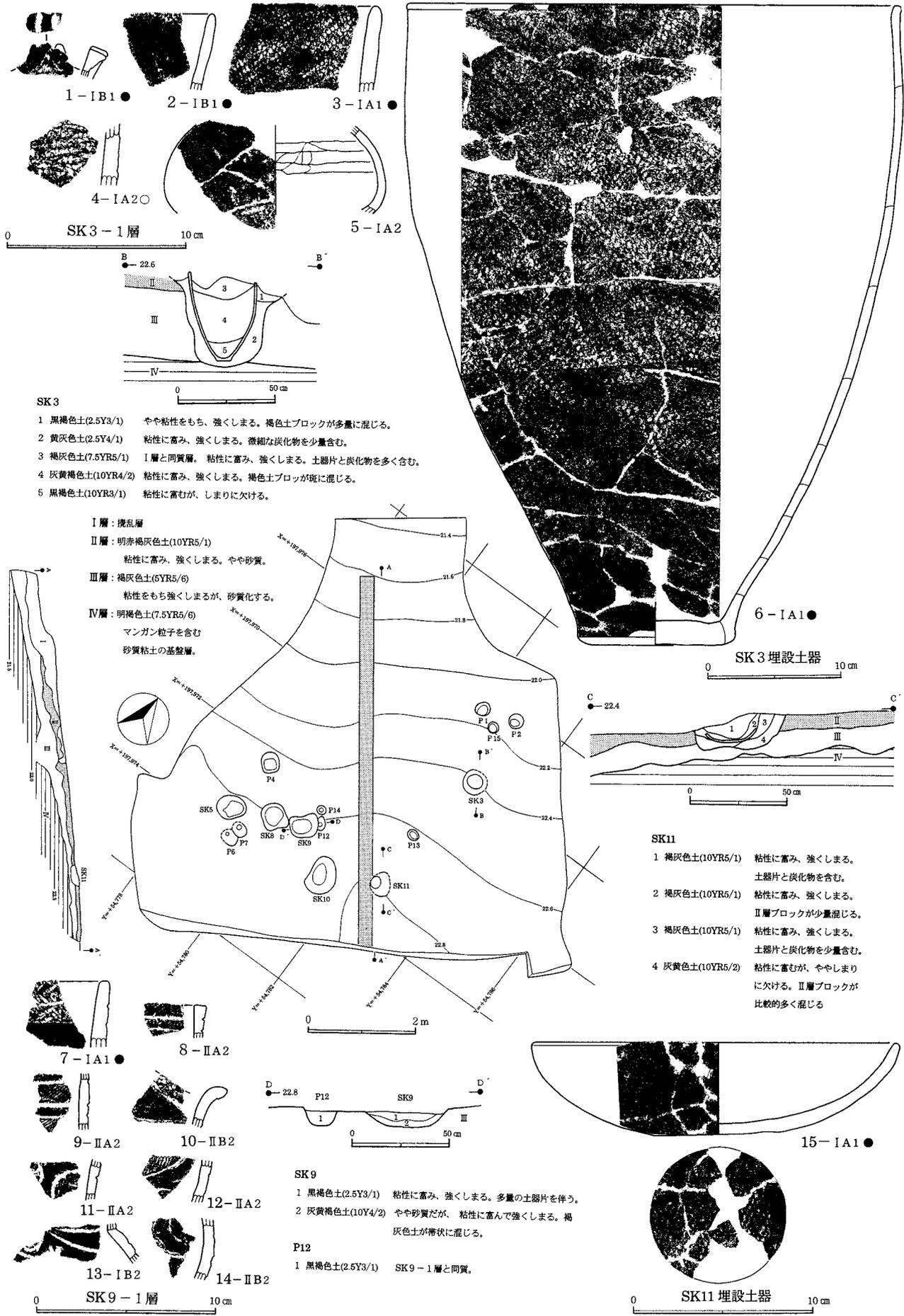


図5 遺構全体図(1/100)及び遺構断面図、遺物実測図(1/3)

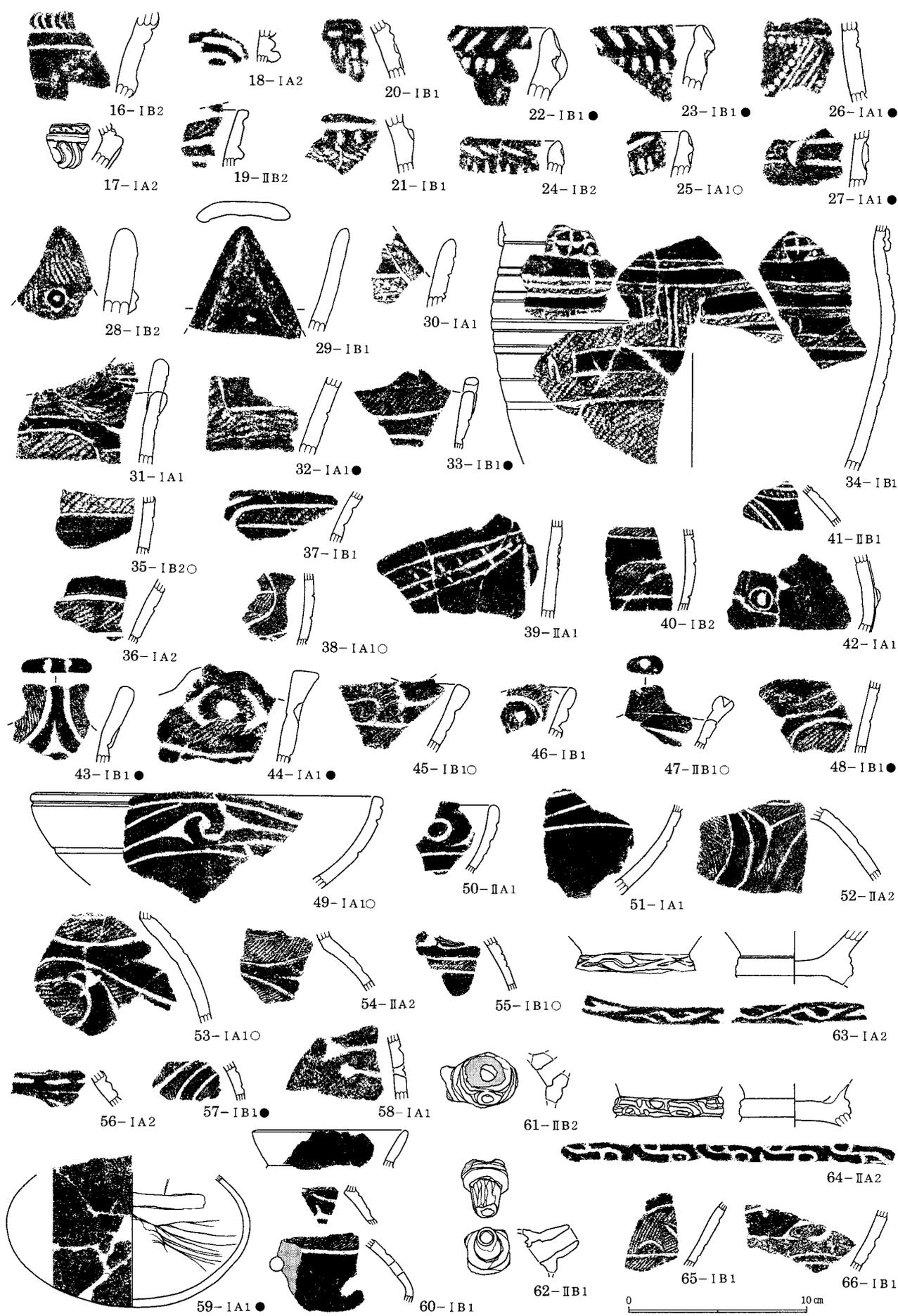


図6 遺物実測図 (1/3)

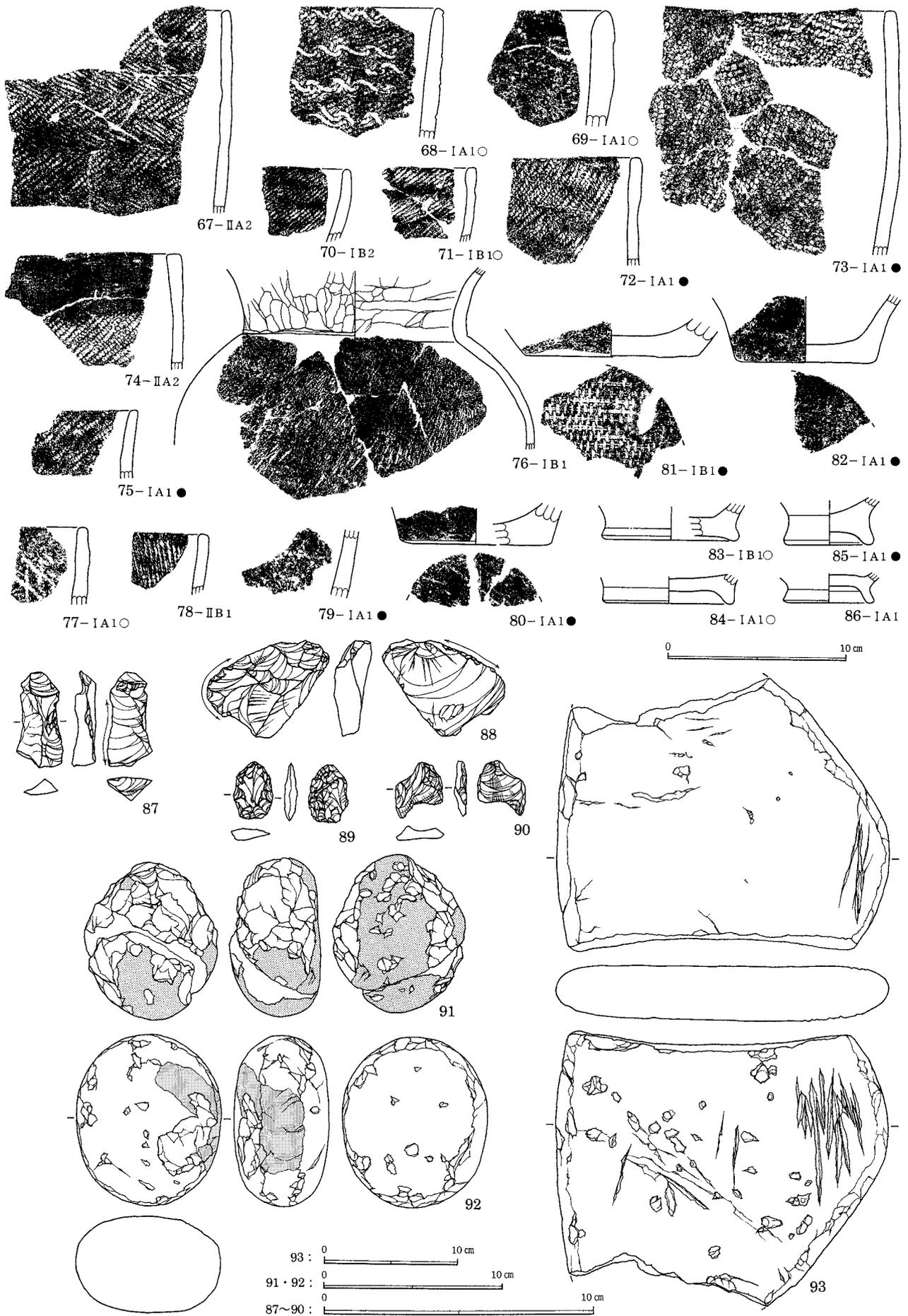


图7 遺物実測図 (1/2 · 1/3 · 1/4)

## (2) 沢海遺跡 第1・2次調査(2013190・2014112)及び工事立会(2014149)

所在地 新潟市秋葉区中村字沢海387番外

調査の原因 宅地造成(民間事業)

調査期間 平成25年6月13・14日(2日間・2013190)、平成26年4月15～17日(3日間・2014112)

調査面積 30㎡(調査対象面積約4,614.40㎡・2013190)、27㎡(調査対象面積約1,500㎡・2014112)

調査担当 諫山えりか

処置 工事立会(2014149)

**調査に至る経緯** 事業者から宅地造成に伴う照会を受けた。当該地は周知の遺跡範囲ではないが、周囲に縄文時代の山崎遺跡や原遺跡が存在していることから、遺跡が存在する可能性があった。そこで、埋蔵文化財の有無を確認するため、着手報告を提出し(平成25年6月10日付新歴B第34号の2)、試掘調査(第1次・2013190)を実施した。遺物包含層及び遺構は確認されなかったが、包含層の再堆積土より縄文土器と磨製石斧が出土した。

第1次調査では建物があったためトレンチを設定できなかった範囲について、遺物包含層の有無を確認するための追加調査が必要と判断し、着手報告を提出し(平成26年4月15日付新歴F第29号の4)、試掘調査(第2次・2014112)を実施した。

その後、工事立会(2014149)を実施しており、ここでは、工事立会の成果も合わせて記載する。

**位置と環境** 新津丘陵の北端裾部に位置する。現地標高は5.58m～12.2mで東側の新津丘陵に向かって高くなっている。現況は削平や盛土によって階段状に整地された宅地である。

**概要と層序** 1.5×2.0mのトレンチを第1次調査では10か所(1～10T)、第2次調査では9か所(11～19T)設定した(図2)。基本層序(図3)はI層:盛土、II層:再堆積層、III層:暗褐色粘土、IV層:暗褐色～褐色土、V層:黄褐色土、VI層:灰色粘土、VII層:青灰色粘土である。III層が遺物包含層であり、現地表から1.22m下である。V層が遺構確認面となる。遺物包含層は整地による掘削などにより第2次調査1T以外では残存せず、部分的に再堆積層として確認できる。再堆積層には近世以降の陶磁器と縄文土器が混在する。

**検出遺構** 第1次調査では遺構は検出されなかった。第2次調査では6Tでピットを1基検出した。工事立会では第2次調査1T周辺でピットを7基検出した。

**出土遺物** 第1次調査は縄文土器1点、磨製石斧1点、近世以降陶磁器21点が出土した。第2次調査は縄文土器19点、剥片1点、近世以降陶磁器15点、時代不明土器1

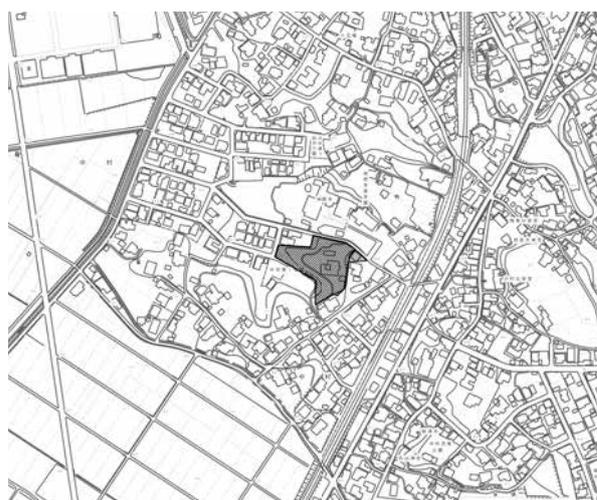


図1 調査位置図(1/10,000)



第2次調査11T東壁土層断面(西から)



工事立会11T周辺遺構出土状況(南から)

点が出土した。工事立会は縄文土器5点、剥片5点、礫1点、須恵器1点、近世以降陶磁器4点が出土した。他にアスファルタイトが5点出土している。うち9点を図化した(図4)。1は砂岩製磨製石斧、2・3は縄文晩期の深鉢、4・6は18世紀後半の肥前磁器碗、5は須恵器大甕、7は鉄石英(黄玉)・8は頁岩・9は星ヶ塔産黒曜石の剥片である。縄文土器の胎土には角閃石が多く混入し、隣接する原遺跡の縄文土器の胎土に酷似する。

**まとめ** 第2次調査の結果、1Tで遺物包含層及び遺構が確認されたことから新遺跡であると判断し、「沢海遺跡」として周知化した。取扱いは、遺跡の遺存状況が希薄なため工事立会(2014149)とし、その後の工事は慎重工事とした。(相澤裕子)

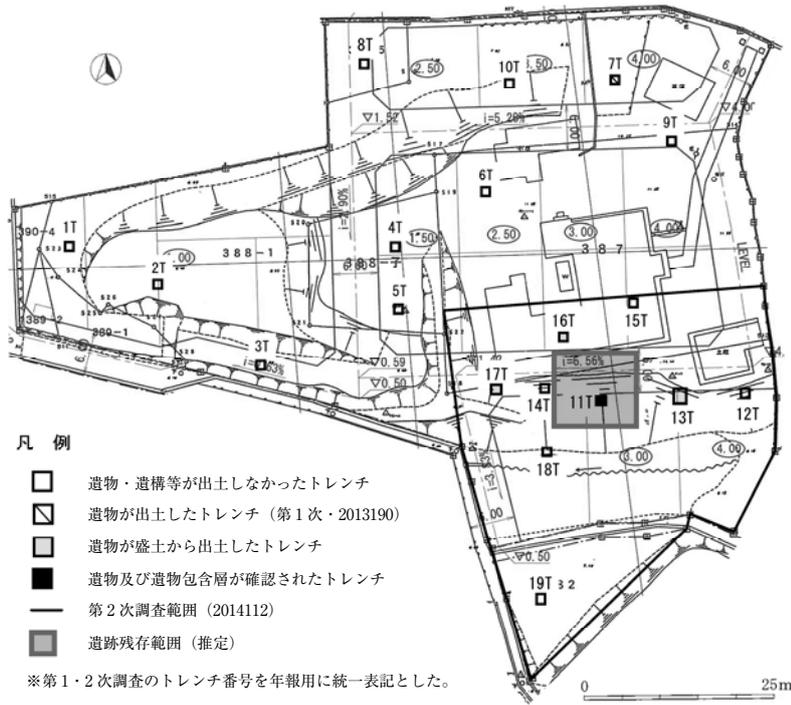


図2 トレンチ位置図 (1/1,000)

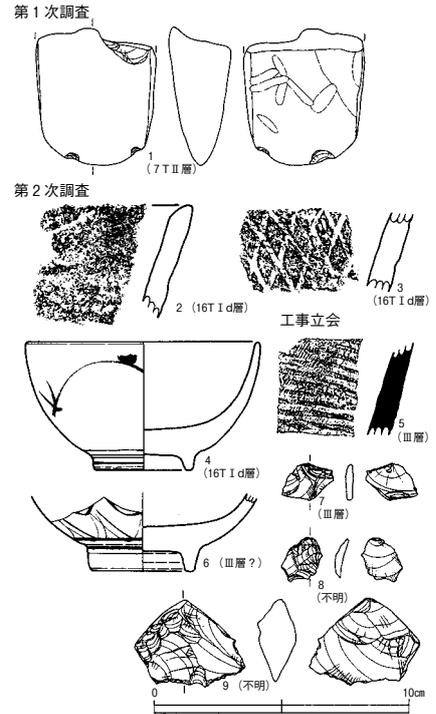


図4 遺物実測図 (1/3)

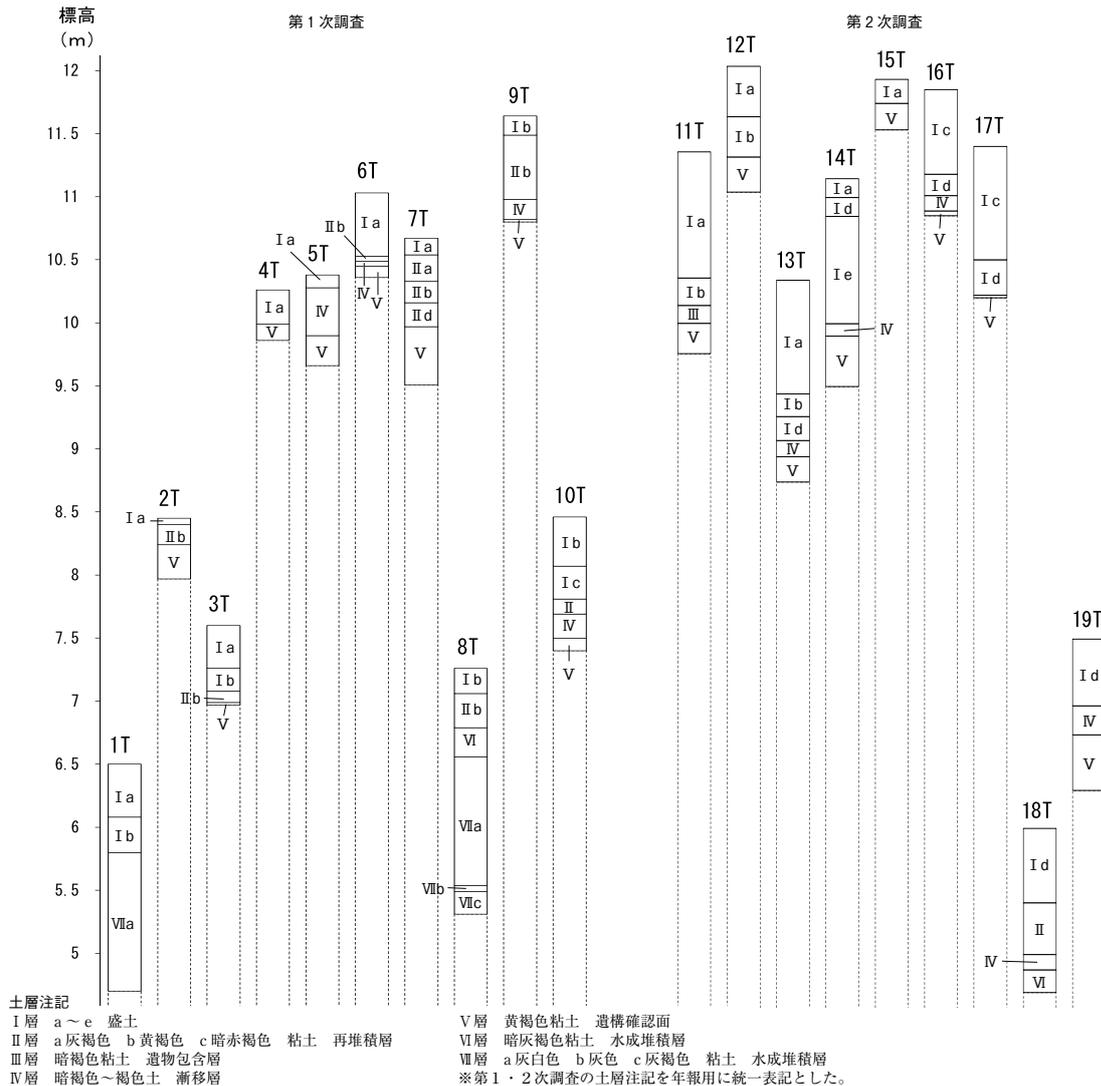


図3 土層柱状図 (1/60)

(3) 中新田久保遺跡 第3・4次調査  
(2014113・2014226)

所在地 新潟市秋葉区満願寺字久保410番1外

調査の原因 天日乾燥施設建設（公共事業）

調査期間 平成26年5月8・9・12～14日・  
8月18日（6日間・2014113）、  
平成27年2月3日（1日間・2014226）

調査面積 240.0㎡（1～31T・2014113）、  
12.0㎡（32～35T・2014226）、  
（調査対象面積19,500㎡）

調査担当 諫山えりか（2014113）、  
遠藤恭雄（2014226）

処置 工事立会

調査に至る経緯 遺跡は、平成8年の県営満日地区圃場整備に先立つ分布調査で発見された。平成25年度に新潟市水道局より満願寺浄水場天日乾燥施設（以下「施設」）建設計画が知らされ、平成26年5月8日付新歴F第54号で報告して、確認調査（第3次・2014113）を実施した（1～31T）。その後、施設計画決定を受けて、追加確認調査（第4次・2014226）を実施した（32～35T）。

位置と環境 阿賀野川左岸の自然堤防上に立地する。現況は水田で、標高は5.9～6.1mである。遺跡北西側には内野遺跡・沖ノ羽遺跡など古代から中世の遺跡が多数存在する。

概要と層序 トレンチを合計35か所設定した（図2）。

基本層序は（図3）、I a・b層：水田耕作土、II層：水田床土、III a・b層：黒褐色シルト質粘土、IV a～g層：暗灰褐色～灰白色シルト質粘土、V a・b層：灰色～青灰色シルト質粘土である。III層が遺物包含層であり、IV b層上面が主な遺構確認面である。

検出遺構 地表面から約0.3mの深さで溝1条（14T）、性格不明遺構4基（12・19・30T）が検出された。

出土遺物 出土遺物の総量は、コンテナケースに2箱である。14・19TのIII b層を中心に平安時代の土師器・須恵器が134点出土した。内訳は土師器130点、黒色土器1点、須恵器3点で、このうち8点を図化した（図4）。土師器煮炊具（2・4・8）の口縁部形状から概ね9世紀代に収まると考えられる。このほか、20・21TのI・II層では近世陶磁器も混じる。

まとめ 調査対象範囲中央から南寄りの12・14～19・30Tで平安時代と推定される遺構・遺物が確認された。取扱いについては、遺構・遺物の確認された範囲が今回の施設建設計画に含まれず、遺跡への影響が軽微であることから工事立会とした。今後施設の拡張が行われる際には、本発掘調査が必要である。（遠藤恭雄）



図1 調査位置図（1/10,000）

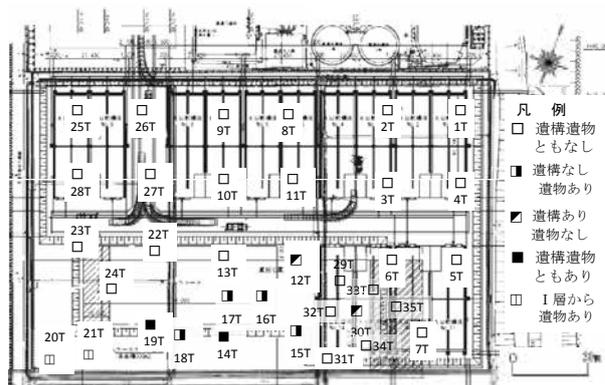


図2 トレンチ位置図（1/3,000）

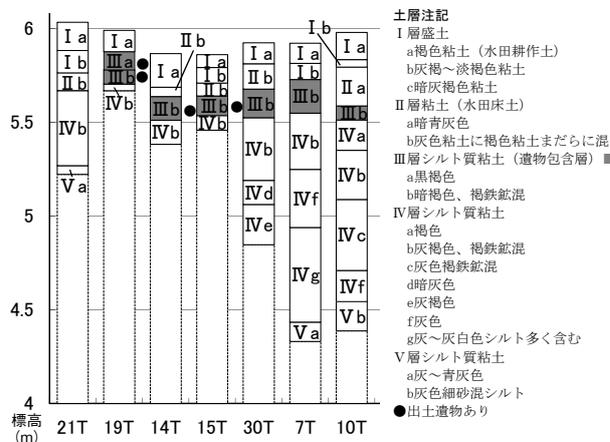
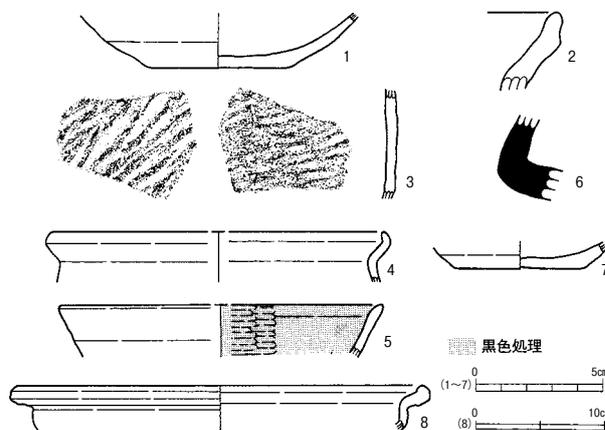


図3 土層柱状図（1/40）



1～6：14T III b層 7：17T III b層 8：19T III b層

図4 遺物実測図（1/3・1/6）

#### (4) 内畑遺跡 第1次調査 (2014119)

所在地 新潟市秋葉区結字内畑184番4 外

調査の原因 宅地造成 (民間事業)

調査期間 平成26年5月15・16日、7月8・11日  
(4日間)

調査面積 82.7㎡ (調査対象面積3,843.29㎡)

調査担当 朝岡政康

処置 慎重工事

**調査に至る経緯** 宅地造成に伴い、埋蔵文化財の有無を確認するため、平成26年5月14日付で着手報告を提出し、試掘調査(第1次・2014119)を実施した。5月15・16日に行った試掘調査の結果、新たな遺跡の存在が明らかとなった。これを受けて7月8・11日に追加調査を実施し、遺跡の範囲を確定した。その後、平成27年2月17日付で『法』第93条の届出が提出された。

**位置と環境** 内畑遺跡は能代川左岸の自然堤防上に立地する。現地標高は4.7m前後で、現在は畑地となっている。約100m西には古墳時代と古代の集落跡である結七島遺跡が位置している。

**概要と層序** 13か所のトレンチを設定した(図2)。基本層序はI層:畑耕作土、II層:にぶい黄褐色シルト、III層:灰黄褐色シルト、IV層:にぶい黄褐色シルト、V層:灰黄褐色シルト、VI層:灰黄褐色シルト、VII層:褐灰色シルト、VIII層:黒色粘土、IX層:黄灰色粘土、X層:青灰色粘土、XI層:暗褐色粘土(ガツボ層)である。柱状図は遺物が出土したトレンチ周辺を抜粋して、図3に示した。6TのVIII層で遺物が出土した他、9TではVII層を細分した最下層であるVIIc層で遺物が出土している。いずれも現地表面から1.8~1.9m下で確認された。

**検出遺構** 遺構は検出されなかった。

**出土遺物** 6Tで須恵器1点、9Tで土師器31点が出土し、うち4点図化した(図4)。1~3は土師器の甕である。土師器は調査当初、古墳時代としたが、3の形態をみると7・8世紀代の土器と推定される。土師器はすべて9Tの同一層から出土していることから、1・2や他の土師器も3と同時期である可能性を持つ。4は須恵器無台杯で、体部は丸みを持って立ち上がる。新津丘陵産で、時

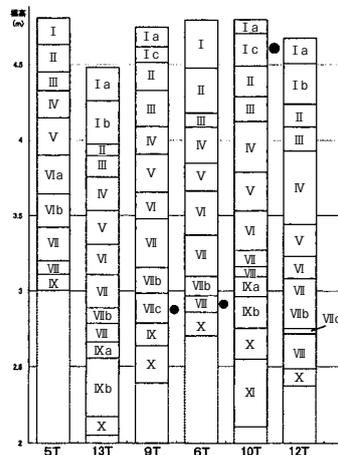


図3 土層柱状図 (1/50)

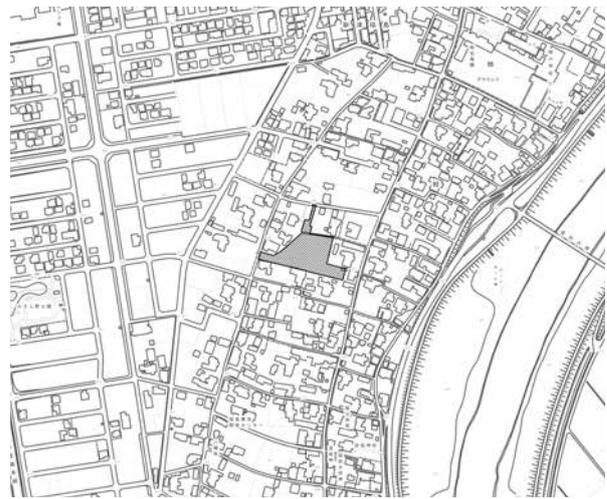


図1 調査位置図 (1/10,000)

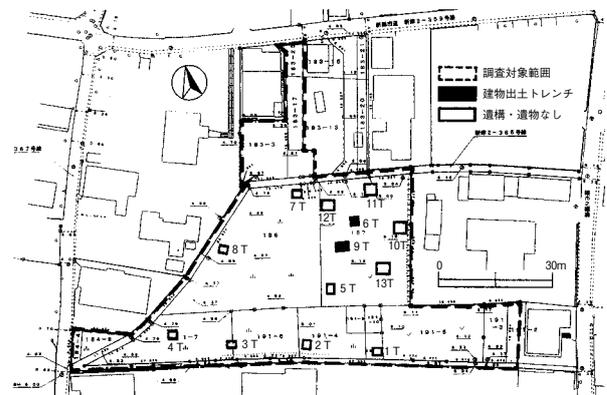


図2 トレンチ位置図 (1/2,000)

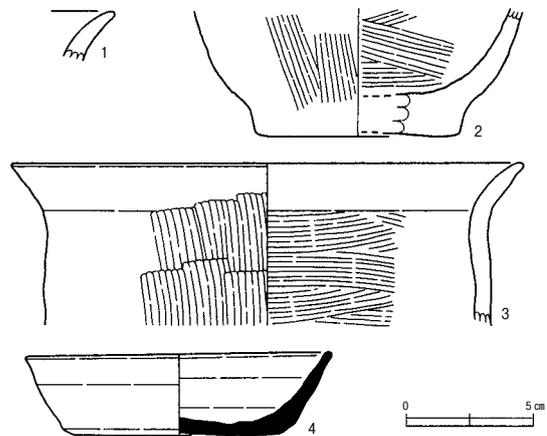


図4 遺物実測図 (1/3)

期は8世紀後半から9世紀前半と推定される。

**まとめ** 調査結果を受け、「内畑遺跡」として新たに周知化された。本遺跡では遺物の出土範囲が狭小で生活痕跡も希薄であった。これは、「水田の大畦畔上に遺物が集中し、この範囲外では出土数が極端に減少する」という西部遺跡〔土本ほか2008〕の様相と類似するため、内畑遺跡は水田域中の遺物集中地点にあつた可能性があるという所見がなされている。取扱いは遺跡への影響が少なくなるよう設計変更されたため、慎重工事とした。  
(澤野慶子)

(5) 六地山遺跡 第11次調査 (2014122)  
及び工事立会 (2014127)

所在地 新潟市西区曾和字沢田381番1 外  
調査の原因 農業用倉庫建設 (民間事業)  
調査期間 平成26年5月21日 (1日間)  
調査面積 19.5㎡ (対象面積696.26㎡)  
調査担当 諫山えりか  
処置 工事立会 (2014127)

**調査に至る経緯** 周知の遺跡範囲内で農業用倉庫建設 (建築面積243㎡) と敷地境界のブロック土留め新設計画の届出が出された (平成26年5月16日付)。これを受けて、取扱いを判断するために確認調査 (第11次・2014122) を実施した (新歴B第35号の3)。調査の結果、遺跡は良好な状態で遺存していないと判断されたため、工事立会の指示を行い、6月16~20日 (5日間) に工事立会を実施した (2014127)。ここでは、確認調査及び工事立会の成果を記載する。

**位置と環境** 遺跡は低湿地に囲まれた残丘状の砂丘列 (新砂丘Ⅱ-a) に立地し、南西から北東方向に長さ約950mに分布する。遺跡が立地する砂丘列は、北東側で標高が高く幅も160m程と広いが、南に行くにつれて低く幅も10m程と狭くなる。昭和31 (1956) 年に中村孝三郎氏等によって発掘調査が行われて [寺村1960] からこれまでに10回以上の確認調査が行われている。なお、砂丘列は削平等により旧地形を保っていないが、周辺の水田下からは埋没した砂丘列と弥生時代後期の遺物包含層が良好な状態で遺存していることが判明している (1982102・2007123) [甘粕ほか1986、新潟市史編さん原始古代中世部会1994]。今回の開発予定地は遺跡の北東端付近の砂丘上にあり、1956年の発掘調査地点の南側に隣接する場所と推測される。現在の標高は約2.8mである。

**第11次調査の概要** 5か所のトレンチを設定した。基本層序は以下のとおりである。Ⅰ層：碎石等の盛土、Ⅱ層：黒褐色砂層 (遺物包含層)、Ⅲ層：褐色混じり黄褐色砂層 (漸移層)、Ⅳa層：明黄褐色砂層 (砂丘基盤層)、Ⅳb層：暗黄褐色砂層 (砂丘基盤層)。

砂丘上の遺跡のために全体に攪乱が著しく、遺構は検出されなかった。遺物もⅡ層の遺物包含層から出土したのは4Tのみで、1T・3Tは盛土出土である (1~5)。

**工事立会の概要** 倉庫の布基礎を掘削する際に工事立会を行い、北側部分で遺物包含層や遺構が検出された。検出された土坑・溝・性格不明遺構8基の調査を行い、図面や写真等の最低限の記録を取った。なお、遺構出土遺物は小破片が多く所属時期を特定するに至っていない。

**出土遺物** 確認調査・工事立会で出土した遺物は表1



図1 調査位置図 (1/10,000)

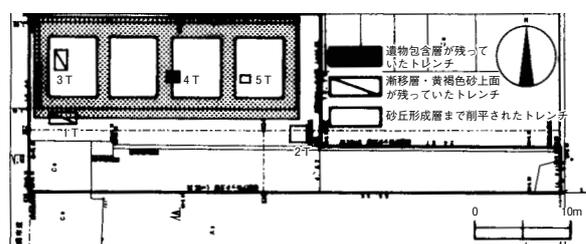


図2 第11次調査トレンチ位置図 (1/800)

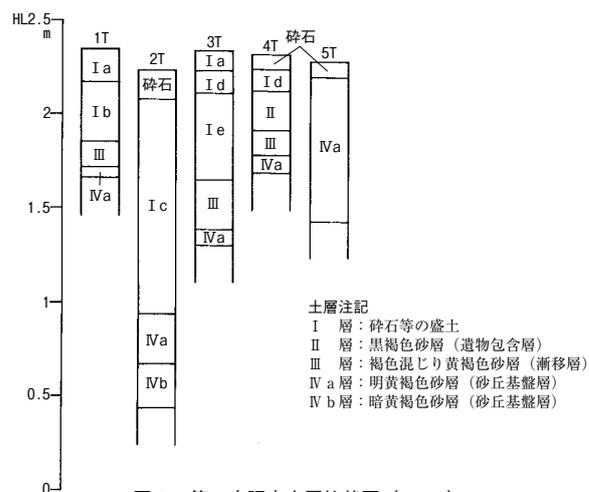


図3 第11次調査土層柱状図 (1/40)

のとおりである。弥生土器 (1~7・9~12)、古墳時代前期の土師器 (13)、須恵器 (15~19)、珠洲焼 (20) 等がある。表では小破片で弥生土器か土師器か判断できないものは弥生土器に含めた。弥生土器は後期の天王山式系が主体でR L縄文が目立つ。9は2本描きでⅢ文様帯上半に鋸歯文を入れるもの。8は厚手の口縁部破片で古墳時代後期から古代の鉢か甕。須恵器には無台杯 (15・16)・横瓶 (17・19)・甕 (18) がある。21は安山岩製の磨製石斧で、縄文時代の可能性がある。

**まとめ** 包含層とされたⅡ層からは弥生時代から古代の遺物が出土した。1982年の確認調査でも弥生土器と須恵器が混在し、弥生土器のみが出土するのはⅣb層以下だったので、同様な調査所見と言えよう。(渡邊朋和)

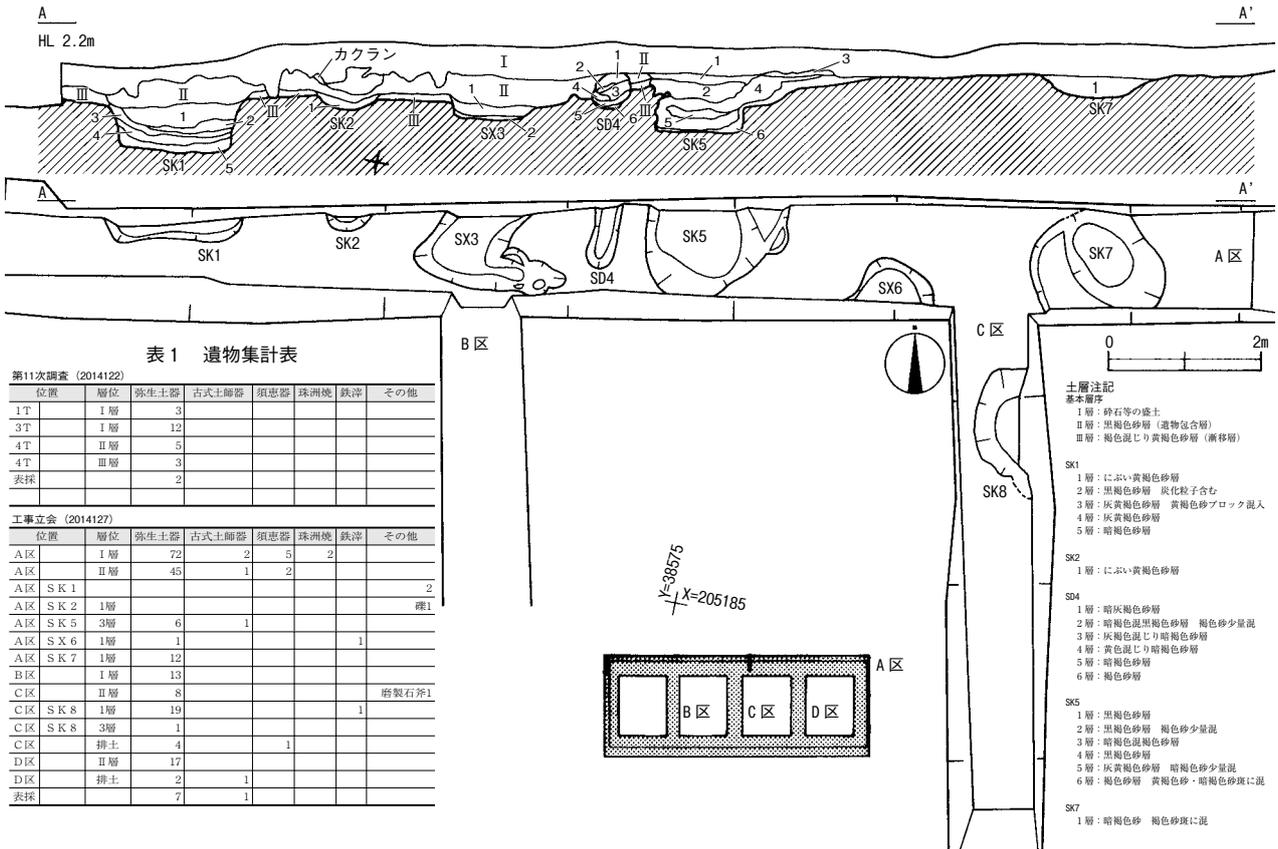


図4 工事立会範囲図（1/800）及び遺構平面図・断面図（1/100）

第11次調査

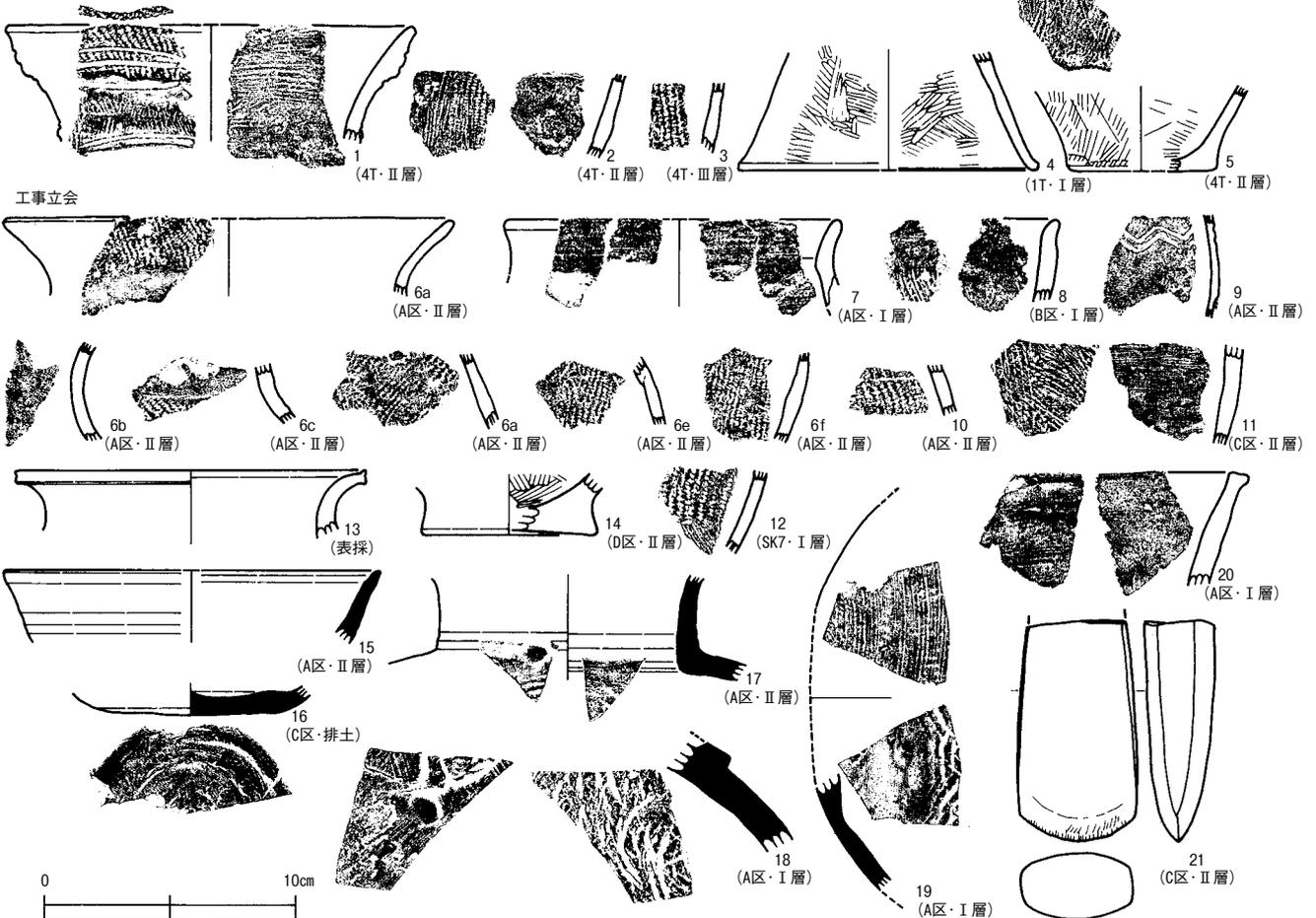


図5 遺物実測図（1/3）



六地山遺跡と周辺の遺跡 (1948年米軍撮影 空中写真)



第11次調査4 T北壁土層断面 (南から)



工事立会全景 (東から)



工事立会A区遺構検出状況 (南東から)



工事立会A区遺構完掘状況 (西から)

(6) 下田東遺跡 第1・2次調査(2014140・2014150)

所在地 新潟市西蒲区竹野町字下田2456番1

調査の原因 店舗建設(民間事業)

調査期間 平成26年7月7日(1日間・2014140)、  
平成26年7月17・18・22日  
(3日間・2014150)

調査面積 27㎡(2014140)・22.5㎡(2014150)、  
(工事対象面積1948.48㎡)

調査担当 諫山えりか

処置 工事立会

**調査に至る経緯** 遺跡の存否確認を目的とした試掘調査(第1次・2014140)にあたり、鉄鏃が単独で出土した。これに続く確認調査(第2次・2014150)は、第1次調査時の掘削深度が不足した恐れがあるため、簡易矢板を打設して実施したものである。

**位置と環境** 角田山の東麓に形成された低丘陵の裾から150mほど平野寄りの旧水田区域に位置する。調査地の地形は南東に向かって緩やかに傾斜し、旧田面から1mまでのI層～IV層で粘土層、1mから2.5mまでのV～VII層で河川氾濫層、それ以下のVIII～XII層で未分解有機物を含む沼地堆積層を確認した。

**出土遺物** II層から土師器1点、V層から鉄鏃1点、Xc層から縄文土器片3個体分と石核・剥片1点ずつが出土した。1は内・外面に右回転のロクロ成形痕と糸切痕をもつ土師器無台椀。底径5cmを測り、9世紀後半に



図1 調査位置図(1/10,000)

位置づけられる。2の鉄鏃は先端部を欠損するが、推定長7.5cmの「正三角形腸袂式有茎鏃」である。所属時期は明確でない。4は端部が平坦な縄文土器で、植物繊維を微量に含む。LR・RL原体による非結束羽状縄文を施し、前期前半に位置づけられる。3は流紋岩製の石核。剥離面の打点付近にポジ(●)とネガ(○)の別を示した。

**まとめ** 角田山麓では、丘陵裾部に立地する遺跡の多くが隣接する沖積面下に遺物包含層を形成する。調査地の北西側は削平によって平坦地化しているが、居住空間として機能した微高地が付近に存在した可能性が高い。

取扱いは調査地付近には安定的な遺物包含層の存在が予想されたが、保護層が確保されることから工事立会で対応することとなった。(前山精明)

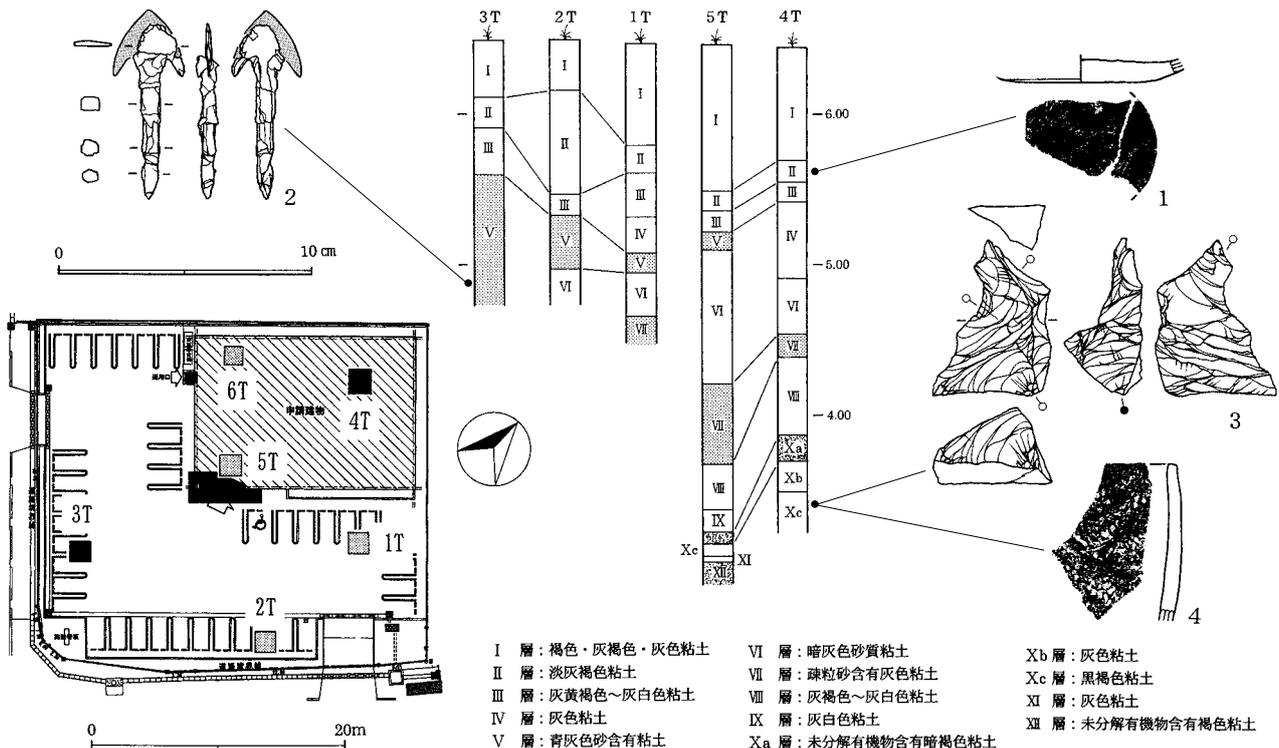


図2 トレンチ位置図(1/60)及び土層柱状図(1/50)、遺物実測図(1/3)

### (7) 舟戸遺跡 第23次調査 (2014152)

所在地 新潟市秋葉区西島字桜大門28番6・13

調査の原因 個人住宅建設 (民間事業)

調査期間 平成26年8月22日 (1日間)

調査面積 8.32㎡ (調査対象面積299.65㎡)

調査担当 諫山えりか

処置 慎重工事

**調査に至る経緯** 舟戸遺跡は昭和20年代後半の耕地整理によって発見された遺跡である。平成5年に本発掘調査が行われて以後 (第2次・1993004)〔川上1995〕、20回以上の確認調査が行われている。

個人住宅建設に伴い、『法』第93条の届出が提出された (平成26年8月18日付)。取扱いを決めるため、着手報告を提出し (平成26年8月22日付新歴B第94号の3)、確認調査 (第23次・2014152) を実施した。

**位置と環境** 舟戸遺跡は新津丘陵北西側の裾部から広がる沖積地にあり、金津川の扇状地から自然堤防上の微高地に立地する。調査地は舟戸遺跡の範囲内でも北東部に位置し (図1)、現地標高は6.8m程度である。現況は住宅地となっている。

これまでの調査で、第2次調査では古墳時代中期を中心とした集落跡が確認されているほか、弥生・古代・中世の遺物が確認されている〔川上前掲、相田2015〕。

古墳時代には周辺に塩辛遺跡や高矢C遺跡などが所在しており、近隣に位置する古津八幡山古墳と係わる広大な集落域として注目されている。

**概要と層序** 3.2×2.6mのトレンチを1か所設定した。

基本層序は、Ⅰa・b層：盛土、Ⅱ層：灰白色に暗灰色混じり粘土、Ⅲa・b・c層：シルト質粘土、Ⅳ層：暗灰褐色粗砂混粘土 (φ0.5~1cmの炭少量混じる)、Ⅴ層：灰色粘土である (図2)。

Ⅳ層が遺物包含層であり、層上面は現地表面から1.85m下より確認されている。

**検出遺構** 遺構は検出されなかった。

**出土遺物** Ⅳ層より遺物62点 (破片数) が出土した。内訳は土師器50点、須恵器8点、不明土製品3点、軽石1点である (表1)。このうち7点を図化した (図3・表2)。

1は土師器小甕の口縁部から体部上半の破片資料である。口縁部が外反する。外面体部に縦位のハケメ調整が、内面頸部に横位のハケメ調整が施される。口縁部はナデ調整が施されている。2は土師器小甕の頸部から体部上半の破片資料である。外面体部に縦位のハケメ調整が施され、頸部及び内面にナデ調整が施されている。3は土師器長甕の口縁部から体部上半の破片資料である。



図1 調査位置図 (1/10,000)



調査地近景 (西から)



東壁土層断面 (北西から)

外面体部に縦位のハケメ調整が施され、口縁部及び内面にナデ調整が施されている。1~3は全て胎土には比較的粒径の大きな (φ1mm前後) 石英や長石、角閃石等が含まれている。

4は須恵器無台杯の口縁部から体部の破片資料である。胎土には微細石英粒が含まれる。5は須恵器無台杯の体部下半から底部の破片資料である。胎土には微細石

英粒が含まれている。内外面が灰白色を呈し、焼成が甘い。新津丘陵窯跡群産である。6は須恵器甕の体部上半の破片資料である。外面体部に平行タタキメが、内面体部に同心円当て具痕が確認できる。また、外面体部上半には自然釉がかかっている。胎土には微細な石英や長石、角閃石が含まれる。7は須恵器甕の体部の破片資料である。外面調整に平行タタキメが、内面体部に同心円当て具痕が確認できる。外面には縦位の縞状に自然釉が垂れた痕跡が確認できる。胎土には微細な石英や長石、角閃石が含まれており、6と類似している。

1～7の全ての時期は、春日Ⅳ期前後〔春日1999〕の8～9世紀の可能性が高い。

まとめ 遺物包含層より古代の土師器・須恵器が確認された。これまでの調査によって、弥生時代から古墳時代・古代・中世と各時代の遺物や遺構が確認されている。さらに、平成27年度に行われた本発掘調査では、新たに縄文土器が出土した。そのため、舟戸遺跡では縄文時代から中世さらにそれ以降も、連続と継続していないにしても断続的に、人々が生活ないし活動していることがこれまでの発掘調査成果の蓄積によって判明してきた。また、これまでの調査では主に舟戸遺跡の南側で遺

物や遺構が確認されていたのに対して、今回の第23次調査は舟戸遺跡の北側に位置しており、舟戸遺跡の北側では古代に人々が活動していたことが新たに分かった。

取扱いについては、基礎工事の掘削が遺物包含層に及ばないため、慎重工事とした。(金田拓也)

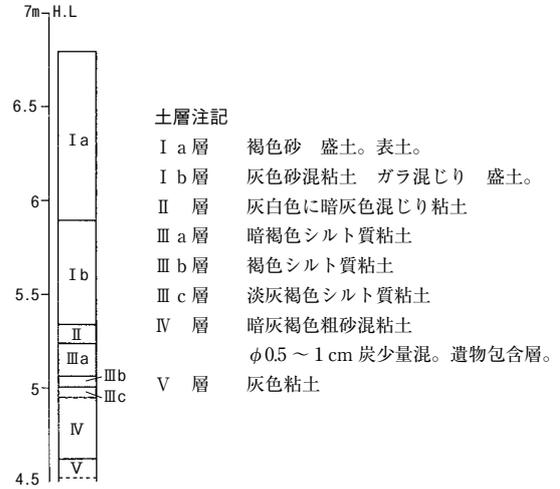


図2 土層柱状図 (1/40)

表1 遺物集計表

トレンチ名	層位	種別 (破片数、括弧は重量(g))			
		土師器	須恵器	土製品	軽石
1T	Ⅳ層	50 (390.5)	8 (254.0)	3 (13.0)	1 (39.5)

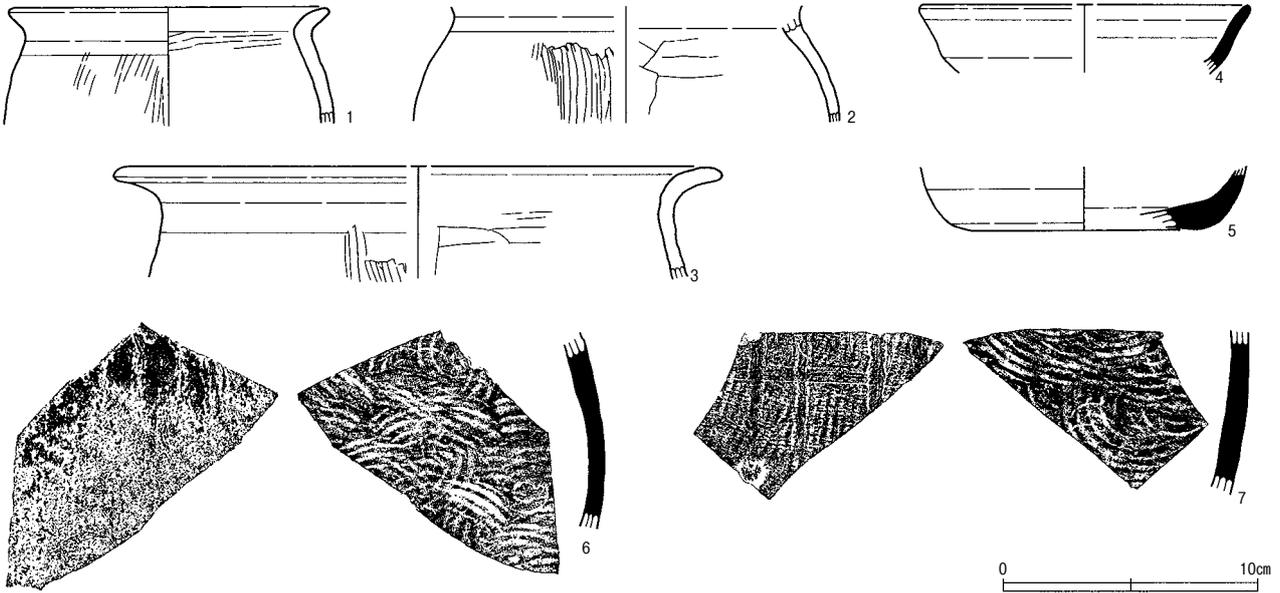


図3 遺物実測図 (1/3)

表2 遺物観察表

掲載No.	層位	種別	器種	法量			色調		胎土	焼成	調整		遺存率		備考
				口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	口縁部	底部	
1	Ⅳ層	土師器	小甕	122	-	-	浅黄橙 (10YR8/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英・長石・角閃石・焼土	酸化	口：ナデ 体：ハケメ	口：ナデ 頸：ハケメ	7/36	-	
2	Ⅳ層	土師器	小甕	-	-	-	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英・長石・角閃石・焼土	酸化	頸：ナデ 体：ハケメ	ナデ	3/36	-	
3	Ⅳ層	土師器	甕	23.0	-	-	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	石英・長石・角閃石・焼土	酸化	口：ナデ 体：ハケメ	ナデ	3/36	-	
4	Ⅳ層	須恵器	無台杯	13.0	-	-	灰 (N5/)	灰 (N6/)	石英	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	2/36	-	
5	Ⅳ層	須恵器	無台杯	-	9.0	-	灰白 (2.5Y8/1)	灰白 (2.5Y8/1)	石英	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	-	6/36	新津丘陵窯跡群産。
6	Ⅳ層	須恵器	甕	-	-	-	灰白 (N7/)	灰 (N6/)	石英・長石・角閃石	還元	平行タタキメ	同心円当て具	-	-	自然釉付着。
7	Ⅳ層	須恵器	甕	-	-	-	灰 (5Y6/1)	灰 (5Y6/1)	石英・長石・角閃石	還元	平行タタキメ	同心円当て具	-	-	自然釉付着。

(8) 高矢C遺跡 第8次調査 (2014155)

所在地 新潟市秋葉区古津字本村239番1 外

調査の原因 宅地造成 (民間事業)

調査期間 平成26年8月26・27日 (2日間)

調査面積 48㎡ (調査対象面積1,925.86㎡)

調査担当 朝岡政康

処置 開発中止

**調査に至る経緯** 調査対象地では宅地造成が計画され、平成26年8月18日に土地所有者より事前調査の依頼が歴史文化課に提出された。それを受けて、平成26年8月22日付新歴B第95号の2で着手報告を行い、確認調査に着手した (第8次・2014155)。

**位置と環境** 高矢C遺跡は国史跡古津八幡山遺跡の北北西に続く新津丘陵縁辺部の台地上に立地し、東西380m、南北200mの範囲に広がっている。調査地点の標高は7.7m程で、現況は南東から北西に向かってわずかに低くなっている。

新津市史によれば、本遺跡は昭和43 (1968) 年に水道工事中に古墳時代の小形丸底壺が出土したことにより、「古津諏訪神社前遺跡」として周知化された〔川上1989a〕。その後、昭和61 (1986) 年に高矢C遺跡として名称変更を行い現在に至っている。この他に本遺跡では、これまでの確認調査や工事立会では古墳時代の遺物は検出されていないようだが、古墳時代の遺跡とすれば、古津八幡山古墳との関連から注目される遺跡である。

本遺跡のある台地上から周辺の扇状地や沖積地にかけては、1km四方の範囲に塩辛遺跡・舟戸遺跡・森田遺跡・山脇遺跡など弥生時代中期後半～古墳時代、古代・中世の遺跡が広範囲に分布している。現在は、立地等によって個別の遺跡として周知化されているが、本来は一体の遺跡として土地利用形態を考察する必要がある。

**概要と層序** 現況は宅地であり、住居や蔵・ガレージなどがあるために、調査可能な場所を選定して5か所のトレンチを設定した。基本層序は以下のとおりである。

I a層：盛土、I b層：黒色土層 (表土)、I c層：黒褐色シルト層、II層：オリーブ黒色土層 (遺物包含層)、III層：明黄褐色シルト層 (遺構確認面)、IV a層：黄褐色砂層、IV b層：灰黄褐色砂層、V層：砂利層、VI a層：灰白色シルト層、VI b層：灰白色粘土層。II層が遺物包含層、III層が遺構確認面で、III層以下が台地の基盤層と考えられる。現地表面からII層もしくはIII層までの深度は15～60cm程しかなく、極めて浅い。

1 Tではより古い時代の遺物包含層の有無を確認するために地表から約2.5mの調査を行ったが、遺構・遺物は検出されなかった。



図1 調査位置図 (1/10,000)



1 T 西壁土層断面 (東から)

**検出遺構** 全てのトレンチのIII層上面で遺構が検出された。1 T：ピット、2 T：土坑4基・溝2基・ピット2基、3 T：溝1基・ピット3基、4 T：ピット4基、5 T：ピット1基である。遺構からは古代・中世の遺物が出土しているが、遺構出土遺物は中世が主体のように見受けられる。

**出土遺物** 出土遺物は以下のとおり古代・中世の遺物が主体を占める。2 T-SD1：珠洲焼播鉢1点 (図5-2)・須恵器2点・土師器1点・羽口1点 (6)・焼人骨? 10点・不明土製品 (4・5)、2 T-SK4：越前焼播鉢1点 (1)・土師器1点、2 T-SK5：須恵器1点 (3)・土師器2点、3 T-II層：土師器37点 (7・8)、4 T：土師器1点 (9)である。須恵器・土師器は平安時代、珠洲焼播鉢は吉岡編年VI期と考えられ、15世紀代であろう。羽口や不明土製品は製鉄関連遺物と推測される。

**まとめ** 今回の調査地点の西北西約230m地点で平成18年度に実施した確認調査 (第5次・2006124) では、96㎡程の調査面積であったが、溝・土坑・ピット等の遺構が高密度で検出されるとともに、平安時代の須恵器・土師器・製鉄関連遺物を主に、中世の遺物が若干出土している。 (渡邊朋和)

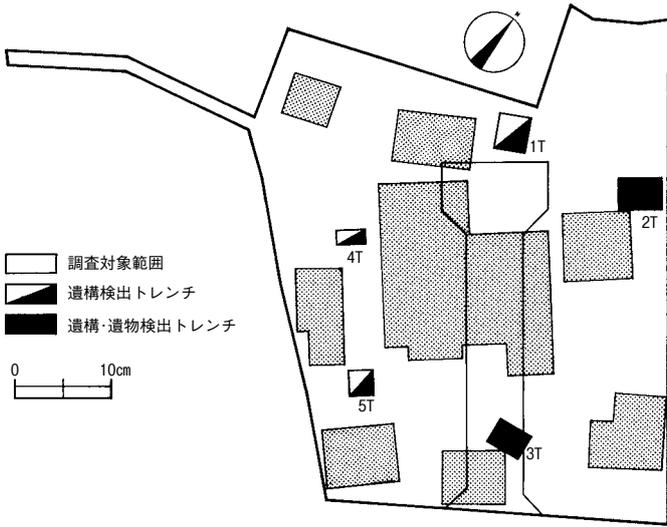


図2 トレンチ位置図 (1/800)

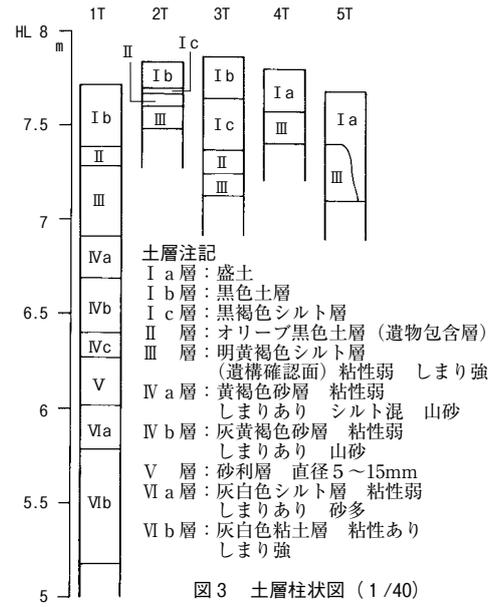


図3 土層柱状図 (1/40)

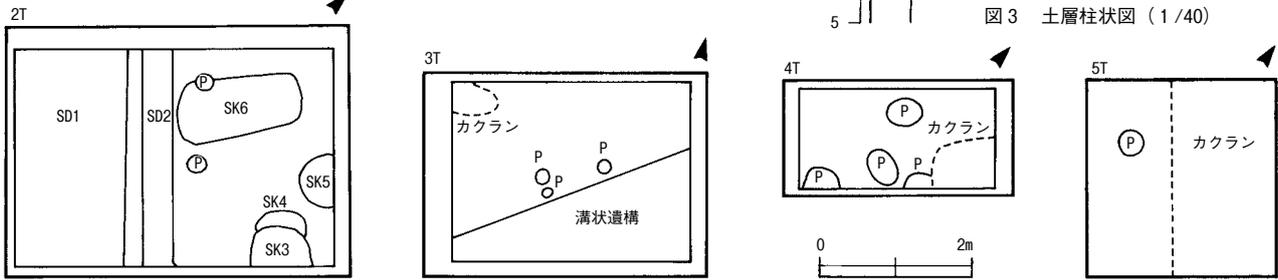


図4 トレンチ平面図 (1/100)

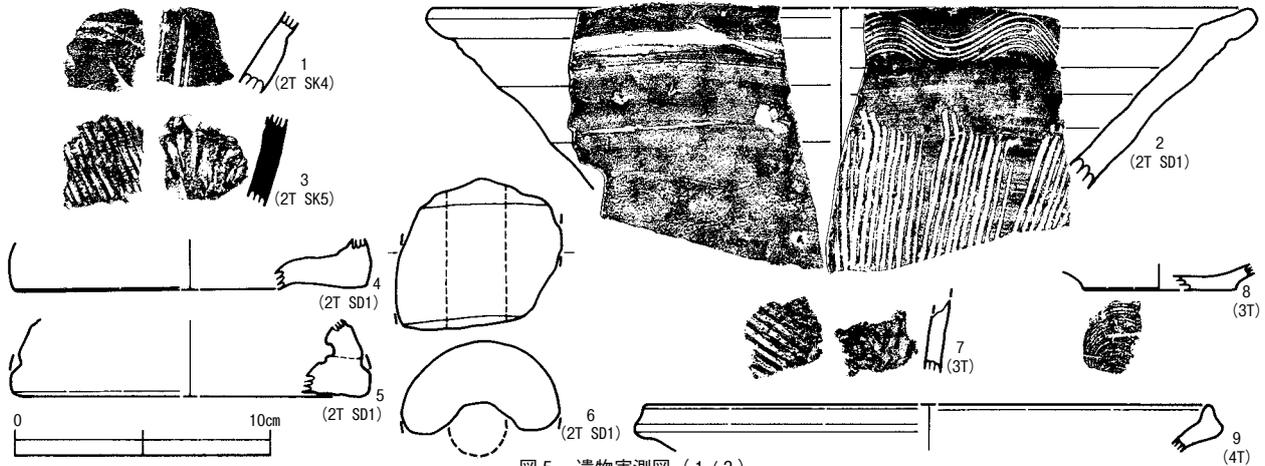


図5 遺物実測図 (1/3)



2 T 北壁土層断面及び遺構検出状況 (北から)



4 T 南壁土層断面及び遺構検出状況 (北から)

(9) 細越遺跡 第1・2次調査 (2014162・2014189)

所在地 新潟市西区内野町385番 外

調査の原因 集会施設建設 (公共事業)

調査期間 平成26年9月11・12日 (2日間・2014162)、  
平成26年12月10・11日 (2日間・2014189)

調査面積 59.2㎡ (2014162)、49.16㎡ (2014189)、  
(調査対象面積2,710.04㎡)

調査担当 朝岡政康

処置 工事立会

調査に至る経緯 (仮)内野地区集会施設建設工事に伴う事前の試掘調査 (平成26年9月9日付新歴B第81号の4、第1次・2014162) により発見された遺跡である。その後、計画建物の掘削深度や規模が決まり、取扱いを決めるために追加の確認調査を行った (第2次・2014189)。

位置と環境 調査地は旧内野町の市街地にあり、JR越後線内野駅の東方約100mに位置する。現在の標高は約2.9mである。本遺跡がある内野町付近から角田山麓の佐潟周辺にかけては新砂丘Ⅰ・Ⅱを新砂丘Ⅲが覆っており、旧内野町市街地は新砂丘Ⅱ列上に立地していると考えられている [坂井1991]。

概要と層序 現在の地表から約3mの掘削を行ったが、湧水が激しく調査は困難を極めた。遺構は検出されていないが、基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層：表土・盛土、Ⅱ層：にぶい黄色砂層 (砂丘飛砂堆積層)、Ⅲ層：青灰色砂層 (Ⅱ層が湧水によりグライ土壌化した層)、Ⅳ層：黒褐色砂層 (近現代遺物出土)、Ⅴ層：黄灰色砂混じりシルト層 (古代遺物出土)、Ⅵ層：褐灰色砂混じりシルト層、Ⅶ層：灰黄褐色粘土層 (砂混じり腐植土層)、Ⅷ層：黒褐色～灰色砂層 (砂丘堆積層)、Ⅸ層：灰黄色粘質土層 (灰色砂混じり)、Ⅹ層：黒色砂層 (砂丘堆積層)、Ⅺ層：暗灰色砂層 (砂丘堆積層)。

Ⅺ層が砂丘基盤層、Ⅹ層がその上に形成された黒色砂層、Ⅶ層は砂丘周辺部の湿地性堆積層と考えられる。

出土遺物 Ⅴ層から古代の須恵器無台杯と考えられる口縁部破片が出土した。

まとめ 本遺跡は新砂丘Ⅱ-C上に立地し、遺物が出土したⅤ層の黄灰砂混じりシルト層、は砂丘上に堆積した水性堆積層



図4 遺物実測図 (1/3)

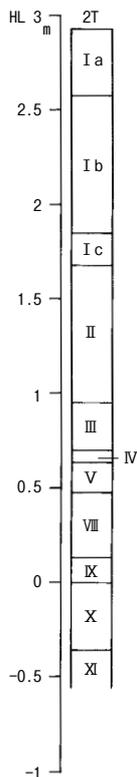


図3 土層柱状図 (1/40)



図1 調査位置図 (1/10,000)

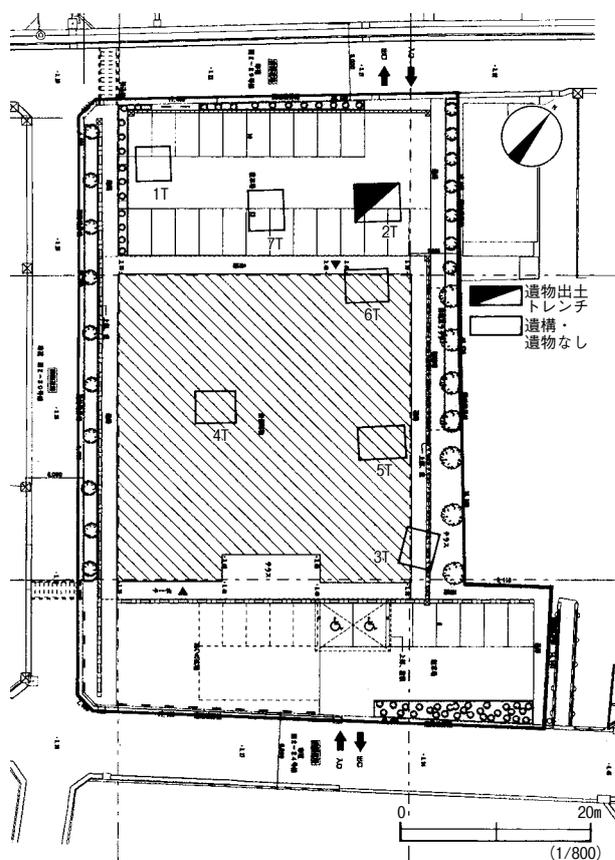


図2 トレンチ位置図 (1/800)

と推測される。同一砂丘南斜面に立地し、本遺跡の南西約900mにあり土師質土器3点が表面採集されている内野潟端A遺跡、同じく南西1,400mにあり珠洲焼1点が表面採集されている内野潟端B遺跡 [新潟市史編さん原始古代中世部会1994] は、これまでは遺跡の存在そのものが疑問視されていたが、本遺跡の発見により、これらの遺跡が再認識・再評価される必要があると言えよう。

なお、『法』第94条の通知は平成27年11月16日に出され、平成28年1月に工事立会が行われた。(渡邊朋和)

## (10) 仲歩切遺跡 第3次調査 (2014179) 及び 工事立会 (2014178)

所在地 新潟市西蒲区道上仲歩切759番 外  
調査の原因 道上地区県営圃場整備事業 (公共事業)  
調査期間 平成26年11月4～7日 (4日間)  
調査面積 約86.7㎡ (調査対象面積266,000㎡)  
調査担当 諫山えりか  
処置 工事立会 (25日間・2014178)

**調査に至る経緯** 遺跡は圃場整備事業に伴う分布調査によって平成15年に新しく発見された。平成21年に事業予定地内全域を対象に確認調査 (第1次・2009177) が行われ、北東から南西方向に細長く伸びる奈良・平安時代を中心とする遺跡である事が確認された。今回、圃場整備事業に伴う用排水管敷設工事が計画され、新潟県地域振興局より『法』第94条の通知と調査依頼書が提出された (平成26年10月28日付)。これを受け、取扱いを決めるために着手報告を提出し (平成26年11月4日付) 確認調査 (第3次・2014179) を実施した。調査の結果、遺構・遺物が確認された部分については、同事業での排水路等敷設による工事立会 (2014178) と併せて対応した。この工事立会では確認調査以上に遺物が出土しており、ここでは工事立会の成果も合わせて記載する。

**位置と環境** 中ノ口川左岸の自然堤防上に立地する (図1)。現標高は約1.6～2.4mを測り、現況は水田・畑であるが昭和30年代の耕地整理によって旧地形は目視できない。調査地の北西に道上荒田遺跡、南に万坊江遺跡など周辺には古代の遺跡が点在する。

**検出遺構** トレンチを17か所設定した。基本層序はI層：褐色粘土、II層：粘土、III層：暗褐色～黒褐色粘土、IV層：シルト質粘土、V層：青灰色シルト (工事立会のみで確認) に分かれる。I層が耕作土・盛土、III・IV層が遺物包含層、III層下面・IV・V層が遺構確認面である。遺物は現地表面から0.3～0.7mの深さで出土する。今回の調査では8Tで1基、15Tで2基の性格不明遺構が検出された。SX1は8Tの壁際のため掘削したが、残りの遺構は掘削していない。また、工事立会時には土坑3基、溝状遺構4基、柱根の残る柱穴3基、性格不明遺構1基が検出された。SK8からは焼骨片 (焼骨については、本書V3〔74頁〕に記載) が出土した。長軸3.0m、短軸1.2m、深さ0.1mを測る。焼骨片は残存率の高い土器片の下で検出され、土坑内を三分割して東側から1～3と番号を付して取り上げた (図5)。焼骨の量は少なく、墓とは断定できないため、SK8は焼骨埋納土坑と考える。また、P6では柱根先端が検出されたが、工事掘削底面で全体が検出しなかったため引き抜かず埋め戻した。

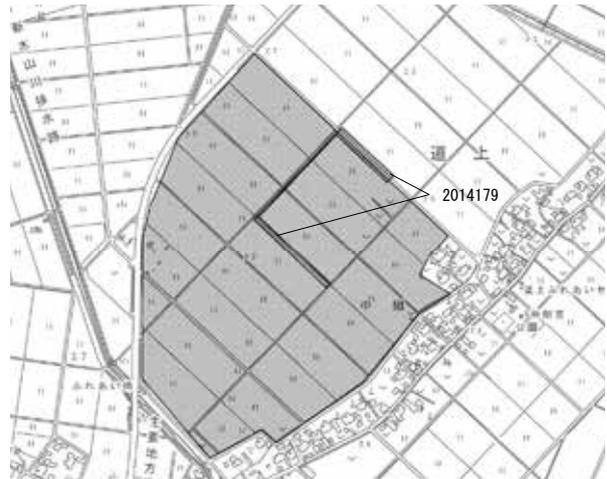
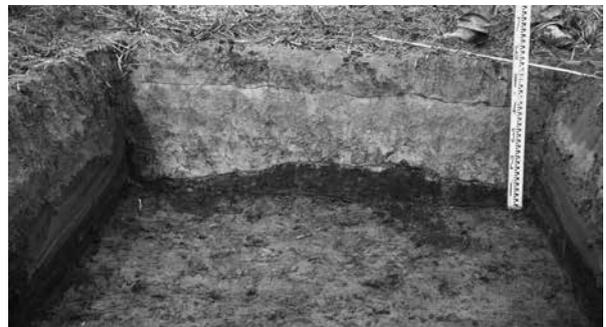


図1 調査位置図 (1/15,000)



第3次調査8T西壁土層断面及びSX1検出状況 (東から)



第3次調査15T西壁土層断面及び遺構検出状況 (東から)



工事立会2-2号小用水路P1柱根検出状況 (北東から)

**出土遺物** 確認調査では8～10・14～16Tから土師器・須恵器が出土し、工事立会時には土師器 (古墳・古代・中世)・須恵器・黒色土器・石製品・鍛冶関連遺

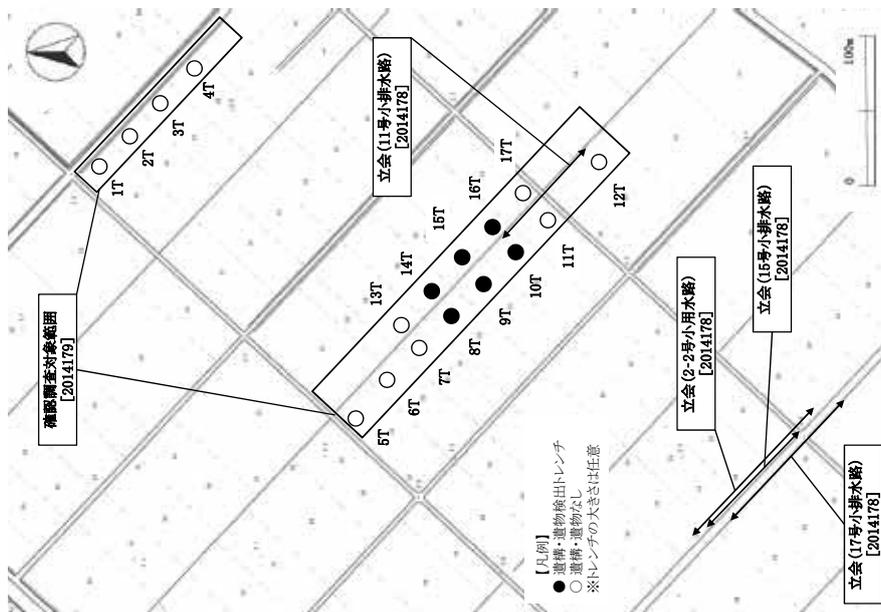


図2 第3次調査・工事立会位置図 (1/5,000)

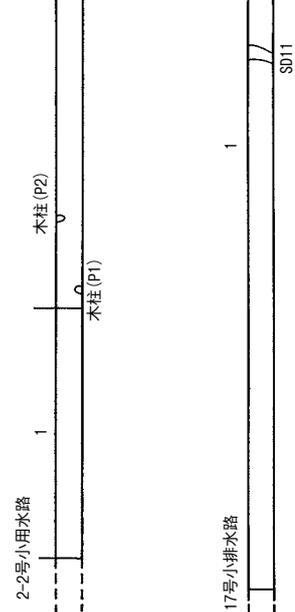


図3 工事立会遺構配置図 (1/300)

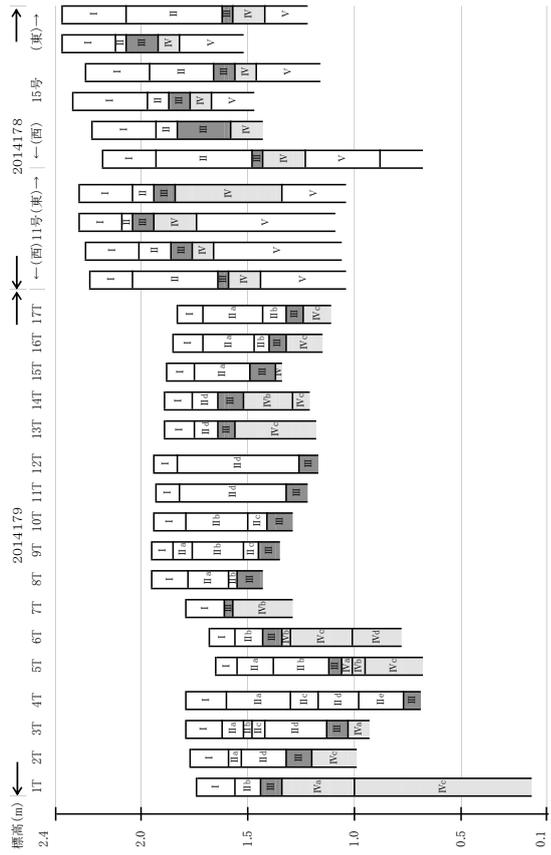


図4 工事立会区割図 (1/1,500)

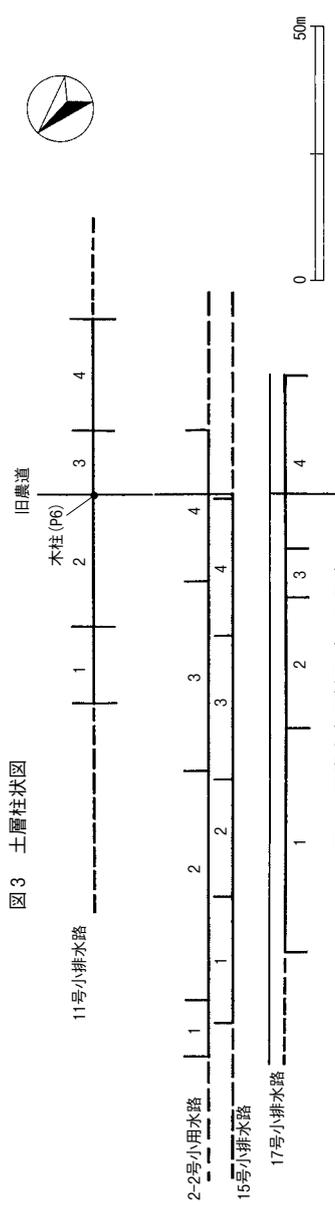


図5 土層柱状図

表1 遺物集計表

第3次調査 (2014179)		出土位置		※接合後の破片点数						
トレンチ No	遺構	層位	深 度 (GL-cm)	土師器	須恵器	黒色 土器	石製品	有機物		
8T	SX1	I			1		1			
		III	-50cm	3	2					
9T		III	-60cm	42	13					
10T		III	-70cm	5	2					
14T		III	-30cm			1				
		IVb	-50cm	1	1					
15T		III	-40~50cm	3						
		IV	-50cm	7						
16T		IVc	-60cm	5	3					
17T		IIa	-20cm						クルミ1点	
合 計				66	22	1	1			

工事立会 (2014178)		出土位置		※接合後の破片点数									
出土地	グリッド	遺構	層位	土師器	須恵器	黒色 土器	石製品	漆器 関連 遺物	木製品 (柱根)	炭化米	焼 骨		
11号小排水路、 2-4・2号小用 水路	1		IV	2	2								
	2		IV	8	1								
	3	P6							(1)				
	3		IV	168	42	1							
	3		—	2									
	4		III	1									
	4		IV	12	2	1	1	2					
	4		表採	60	8	1							
	1		IV	34	5								
	2	P1								1			
2	P2								1				
2-2号小用水路	2		I	1									
	2		II	6									
	2		IV	104	6		4	1					
	2		III・IV	38	7								
	2		—	1	1				2				
	3		III	42	14								
	3		III・IV	13	4								
	4		IV	17	1								
	4		IV	4	1								
	1		III	1									
15号小排水路	1		IV	181	15		8						
	1		—	9			1						
	2		IV	15	1								
	3	SD7	I	53	2	1							
	3	SK8		57	19						○	○	
	3		IV	41	8								
	4	SD9		17	1								
	—		IV	332	48	3	4						
	—		III	36	2								
	—		IV	13	1								
17号小排水路	1		III	1									
	1		III・IV	56	4		1						
	1		IV	151	9		3						
	2		IV	72	7	2	2		2				
	2		—	25	4	2							
	3		IV	73	5		6						
	4		IV	34	4		2						
	5		IV	7	6								
	—		—	41	11								
	合 計				1,711	241	11	30	7	2			

物・柱根・有機物が出土した。出土遺物の種別と点数は表1のとおりである。そのうち63点を図化した(図6~9)。以下、春日編年〔春日1999・2000〕を参考に記載する。焼骨が出土したSK8からは残存率の高い須恵器無台杯を主体にロクロ・非ロクロの土師器破片などが約2箱出土した。1は土師器無台碗でV期、2は土師器長甕の口縁部でIV・V期に相当する。3~6は須恵器無台杯で、全てV期の小泊窯跡産と考える。SD7からはロクロ・非ロクロの土師器を中心に約0.5箱出土した。7はいわゆる西古志型の長甕〔坂井1990ほか〕で口縁部は大きく外反し端部には面をもち、面取りした際の細い溝が認められる。口端部の内面がつまみ上げられたように伸び、やや新しい様相を呈しV期と考える。8は須恵器有台杯でV期の小泊窯跡産である。SD9からはロクロ土師器を主体に約0.3箱出土した。9は土師器長甕の口縁部でIV・V期、10は甑体部に付く断面楕円形の把手でIII・IV期と考える。11は須恵器折縁杯〔坂井ほか1989ほか〕で、高台が高く口縁部は外反したのち端部が内屈している。笹神丘陵などの阿賀北窯跡産でIV2・3期に相当する。12以降は遺構外出土である。12は土師器甕で底径が4.2cmと小さく立ち上がり部分にケズリが施され古墳時代の所産と考える。13~16は土師器無台碗で、13・14の内外面には赤彩が施されIII~IV1期に相当すると考

える。15はVI期、16は小片であるが12世紀頃の柱状高台と考える。17は高杯脚部で内面にはハケメが施される。18・19は甑と考えた。18は逆ハの字状に開く口縁部、19は底面のない底部破片でいずれもIII期に相当する。20は土師器長甕で体部内外面にはハケメが施されIII期と考える。21は土師器甕で外面にハケメが施され、内面はナデが行われる。22・23はいずれも口径が小さく、III期の土師器小甕である。24~28は須恵器無台杯で、24・25は新津丘陵窯跡産でIV期、26~28は小泊窯跡産でV期と考える。27・28は底面に墨書が施される。27が「三□」で28が「文□」、27の二文字目は「なべぶた」を書いたところで筆を置いたと考える。29~35は須恵器有台杯である。29~31・33は新津丘陵窯跡産で、29のIII期以外はIV期と考える。34は時期不明だが信濃川左岸の窯跡産と考える。31の内面には刻書が施される。35は高台の内側に稜を持ち底部の切り離しは糸切りである。上越地方の窯跡産の可能性がありV期と考える。36・37は須恵器杯蓋である。36はつまみ部を欠き内面には刻書が施される。III~IV1期で新津丘陵窯跡産と考える。37は中央部を欠くがIV期で信濃川左岸の窯跡産と考える。38は須恵器鉢で器壁がごく薄く推定ではあるが口径16.2cmを測る。小片であり時期・産地ともに不明瞭であるが、山木戸遺跡〔諫山ほか2004〕で類似品が出土している(第53図475)。39は須恵器横瓶、40は須恵器甕の小片である。40は口縁部つなぎ目の破面にタタキメが認められる。いずれも時期・産地ともに不明である。41は須恵器直口壺の完形品である。内面下半はハケメ、外面下部にはケズリが施される。内面には横位状態で何らかの液体が溜まったと思われる黒色付着物が認められる。IV2・3期で笹神丘陵などの阿賀北窯跡産と考える。42~44は須恵器壺・瓶類で42は長頸壺の口頸部である。いずれも小泊窯跡産である。43は小片のため時期は明瞭でないが、42・44はV・VI期と考える。45~50は土師器長甕である。45~47が非ロクロで48~50がロクロを使用している。45・46はいわゆる西古志型の長甕である。口端部形状から45はIV2・3期以降、46はIV2・3~V期と考える。47はいわゆる佐渡型甕〔坂井1988ほか〕で、内外面には細かいハケメが施され部分的に指頭押圧が認められる。V期以降と考える。48・49はIV期で、50はVI期と考える。51・52は黒色土器無台碗である。内面は黒色処理されミガキが施される。52は外面下半にケズリが施される。

53・54は円筒形土製品である。53は内外面ともにハケメが施されるが、54は粘土の輪積み痕を明瞭に残す内面にハケメ、外面には縦方向にケズリが施される。55~59は石製品である。55・56は砥石である。55は確認調査時

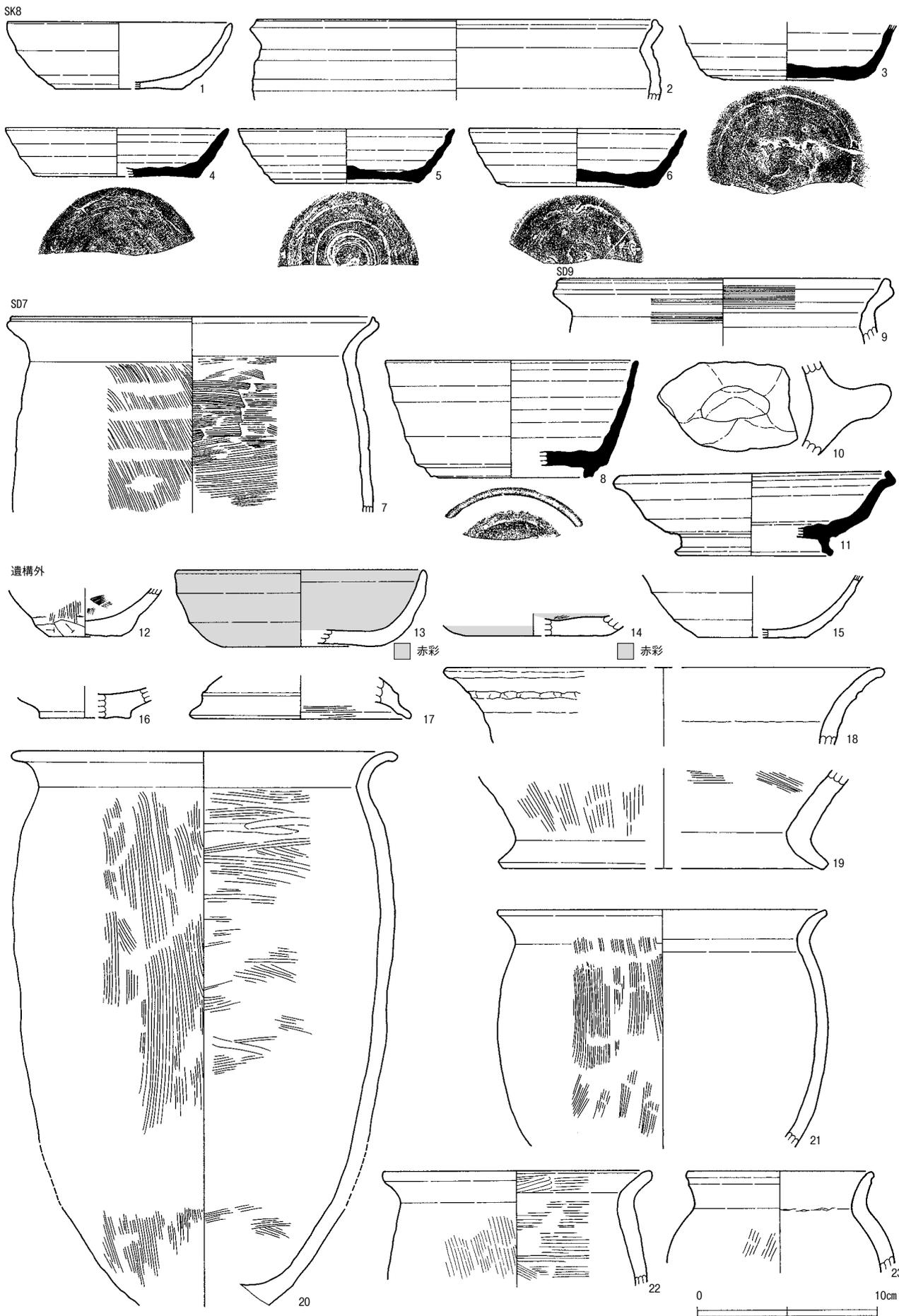


图6 遺物実測図 (1/3)

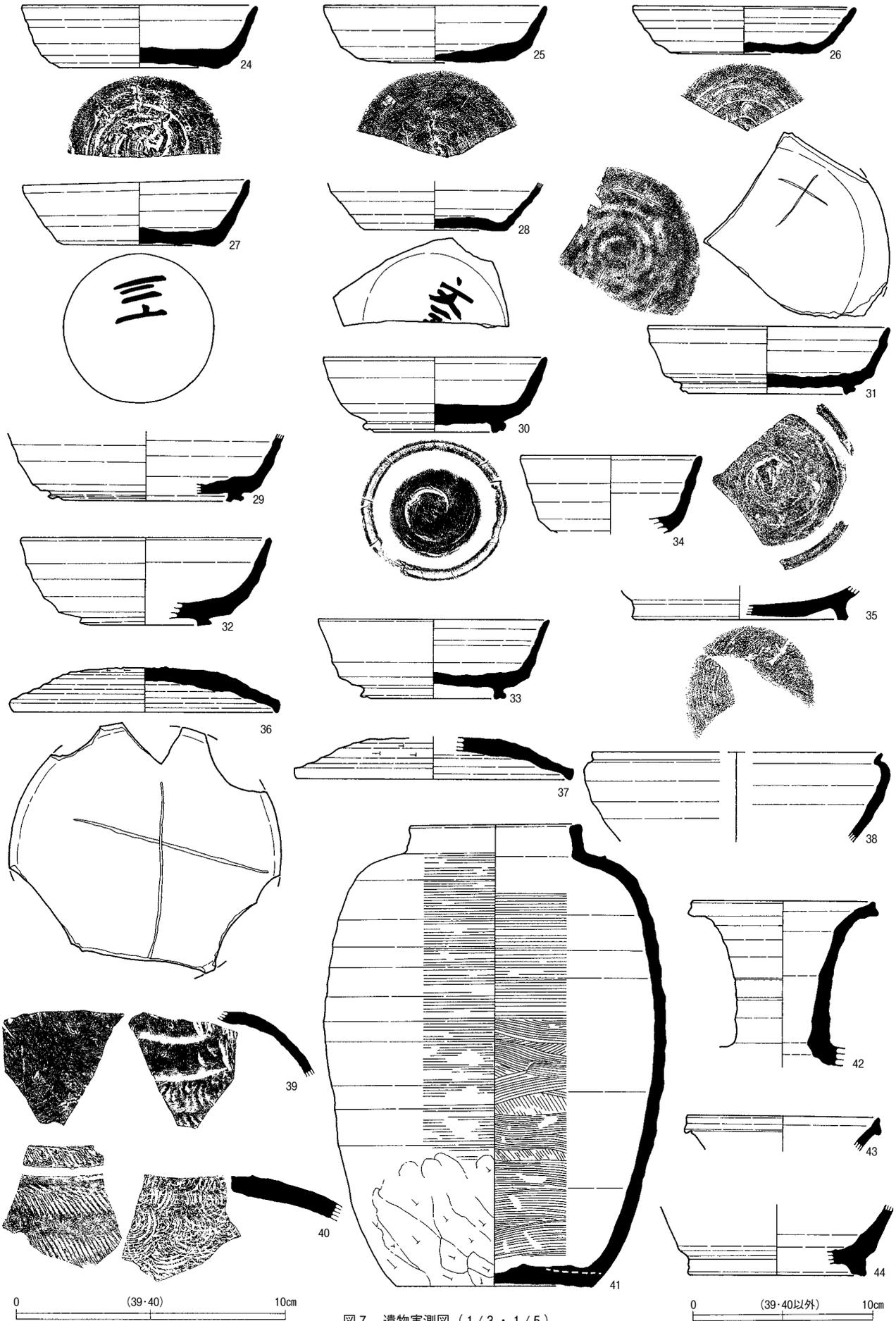


图7 遺物実測図 (1/3 · 1/5)

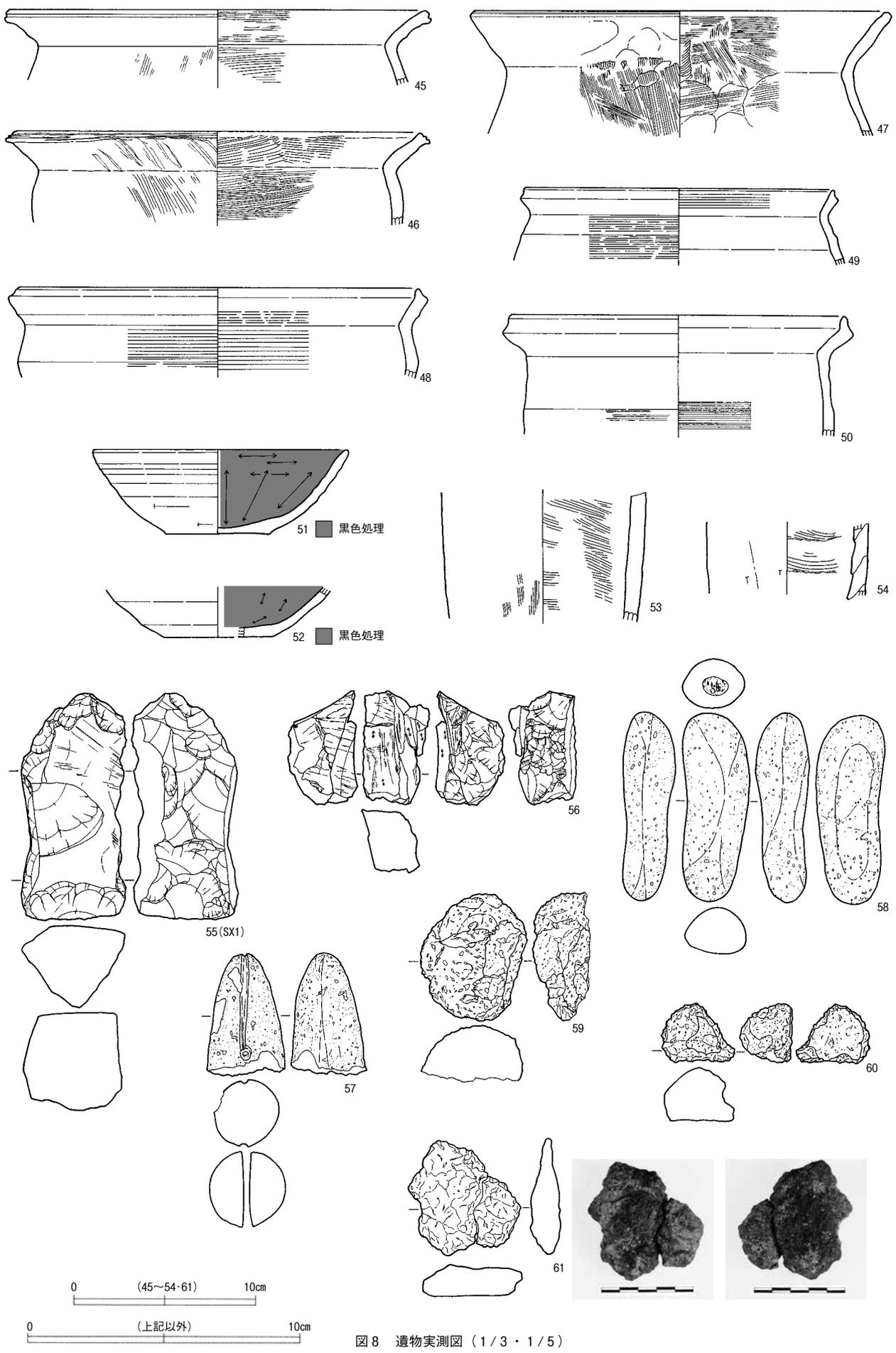


図8 遺物実測図 (1/3・1/5)

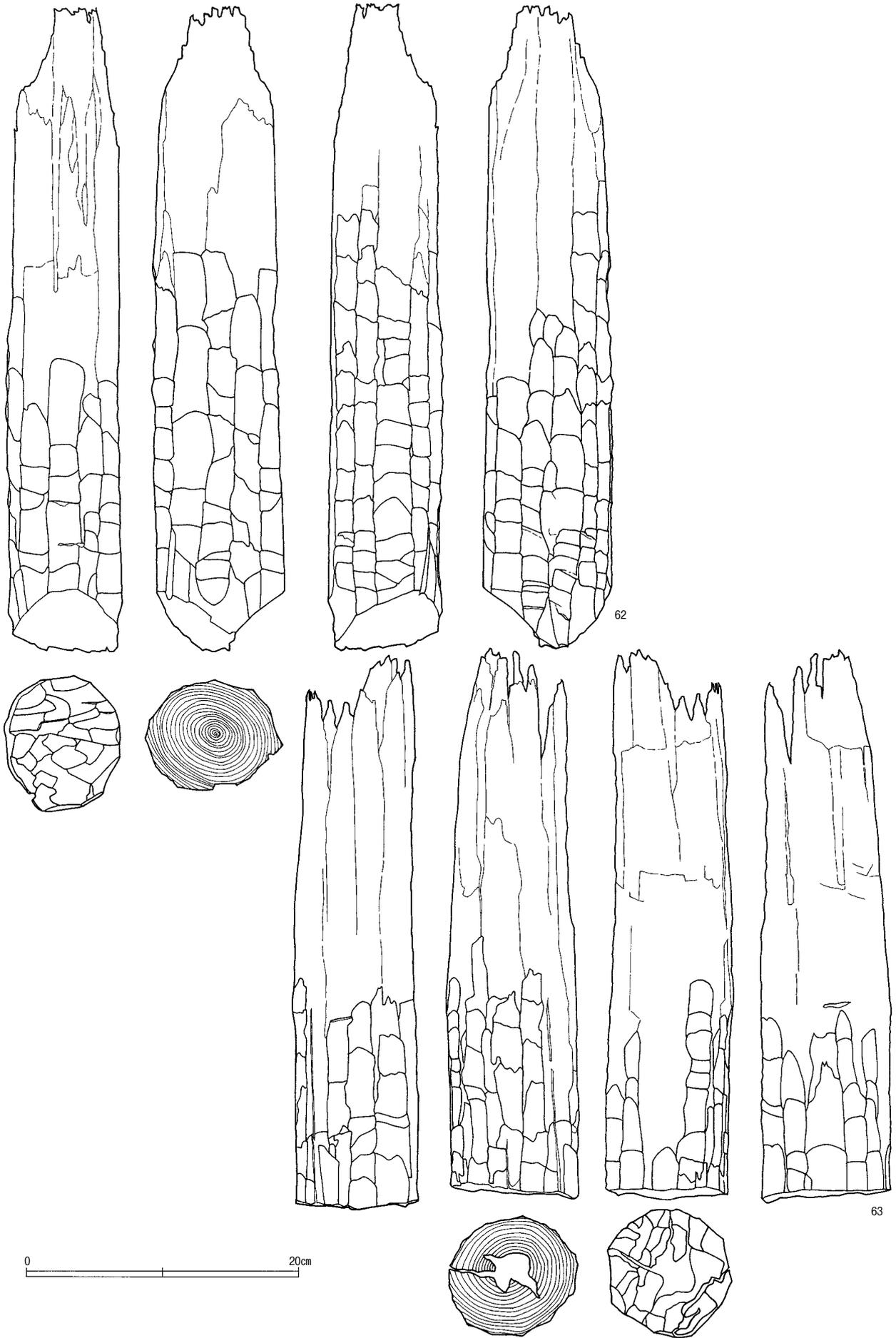


図9 遺物実測図 (1/10)

に遺構（SX1）から出土した。安山岩製で1面のみ研磨痕が残る。56は泥岩製で、節理面で割れているが溝状に数条の研磨痕が残る。57は安山岩製の有溝石錘で下半部を欠く。孔は中央部分が狭くなっており、両側から開けられたと推察する。58は安山岩製の磨耗礫である。研磨方向は確認できないものの部分的に磨耗しており、端部にはわずかに敲打痕が認められる。59は磨耗軽石である。約半面を欠き一部に磨耗痕が認められる。60は椀形滓で、今回の調査では唯一の出土である。61はアスファルト塊である。不純物は少ない。おそらく新津丘陵周辺で採取されたものと考えられる。62・63は柱根で約6m離れて出土した。いずれも遺存状況が良く、全周に施された加工痕跡が明瞭に残る。ともにクリ材と考えられ、端部は62が断面V字状に、63が水平に加工されている。本遺跡の北東約1.5kmに位置する下新田遺跡出土の柱根でも

端部の加工が同様の2種類認められる〔龍田ほか2015〕。

まとめ 焼骨埋納土坑（SK8）や掘立柱建物とされる柱根、その他の出土遺物から、本遺跡は古代集落の主要部分であった可能性が高いと考える。また、古墳時代と考える甕や中世土師器の破片が出土していることから、周辺に古墳時代や中世の遺跡が広がる可能性も考えられる。なお、冬場の水田部は地盤が悪くなることから、今回の工事立会時には既設管撤去による湧水など想定外の要因で掘削幅が計画以上となることがあった。よって、今後は遺跡立地や工事の実態等を考慮し慎重な取扱いが必要であろう。

古代の土器については春日真実氏（(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団）、西古志甕については小野本敦氏（(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団）、墨書については相澤央氏（帝京大学）より御教示いただいた。（龍田優子）

表2 土器観察表

掲載No	調査番号	出土位置				時期	種別	器種	焼成	法量 (cm)			調整・付着物等				遺存率		備考	
		路線名	区割	遺構	層位					口径	底径	器高	内面	外面	底面	口径部	底部			
1	2014178	15号	3	SK8	—	V	土師器	無台碗	酸化	12.5	7.0	3.7	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	9	18			
2	2014178	15号	3-2	SK8	1	IV・V	土師器	長堿	酸化	22.0			ロクロナデ	ロクロナデ		3				
3	2014178	15号	3	SK8 (西側)	—	V	須恵器	無台杯	還元		7.2		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	14	20			
4	2014178	15号	3	SK8	—	V	須恵器	無台杯	還元	12.4	8.8	2.7	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	14	17			
5	2014178	15号	3-2	SK8	—	V	須恵器	無台杯	還元	12.0	8.0	3.0	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	17	18			
6	2014178	15号	3	SK8	—	V	須恵器	還元	還元	12.0	7.8	3.2	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	7	16			
7	2014178	15号	3-4	SD7	1	V	土師器	長堿	酸化	20.0			ロクロナデ	ロクロナデ		1		西古志型		
8	2014178	15号	3-4	SD7	1	V	須恵器	有台杯	還元	14.0	9.0	6.5	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	9	13			
9	2014178	15号	4-2	SD9	—	VI	土師器	長堿	還元	18.0			ロクロナデ・カキメ	ロクロナデ・カキメ		6				
10	2014178	15号	4-2	SD9	—	III~V	土師器	瓶	酸化				ナデ							
11	2014178	15号	4-2	SD9	—	IV2・3	須恵器	折縁杯	還元	14.8	8.8	4.5	ロクロナデ	ロクロナデ		14	15	歪みあり		
12	2014178	15号	1-2	—	—	古墳?	土師器	壺	酸化	4.0			ハケメ	ハケメ・ケズリ				36		
13	2014178	17号	1-10	—	—	III・IV	土師器	無台杯	酸化	13.7	8.7	4.3	ロクロナデ・赤彩	ロクロナデ・赤彩	ケズリ→ミガキ・赤彩	5	36			
14	2014178	11号	3	—	—	III~IV1	土師器	無台碗	酸化		7.8		ハケメ→ナデ・赤彩	ロクロナデ・赤彩	ケズリ→ナデ・赤彩		8			
15	2014178	11号	3	—	—	IV	土師器	無台碗	酸化		5.4		ロクロナデ	ロクロナデ				13		
16	2014178	2-2号	4-7	—	—	12世紀	土師器	無台碗	酸化		5.0		ナデ					9	柱状高台	
17	2014178	15号	4-2	—	—	IV	土師器	高杯	酸化		12.2		ハケメ					2		
18	2014178	15号	2-3	—	—	III	土師器	瓶?	酸化	(24.0)			ナデ					3		
19	2014178	11号	1-3	採集	—	III	土師器	瓶	酸化				端・頸:ナデ体:ハケメ	端:ナデ体:ハケメ				3		
20	2014178	17号	1-9	—	—	III	土師器	長堿	酸化	21.0			口:ナデ体:ハケメ					18		
21	2014178	15号	2-4	—	—	IV	土師器	壺	酸化	18.0			ナデ	口:ナデ体:ハケメ				3		
22	2014178	2-2号	2-7	—	—	IV	土師器	小壺	酸化	14.8			ハケメ・ナデ	口:ナデ体:ハケメ				6		
23	2014178	15号	4-3	—	—	IV	土師器	小壺	還元	10.0			ナデ	口:ナデ体:ハケメ・ナデ				7		
24	2014178	15号	1-5	—	—	IV	須恵器	無台杯	還元	13.0	9.0	3.5	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	14	18			
25	2014178	11号	3	—	—	IV	須恵器	無台杯	還元	12.4	7.6	3.2	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	13	18			
26	2014178	15号	4-2	—	—	IV	須恵器	無台杯	還元	12.3	8.2	2.6	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	2	11			
27	2014178	15号	3-3	—	—	IV	須恵器	無台杯	還元	12.5	8.3	3.5	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切・墨書「三〇」	16	36			
28	2014178	17号	4-2	—	—	IV	須恵器	無台杯	還元		8.0		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切・墨書「文〇」		18			
29	2014178	17号	5-2	—	—	III	須恵器	有台杯	還元	10.8			ロクロナデ	ロクロナデ				5		
30	2014178	15号	1-5	—	—	IV	須恵器	有台杯	還元	12.4	7.9	4.2	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	7	32			
31	2014178	15号	4-2	—	—	IV	須恵器	有台杯	還元	13.3	9.7	3.7	ロクロナデ・刺書	ロクロナデ	ヘラ切	5	9			
32	2014179	17号	8~10T周辺	—	—	表採	須恵器	有台杯	還元	13.8	7.3	4.9	ロクロナデ	ロクロナデ		4	4			
33	2014178	17号	4-2	—	—	IV	須恵器	有台杯	還元	12.9	8.1	4.4	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	4	7			
34	2014178	17号	2-1	—	—	IV	須恵器	有台杯	還元	10.0			ロクロナデ	ロクロナデ		7				
35	2014178	15号	4-2	—	—	IV	須恵器	有台杯	酸化		11.3		ロクロナデ	ロクロナデ	糸切		8			
36	2014178	17号	5-2	—	—	IV	須恵器	杯蓋	還元	14.8			ロクロナデ・刺書	体:ロクロナデ天:ヘラケズリ				11		
37	2014178	11号	3	—	—	IV	須恵器	杯蓋	還元	15.2			ロクロナデ	体:ロクロナデ天:ヘラケズリ				6		
38	2014178	2-2号	2-1	—	—	IV	須恵器	鉢	還元	(16.2)			ロクロナデ	ロクロナデ						
39	2014178	11号	3	—	—	IV	須恵器	横瓶	還元				ロクロナデ	ロクロナデ						
40	2014178	15号	2-1	—	—	IV	須恵器	壺	還元				ロクロナデ・短て長痕	ロクロナデ・タタキメ・カキメ						
41	2014178	2-2号	4-8	—	—	IV	須恵器	直口壺	還元	9.6	11.0	25.8	ロクロナデ・カキメ	ロクロナデ・カキメ	自然軸	36	20			
42	2014178	2-2号	3-3	—	—	(III)	須恵器	長頸壺	還元	10.0			ケズリ・黒色付着物	カキメ・自然軸	自然軸				6	
43	2014179	—	9T	—	—	III	須恵器	壺・瓶類	還元	10.7			ロクロナデ・自然軸	ロクロナデ					5	
44	2014178	11号	3	—	—	IV	須恵器	壺・瓶類	還元		9.7		ロクロナデ	ロクロナデ					4	
45	2014178	17号	1-10	—	—	IV	土師器	長堿	酸化	23.3			ハケメ	口:ナデ体:ハケメ				3	西古志型	
46	2014178	17号	3-4	—	—	IV	土師器	長堿	酸化	20.0			ハケメ	口:ハケメ・ナデ体:ハケメ				6	西古志型	
47	2014178	11号	3	—	—	IV	土師器	壺	酸化	22.7			口:ハケメ	口:指頭押圧体:ハケメ				3	佐渡型	
48	2014178	15号	4-2	—	—	IV	土師器	長堿	酸化	22.0			口:ロクロナデ	口:ロクロナデ				3		
49	2014178	15号	4-2	—	—	IV	土師器	壺	酸化	17.0			口:ロクロナデ・カキメ	口:ロクロナデ・カキメ				5		
50	2014178	11号	3	—	—	IV	土師器	長堿	酸化	18.5			口:ロクロナデ	口:ロクロナデ				3		
51	2014178	11号	3	—	—	IV	土師器	黒色土器	酸化	14.0	5.8	4.6	ミガキ・黒色処理	ロクロナデ・ケズリ				28	33	
52	2014179	—	14T	—	—	III	土師器	無台碗	酸化		6.0		ミガキ・黒色処理	ロクロナデ				24	敲打痕あり	

表3 土製品観察表

掲載No	調査番号	出土位置				器種	法量			備考
		路線名	区割	遺構	層位		長さ (cm)	径 (cm)	重量 (g)	
53	2014178	2-2号	2-3	—	—	円筒形土製品	7.2	11.3	80.0	内:ハケメ 外:ハケメ
54	2014178	15号	2-4	—	—	円筒形土製品	4.3	8.9	18.0	内:ハケメ→ナデ 外:ケズリ→ナデ

表5 鍛冶関連遺物・アスファルト観察表

掲載No	調査番号	出土位置				種別	器種	法量			備考
		路線名	区割	遺構	層位			長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)	
60	2014178	11号	4	—	—	鍛冶関連遺物	椀形滓	5.4	6.7	4.8	234.0
61	2014178	2-2号	2-8	—	—	アスファルト塊	—	6.4	6.2	1.7	31.0

表4 石製品観察表

掲載No	調査番号	出土位置				器種	石材	法量				備考
		路線名	区割	遺構	層位			長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
55	2014179	—	8T	SX1	—	砥石	安山岩	20.7	9.6	8.9	2,900.0	
56	2014178	17号	3-2	—	—	砥石	泥岩	10.5	6.4	6.3	356.0	
57	2014178	17号	1-10	—	—	石錘	安山岩	11.3	7.2	6.9	453.0	
58	2014178	15号	1-2	—	—	磨耗礫	安山岩	17.4	6.3	5.0	704.0	
59	2014178	15号	1	—	—	軽石	軽石	11.8	9.8	5.3	135.0	

表6 木製品観察表

掲載No	調査番号	出土位置				器種	樹種	木取り	法量			備考
		路線名	区割	遺構	層位				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	
62	2014178	2-2号	2	P1	—	柱根	クリ	丸木材	116.5	20.5	23.3	
63	2014178	2-2号	2	P2	—	柱根	クリ	丸木材	99.7	22.3	23.7	

## (11) 近世新潟町跡第19～22次調査 (2014101・2014105・2014126・2014145)

## (a) 近世新潟町跡の周知化と取扱い

新潟町は日本海有数の湊町である。17世紀半ばに現在の信濃川左岸の河口付近へ移転し、その後拡大しながら現在に至るが、その移転当初の町を「近世新潟町跡」としている。

現在、近世新潟町跡の周知化は、試掘調査によって江戸時代の土層が確認された地点について行っている。平成26年度末で周知化された地点は15か所である。

## (b) 平成26年度の試掘・確認調査

平成26年度に実施された試掘・確認調査は、公共事業に伴うものが1件、民間事業に伴うものが3件である。いずれも、江戸時代の遺物包含層が確認され周知化を行った。

## (c) 本町通1番町172-2地点試掘調査

第19次調査 (2014101) (図2・3・8)

所在地 新潟市中央区本町通一番町172番2

調査の原因 集合住宅建設 (民間事業)

調査期間 平成26年4月14日、5月9～13日 (5日間)

調査面積 106㎡ (調査対象面積510.99㎡)

調査担当 朝岡政康

処置 工事立会

**調査概要** 調査地は江戸時代には3筆に分かれていたことから、トレンチを屋敷地割ごとに3か所の合計9か所を設定した。いずれのトレンチも概ね地表下1.5mまでは、明治時代の遺物が出土したが、1.5m以下は江戸時代後期の遺跡であることが確認された。また、通りに面した表屋敷地側 (1・4・7 T) は攪乱されており、奥屋敷地 (3・6・9 T) 側は堆積状況が良好に残るほか、遺物の量も多かった。遺物は、17世紀後半から18世紀のものを図化した。肥前磁器がもっとも多く日常雑器が多いが、中にはやや高級とされる有田産の椀 (4) や皿 (5)、蓋付鉢 (9) も出土している。8 Tからは「上諸白」の焼印のある樽板 (21) が出土している。「諸白」というのは、白麴と白米で醸した酒の意味である。

当該地は17～18世紀代江戸期の遺物包含層が残っていることが確認されたことから、近世新潟町跡の範囲として周知化された。調査後は、工事立会で対応した。

## (d) 上大川前通4番町40-1地点試掘調査

第20・21次調査 (2014105・2014126) (図4・5・9)

所在地 新潟市中央区上大川前通四番町40番1

調査の原因 集合住宅建設 (民間事業)

調査期間 平成26年4月18・19日 (2日間・2014105)、  
5月26～29日 (4日間・2014126)



図1 調査位置図 (1/10,000)

調査面積 27㎡ (調査対象面積1,052.68㎡)

調査担当 諫山えりか

処置 工事立会

**調査概要** 当初トレンチを2か所を設定して、試掘を行った所、木製品を多く含む遺構が検出され、18世紀代の陶磁器が出土したため、追加の確認調査 (2014126) を行った。調査地は概ね地表下1.0mまでが盛土であり、III層が18～19世紀の遺物包含層である。さらにIV層からは上大川前通に直交する溝が検出された。遺物は18世紀後半から19世紀のものが多く、特筆すべき遺物としては、肥前の波佐見窯で生産されたコンプラ瓶 (14) がある。コンプラ瓶は海外向けに生産されたもので、当時海外との貿易ルートがあった長崎や北海道道南地域で多く出土するほかは、全国的に見てもあまり出土しない遺物である。なお、新潟県内では初の出土例である。

調査の結果、18世紀代の遺構・遺物が出土していることから周知化を行った。調査後は、工事立会で対応することとした。

## (e) 古町通3番町654番地地点試掘調査

第22次調査 (2014145) (図6・7・9)

所在地 新潟市中央区古町通三番町654番

調査の原因 駐輪場建設 (公共事業)

調査期間 平成26年7月29・30日 (2日間)

調査面積 21.84㎡ (調査対象面積302.14㎡)

調査担当 朝岡政康

処置 慎重工事

**調査概要** 2か所のトレンチを設定した。1 Tは土層の堆積が良好であり、概ね地表下2 mのVII層から18世紀後半～19世紀の遺物が出土した。古町通に面する2 Tでは地表下1.5 mの焼土混じりの土坑から18世紀後半の遺物がまとまって出土した。特に白磁向付 (18)、染付向付 (19)、青磁染付皿 (20) については、同一規格・柄

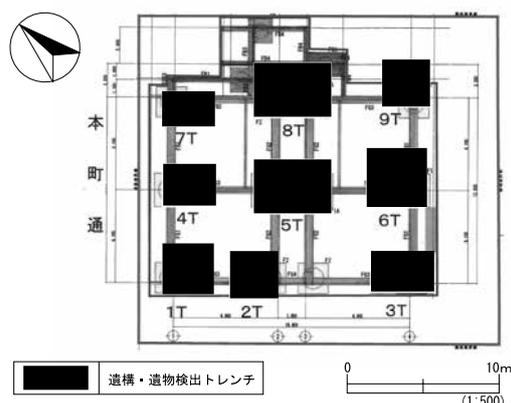
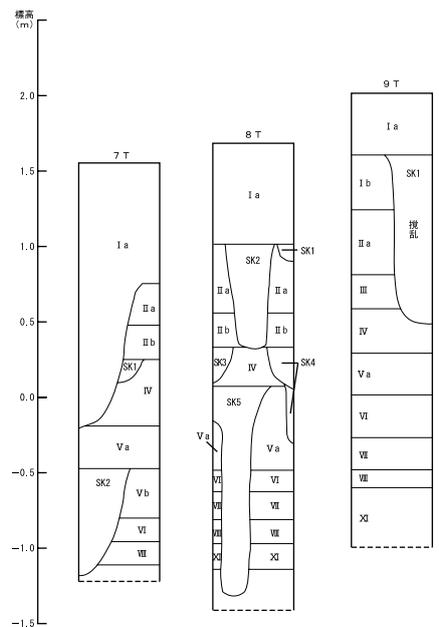


図2 第19次調査トレンチ位置図 (1/500)



【土層注記】  
 Ia層：現代の盛土  
 Ib層：明治時代以降の盛土  
 IIa層：灰黄褐色土 粘性△しまり△  
 IIb層：灰黄褐色～にがい黄褐色土 粘性△しまり△  
 III層：灰色粘土 粘性△しまり△  
 IV層：灰黄褐～灰オリーブ色粘土 粘性△しまり△ ※幕末の遺物  
 Va層：褐灰～青灰色粘土 ラミナ状に堆積 粘性△しまり△  
 ※18世紀後半の遺物  
 Vb層：褐灰～青灰色粘土 黄褐色土をブロック状に混じる  
 VI層：黄灰～暗黄灰色土 粘性△しまり○ ※18世紀中～後半の遺物  
 VII層：暗黄褐色土 炭化物を混じる 粘性△しまり△  
 VIII層：灰～暗灰砂質シルト混じり 粘性△しまり△  
 IX層：灰～オリーブ褐色粘土 9Tでは腐植を混じる  
 ※17世紀後半の遺物  
 X層：灰色砂

図3 第19次調査土層柱状図 (1/50)

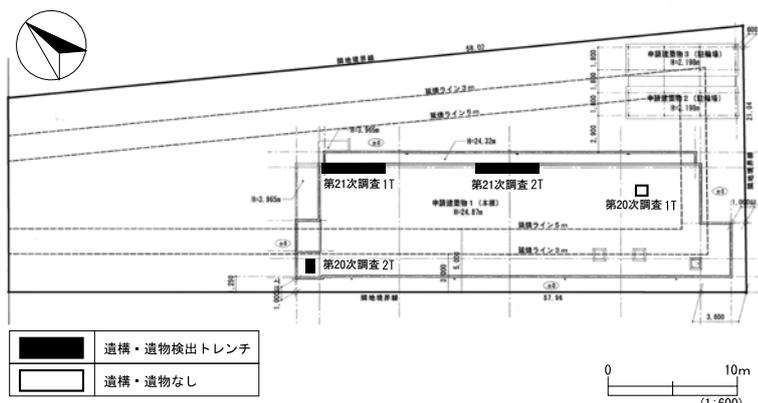
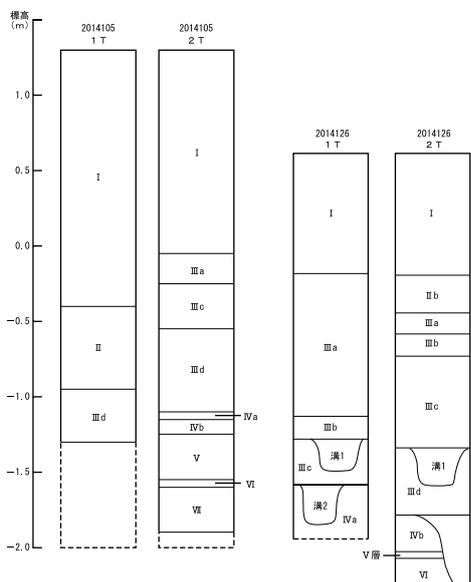


図4 第20・21次調査トレンチ位置図 (1/600)



【土層注記】  
 I層：盛土  
 II層：シルト混粘土  
 a 黄褐色  
 b 灰色  
 III層：シルト質粘土 (遺物包含層)  
 a 暗灰色  
 b 灰色  
 c 淡灰色  
 d IIIc層に灰色砂ブロック状に混ざる  
 IV層：シルト質粘土 (遺物包含層、遺構確認面)  
 a 黒灰色  
 b 淡褐色  
 V層：暗灰色粘質シルト木片混  
 VI層：暗灰黒砂混じりシルト質粘土  
 VII層：淡灰褐色粘質シルト

図5 第20・21次調査土層柱状図 (1/50)

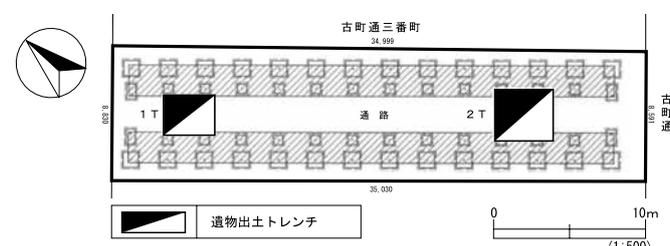
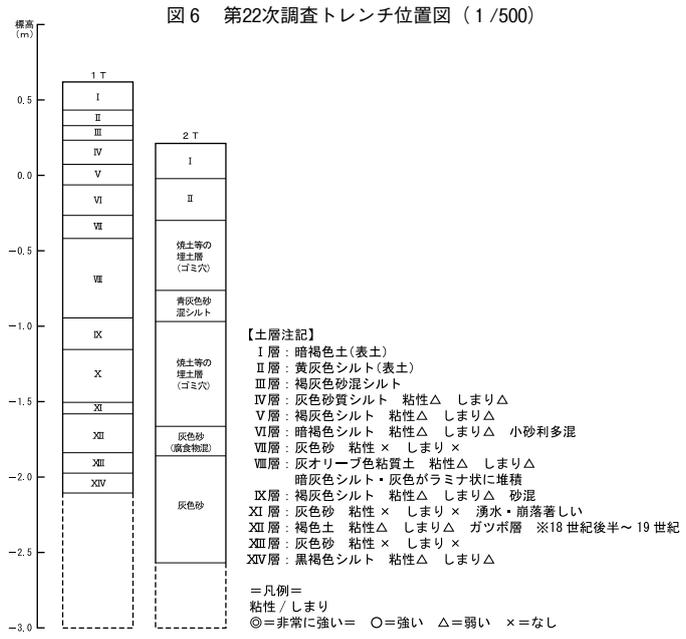


図6 第22次調査トレンチ位置図 (1/500)



【土層注記】  
 I層：暗褐色土(表土)  
 II層：黄灰色シルト(表土)  
 III層：褐灰色砂質シルト  
 IV層：灰色砂質シルト 粘性△ しまり△  
 V層：褐灰色シルト 粘性△ しまり△  
 VI層：暗褐色シルト 粘性△ しまり△ 小砂多混  
 VII層：灰色砂 粘性× しまり×  
 VIII層：灰オリーブ色粘質土 粘性△ しまり△ 暗灰色シルト・灰色がラミナ状に堆積  
 IX層：褐灰色シルト 粘性△ しまり△ 砂混  
 X層：灰色砂 粘性× しまり× 湧水・崩落著しい  
 XI層：褐色土 粘性△ しまり△ ガンボ層 ※18世紀後半～19世紀  
 XII層：褐色土 粘性△ しまり△  
 XIII層：灰色砂 粘性× しまり×  
 XIV層：黒褐色シルト 粘性△ しまり△  
 =凡例=  
 粘性/しまり  
 ◎=非常に強い ○=強い △=弱い ×=なし

図7 第22次調査土層柱状図 (1/50)

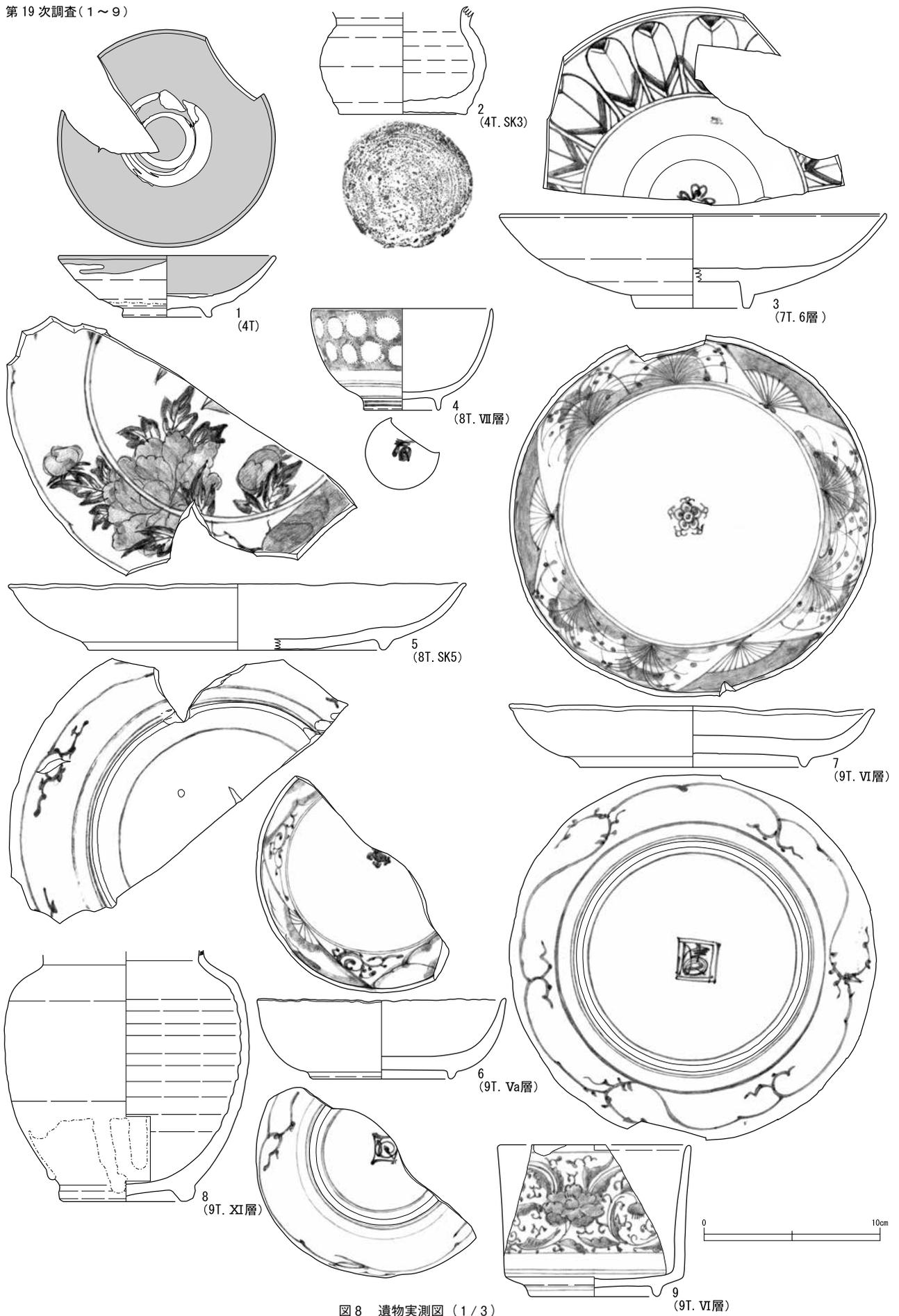


図8 遺物実測図(1/3)

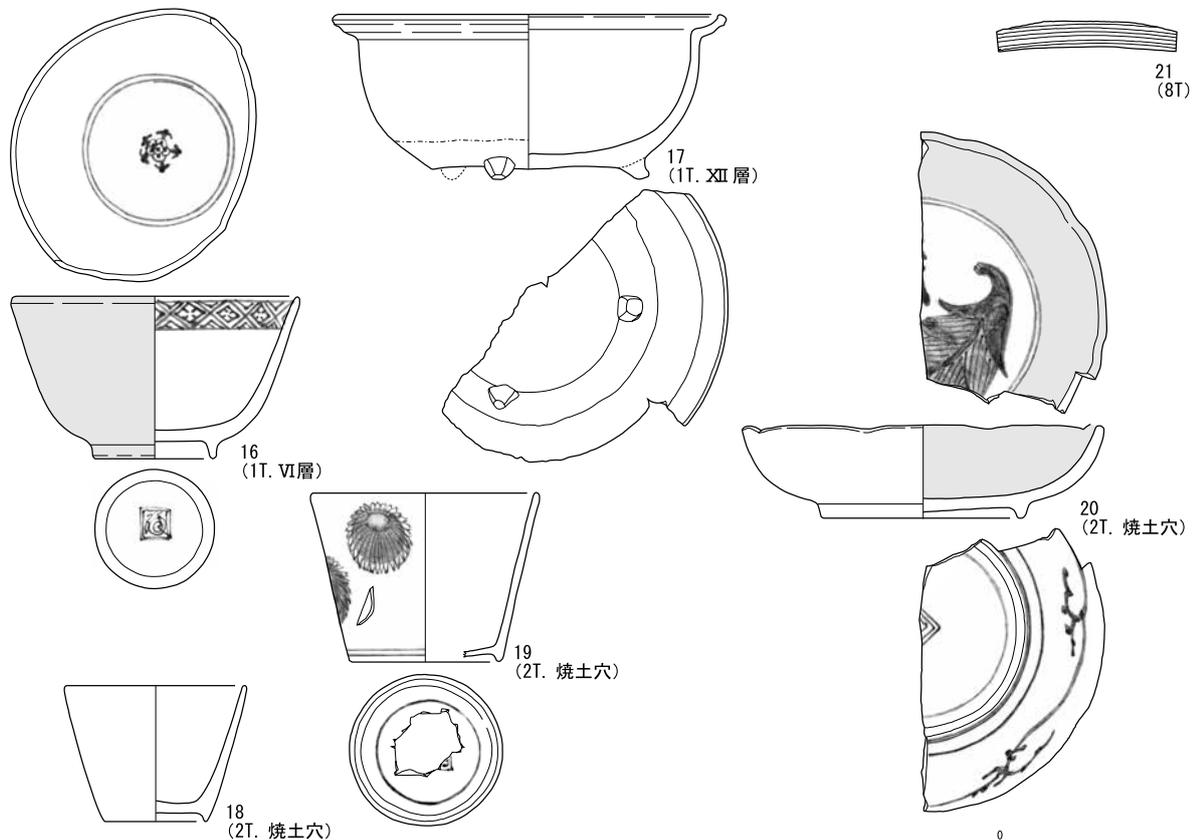
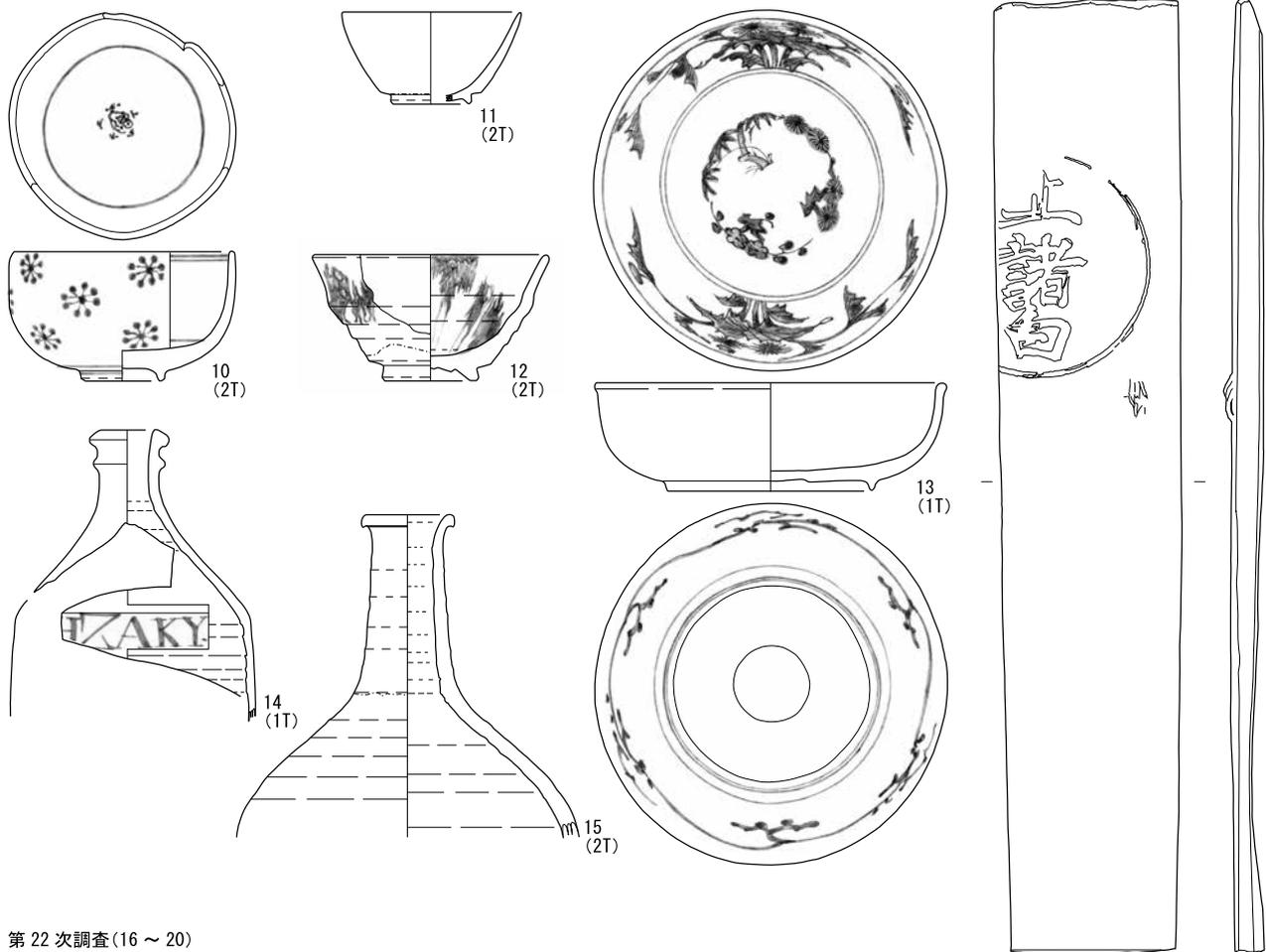


図9 遺物実測図(1/3)

のものが複数点出土し、「揃い」として使用されたことが窺える。調査地は18世紀前半には「新明町」と呼ばれる花街であったため、料亭など飲食業での使用が想定される。

とから周知化を行った。調査の結果、掘削は1.0m内におさまることから慎重工事で対応した。陶磁器については大橋康二氏（佐賀県立九州陶磁文化館）より御教示いただいた。（今井さやか）

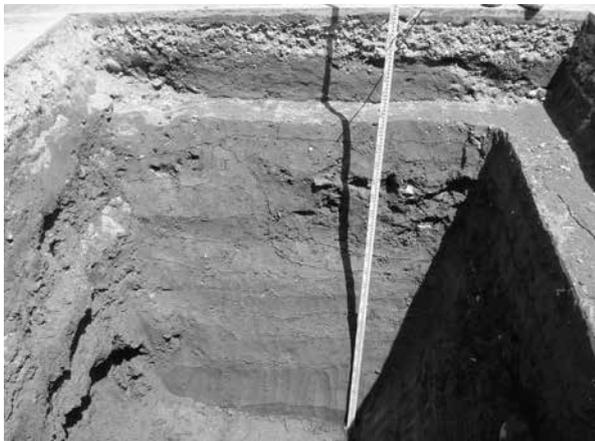
調査の結果、18世紀代の遺構・遺物が出土しているこ

表1 陶磁器観察表

第19次調査 (2014101)										
掲載No.	出土位置		種別	器種	産地	年代	法量 (cm)			器形・調整・文様・釉薬等
	トレンチ	層位					口径	底径	器高	
1	4T	8	陶器	皿	肥前(内野山)	18世紀前半	12.2	5.0	3.5	内:銅緑釉 蛇の目軸はぎ 外:透明釉と銅緑釉のかけ分け
2	4T	SK3	陶器	灰蒔し	越中瀬戸	18世紀	(8.0)	7.2	6.2	鉄釉 底部:回転糸切り 口縁部全周に敲打痕
3	7T	VI	磁器	皿	肥前(波佐見)	17世紀後半	11.0	3.2	5.4	染付 内:矢羽文 蛇の目軸はぎ 見込み:桜 高台に砂付着
4	8T	VII	磁器	椀	肥前(有田)	1680~1710	10.2	4.2	5.8	染付 外:雪輪文 口縁:口紅 銘:渦福
5	8T	SK5	磁器	皿	肥前(有田)	1690~1730	26.0	16.8	3.8	染付 内:牡丹文 外:蔓草文 高台内:針支え痕
6	9T	Va	磁器	皿	肥前(波佐見)	18世紀中	7.0	3.9	4.6	染付 内:扇文 見込み:コンニャク印判五弁花文 外:蔓草文 銘:渦福
7	9T	VI	磁器	皿	肥前(波佐見)	18世紀中	20.8	12.8	3.6	染付 内:扇文 見込み:五弁花文 外:蔓草文 銘:渦福
8	9T	XI	陶器	壺	肥前	17世紀	-	7.0	(14.4)	外:全面に薄く錆釉をかけた後に鉄釉を流しかけ
9	9T	VI	磁器	蓋付鉢	肥前(有田)	18世紀	10.7	7.2	8.6	染付 外:花文
第20・21次調査 (2014105・2014126)										
掲載No.	出土位置		種別	器種	産地	年代	法量 (cm)			器形・調整・文様・釉薬等
	トレンチ	層位					口径	底径	器高	
10	2T	排土	磁器	椀	肥前	18世紀	11.2	4.7	6.4	染付 外:雪華文 見込み:五弁花
11	2T	GL-2.9	陶器	小杯	関西系	18世紀後半	7.0	3.0	3.7	灰釉 貫入が入る
12	2T	GL-2.0	陶器	小杯	萩	19世紀	9.2	3.6	5.1	灰釉に鉄釉を流しかけ
13	1T	GL-2.3	磁器	皿	肥前	18世紀	13.8	8.1	4.35	染付 内:あざみ文 見込み松竹梅 外:蔓草文 底部:蛇の目凹型高台
14	1T	GL-1.5	磁器	瓶	肥前(波佐見)	1820~1850	2.2	-	(11.7)	染付 外:「HZAKY」の文字あり コンプラ瓶
15	2T	排土	陶器	瓶	肥前(内野山)	18世紀後半	3.2	-	(12.9)	頸部:鉄釉薬 体部:灰釉
第22次調査 (2014145)										
掲載No.	出土位置		種別	器種	産地	年代	法量 (cm)			器形・調整・文様・釉薬等
	トレンチ	層位					口径	底径	器高	
16	1T	VI	磁器	椀	肥前	18世紀前半	11.2	4.7	6.5	青磁染付 内:四方襷 見込み:五弁花 銘:渦福
17	1T	XII	陶器	鉢	関西系	18世紀~	15.0	7.0	6.5	鉄釉 底部に足が3つつく
18	2T	焼土穴	磁器	向付	肥前	18世紀前半	7.0	4.0	5.4	白磁
19	2T	焼土穴	磁器	向付	肥前	18世紀後半	9.0	6.0	6.7	染付 外:菊文(手描き)
20	2T	焼土穴	磁器	皿	肥前	18世紀後半	14.0	8.0	3.7	青磁染付 内:茗荷に「寿」 外:蔓草文

表2 木製品観察表

第19次調査 (2014101)									
掲載No.	出土位置		種類	器種	法量 (cm)			木取り	加工痕・調整
	トレンチ	層位			長さ	幅	厚さ		
21	8T	VI層	容器	結物側板	38.3	7.1	0.8	板目	表面に焼印「上諸白」



第19次調査 9 T 東壁土層断面 (西から)



第21次調査 1 T 溝完掘状況 (東から)



第22次調査 1 T 西壁土層断面 (東から)



第22次調査 2 T 東壁土層断面 (西から)

### Ⅲ 文化財センターの事業

#### 1 発掘調査の概要

##### (1) 本発掘調査について

試掘・確認調査で埋蔵文化財の存在が確認され、埋蔵文化財が土木工事により破壊される場合、記録による保存を目的とした発掘調査を実施する。これを本発掘調査（本格発掘調査）と呼んでいる。

新潟市では、本発掘調査の要否について、文化庁の示した通知（平成10年9月29日付庁保記第75号 各都道府県教委教育長宛文化庁次長通知「埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化等について（通知）」及びそれを受けて設定した新潟県教育委員会の基準（平成11年9月10日付「発掘調査の要否等の判断基準」）に即して判断している。

試掘・確認調査で遺跡の内容を十分に把握した後、遺跡の保存のため可能な限り遺跡を破壊せず、また遺跡が破壊され本発掘調査が必要な場合であっても最小限の規模となることを目指して開発事業者等と遺跡の取扱いについて協議している。しかし、民間事業の宅地開発事業における道路部分や公共事業でも大規模な圃場整備事業等では、遺跡を破壊しない計画への変更が困難な場合もあり、本発掘調査による記録保存を行うことが多い。

本発掘調査実施にあたっては、『法』第99条により、本市教育委員会がこれを実施するものとし、基本的に直営の体制で対応している。しかし、現在の発掘調査の件数・規模に対し、現体制では対応可能な調査担当や調査員の人数が限定されている。また、現場作業と並行して整理・報告書作成作業も遅滞なく進めていかなければならず、民間調査組織を適宜導入している。

##### (2) 平成26年度の本発掘調査

表1に示した通り、3遺跡で発掘調査を行った。

圃場整備関係1件、道路関係2件とすべて公共事業が原因である。

圃場整備の用排水工部分及び面施工部分が対象となった細池寺道上遺跡（2014001、本書41頁概要報告）の調査面積が5,500㎡を超えた他は、いずれも1,000㎡未満と

比較的小規模な調査面積となっている。（廣野耕造）

##### (3) 平成26年度の発掘調査現地説明会

平成26年度は細池寺道上遺跡で現地説明会を開催した（表2）。細池寺道上遺跡では、異なる原因の調査が2か所で行われたが、調査地が近いことから同じ日に現地説明会を開催したところ142名と多くの参加者があった。手代山北遺跡（2014003、本書43頁概要報告）は、面積が狭小であったことと調査期間が非常に短いことから現地説明会は行わなかった。（今井さやか）



現地説明会風景（細池寺道上遺跡第43次調査）



現地説明会風景（細池寺道上遺跡第44次調査）

表2 平成26年度発掘調査現地説明会参加者数

年月日	遺跡名	参加者数 (人)
2014/9/28 (日)	細池寺道上遺跡	142

表1 平成26年度本発掘調査一覧（調査番号順）

調査番号	遺跡名	調査回数 (次)	調査面積 (㎡)	調査地	調査の原因	調査担当	調査員	調査期間	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物
2014001	細池寺道上遺跡	44	5,547.60	秋葉区東金沢字家浦97番外	圃場整備	立木宏明	牧野耕作、松井 智、安達尊伸、長沼吉嗣、南波 守（㈱吉田建設）	7/16～12/26	平安・鎌倉・室町	掘立柱建物・井戸・土坑・溝・性格不明遺構・水田跡・板列・道路状遺構・ピット	古代土器・中世土器・土製品・石製品・搬入碑・鉄製品・木製品・自然遺物
2014002	細池寺道上遺跡	43	557.28	秋葉区大安寺693番3外	市道改良	遠藤恭雄	青木 誠・日聖祐輔（㈱イビシク）	6/23～10/10	平安・鎌倉・室町	井戸・土坑・道路状遺構・ピット	土師器・須恵器（平安）、珠洲焼・青磁等（中世）、石製品
2014003	手代山北遺跡	4	62.97	江南区手代山一丁目2528番10外	市道改良	遠藤恭雄	大谷祐司（㈱吉田建設）	12/19～12/26	平安・鎌倉・室町・近世以降	溝・ピット	土師器

## 2 平成26年度の本発掘調査

平成26年度本発掘調査の概要を次項より記す。概要は、基本的に調査番号順であるが、同遺跡の場合は調査

回数順としている。概要掲載遺跡の位置を図1、一覧を表3に、試掘・確認調査の概要掲載遺跡と併せて示した。各項題は、調査名であり、末尾括弧内は調査番号である。(金田拓也)

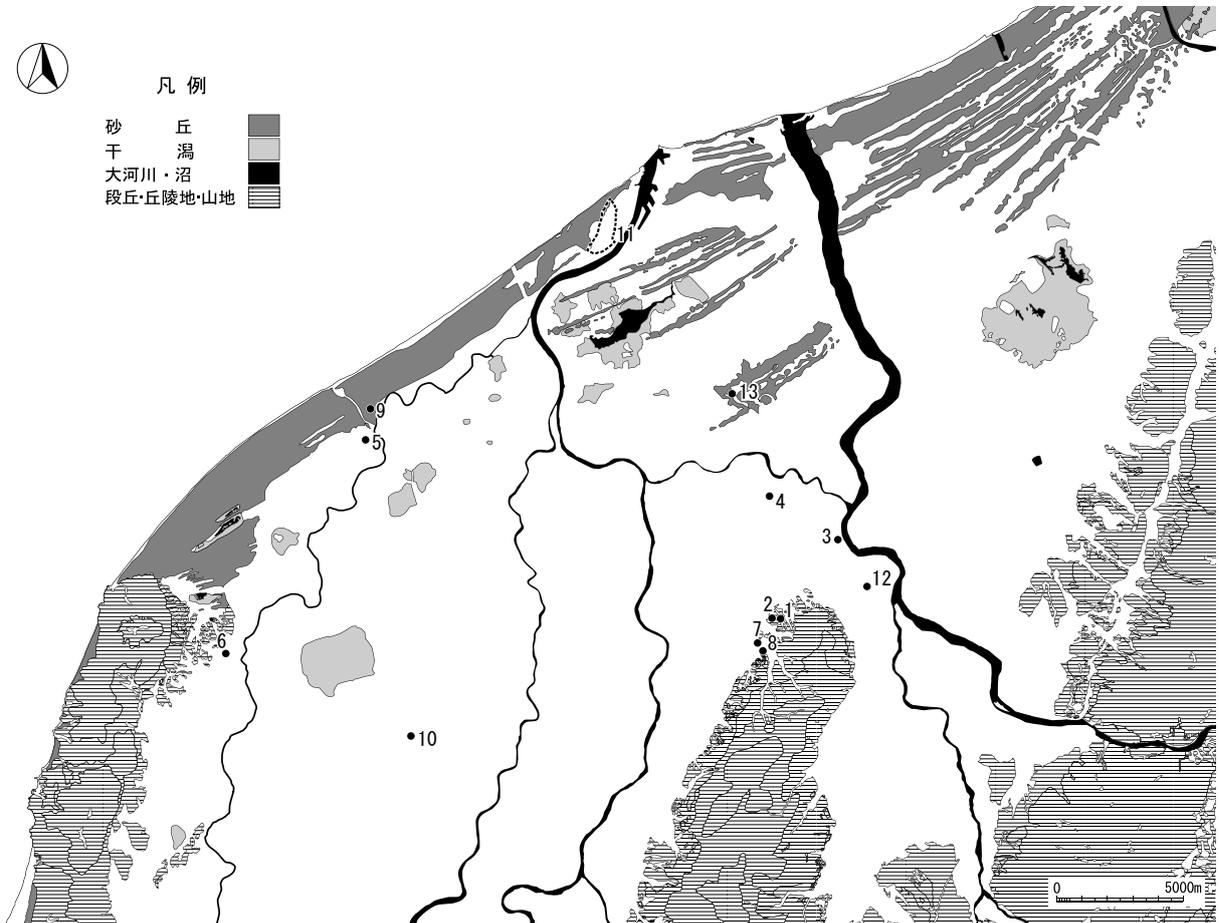


図1 平成26年度概要掲載発掘調査位置図 (1/300,000)

表3 平成26年度概要掲載発掘調査一覧

平成26年度事前審査に係る試掘・確認調査及び工事立会

遺跡番号	遺跡名	調査回数(次)	調査番号	位置番号(図1)	掲載頁
126	原遺跡	7・8	2013188 2014111 2013190	1	7
761	沢海遺跡	1・2	2014112 2014149	2	13
208	中新田久保遺跡	3・4	2014113 2014226	3	15
765	内畑遺跡	1	2014119	4	16
3	六地山遺跡	11	2014122 2014127 2014140	5	17
763	下田東遺跡	1・2	2014150	6	20
132	舟戸遺跡	23	2014152	7	21
135	高矢C遺跡	8	2014155	8	23
766	細越遺跡	1	2014162	9	25
572	仲歩切遺跡	3	2014178 2014179	10	26
575	近世新湯町跡	19~22	2014101 2014105 2014126 2014145	11	34

平成26年度本発掘調査

遺跡番号	遺跡名	調査回数(次)	調査番号	位置番号(図1)	掲載頁
151	細池寺道上遺跡	43	2014002	12	41
		44	2014001		42
734	手代山北遺跡	4	2014003	13	43



本発掘調査風景 (細池寺道上遺跡第44次調査)

(1) 細池寺道上遺跡 第43次調査 (2014002)

所在地 新潟市秋葉区大安寺693番3 外  
調査の原因 市道大安寺第5号大関線改良工事  
(公共事業)

調査期間 平成26年6月23日～10月10日

調査面積 557.28㎡

調査担当 遠藤恭雄

調査員 青木 誠・日聖祐輔 (㈱イビソク)

処 置 記録保存

調査に至る経緯 市道大安寺第5号大関線の拡幅工事に伴い、平成25年度に確認調査を実施した(第42次・2013176)。その結果を受けて、新潟市秋葉区建設課より『法』第94条の通知が提出され(平成26年3月10日付)、平成26年6月20日付新歴F第77号で着手報告を提出し、本発掘調査を実施した。

位置と環境 今回の調査は、遺跡北側にあたり、平成20年度に実施した調査(第26次・2008006)の2区に隣接する。幅2m、延長約300mの範囲を対象とした。標高は現水田面において8.2～8.5m前後で、南東から北西にかけて緩やかな下り勾配を有する。

検出遺構 第26次調査2区に隣接する部分を中心に、地表面から0.5～1.5mほどの深さで道路状遺構1条、井戸10基、溝29条、土坑15基、柱穴192基など計247基の遺構が検出された。溝や道路状遺構、建物の柱穴については、第26次調査2区と連続する位置で確認されている。

出土遺物 遺物包含層は水田耕作などの影響を受けて部分的な残存にとどまり、主に遺構の中から珠洲焼を中心とする中世遺物が出土している。年代的には、13世紀～14世紀を中心とするもので、検出された遺構も同時期が主体であると考えられる。また、平安時代の土器器・須恵器も少量出土している。

その他、井戸や溝の土壌を分析した結果、イネやコムギの種実やソバ・アブラナ科(ナタネ、ダイコン、ハクサイなど)の花粉が検出され、調査地周辺でこれらの植物が栽培されていたと推定される。

まとめ 第26次調査2区との溝や道路状遺構、建物の柱穴などの連続性を確認できた。また、調査地南端部でも、溝や土坑などの遺構が集中する区域があり、調査地南側にも集落範囲の広がる可能性がある。

調査地は、検出された道路状遺構の続きと建物跡や井戸などの集落の痕跡から、13～14世紀を主体に営まれた散村的な農村集落の一部にあたると思われる。

第43次調査の報告書は、平成26年度に刊行した〔遠藤・青木ほか2015〕。(遠藤恭雄)



図1 調査位置図(1/10,000)



調査地遠景(南東から)



道路状遺構(北東から)



第26次調査2区(下)・第43次調査(上)合成写真(北東から)

(2) 細池寺道上遺跡 第44次調査 (2014001)

所在地 新潟市秋葉区東金沢字家浦97番 外

調査の原因 両新地区ほ場整備事業（公共事業）

調査期間 平成26年7月16日～12月26日

調査面積 5547.6㎡

調査担当 立木宏明

調査員 牧野耕作、  
松井 智・長沼吉嗣・安達尊伸・  
南波 守（榊吉田建設）

処 置 記録保存

**調査に至る経緯** 新潟県地域振興局から平成26年4月10日付で本発掘調査の依頼文書が提出され、これを受けて圃場整備工事により保護層が確保できない範囲（2区1556.2㎡、3区2308.5㎡、4区1031.0㎡、5区9.4㎡）及び幅2mの用・排水路管理設区域とこれに接したユニット埋設場所（1区642.5㎡）を対象とした調査を、平成26年7月16日付で報告し、本発掘調査を実施した。

**位置と環境** 細池寺道上遺跡は、新津丘陵の東側を流れる能代川と阿賀野川に挟まれた沖積地に立地する古代・中世の遺跡である。遺跡の広がりには南北1.7km・東西1.2kmにおよぶ。現地表面標高は9～10mである。

これまでも複数回の調査が行われており、古代・中世の遺物やそれらと同時代と考えられる遺構が確認されている〔立木2015ほか〕。

**概要と層序** 調査区は遺跡範囲中央に位置する1～3区と遺跡範囲南側の4・5区に分かれる（図1）。

**検出遺構** 遺構は掘立柱建物35棟、井戸48基、土坑183基、溝110条、道路状遺構2か所などに代表される計3,249基が検出された。

1～3区の古代の遺構としては掘立柱建物が2区で3棟、3区で2棟確認された。その他にカマド状遺構8基、井戸・土坑・ピットなどをまとめて検出した。また、3区から幅4～5m程の旧河道が検出している。中世の遺構としては掘立柱建物が26棟確認され、その他に井戸・土坑・溝・道路状遺構・水田跡などが確認された。4区での古代の遺構としては土坑・溝などが、中世の遺構としては掘立柱建物が4棟、南北に走る幅3m程の道路状遺構、井戸側を伴い底面に径50cmの大型曲物を水溜めとした井戸などが検出された。

**出土遺物** 今回の本発掘調査では、コンテナケース404箱を数え、1～3区は古代では9世紀代の須恵器・土師器の食膳具・貯蔵具・煮炊具が多く出土した。旧河道中からは墨書土器37点が出土した。中世では13～14世紀代の珠洲焼大甕・壺・片口鉢が出土した。その他に鉄鍬などの鉄製品や砥石・磨石などの石製品が出土した。

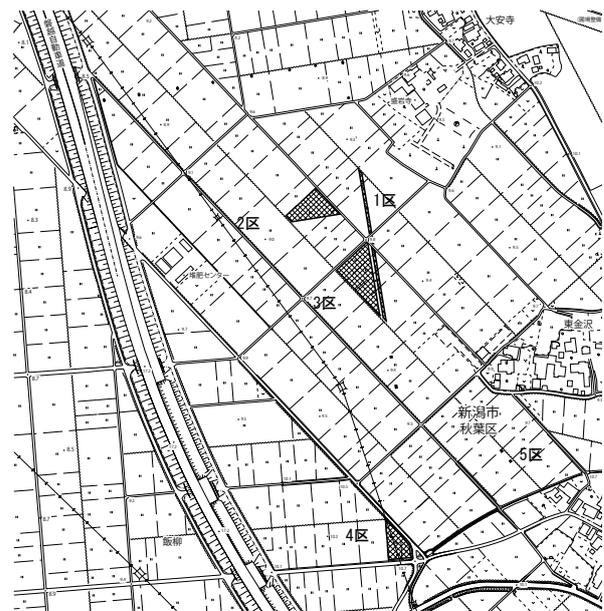


図1 調査位置図 (1/10,000)



1・3区調査区全景（東から）



4区井戸 (SE215) 検出状況 (南から)

4区では古代の須恵器・土師器の食膳具のほか中世の曲物・井戸側などの木製品が出土した。

**まとめ** 出土遺物の様相から平安時代から室町時代を通じて有力な集落であったと判断される。古代では旧河道を通じた内水面交通の拠点集落であり、中世においては計画的に溝で区画された有力集落と考えられる。報告書は平成28年度以降に刊行予定である。（立木宏明）

### (3) 手代山北遺跡 第4次調査 (2014003)

所在地 新潟市江南区手代山一丁目2528番10 外

調査の原因 市道亀田南線道路改良工事 (公共事業)

調査期間 平成26年12月19日～12月26日

調査面積 62.97㎡

調査担当 遠藤恭雄

調査員 大谷祐司 (榎吉田建設)

処置 記録保存

**調査に至る経緯** 手代山北遺跡は、市道亀田南線道路改良工事に伴う試掘調査 (第1次・2007192) で新たに発見された遺跡である。平成19 (1区 第2次・2007007、以下「1区」)・20 (2区 第3次調査・2008003、以下「2区」) 年度に同工事に伴う本発掘調査が行われており、古代の集落縁辺部に位置すると推測されている (朝岡ほか2009)。今回調査地は、1・2区調査実施時に未買収のため調査範囲から除外された部分で、1区北東側に隣接する (図2)。付近は1区調査において古代の遺構が比較的まとまって検出された地点であり、未調査部分に遺構の広がる可能性が高いことから本発掘調査が必要と判断された。新潟市土木部東部地域土木事務所より『法』第94条の通知が提出され (平成26年12月1日付)、平成26年12月18日付新歴B第172号の10で着手報告を提出し、本発掘調査を実施した。

**位置と環境** 手代山北遺跡は旧流路 (現亀田排水路) の自然堤防上に立地する (図1)。調査前は果樹園の一部となっており、現地標高は1.0m前後である。

**概要と基本層序** 道路工事により、耕作土はほとんど削平されていた。基本層序は3層に分けられる (図4)。I層は近世以降の客土で1・2区調査のII層に対応す



図1 調査位置図 (1/10,000)



調査地全景 (北から)

る。II層は第2次調査のI層に相当する。III層は第3次調査のI層に相当する。

IV層は第3次調査のII層に相当する。V層は第3次調査のIII層に相当する。

VI層は第3次調査のIV層に相当する。VII層は第3次調査のV層に相当する。

VIII層は第3次調査のVI層に相当する。IX層は第3次調査のVII層に相当する。

X層は第3次調査のVIII層に相当する。XI層は第3次調査のIX層に相当する。

XII層は第3次調査のX層に相当する。XIII層は第3次調査のXI層に相当する。

XIV層は第3次調査のXII層に相当する。XV層は第3次調査のXIII層に相当する。

XVI層は第3次調査のXIV層に相当する。XVII層は第3次調査のXV層に相当する。

XVIII層は第3次調査のXVI層に相当する。XIX層は第3次調査のXVII層に相当する。

XX層は第3次調査のXVIII層に相当する。XXI層は第3次調査のXIX層に相当する。

XXII層は第3次調査のXX層に相当する。XXIII層は第3次調査のXXI層に相当する。

XXIV層は第3次調査のXXII層に相当する。XXV層は第3次調査のXXIII層に相当する。

XXVI層は第3次調査のXXIV層に相当する。XXVII層は第3次調査のXXV層に相当する。

XXVIII層は第3次調査のXXVI層に相当する。XXIX層は第3次調査のXXVII層に相当する。

XXX層は第3次調査のXXVIII層に相当する。XXXI層は第3次調査のXXIX層に相当する。

XXXII層は第3次調査のXXX層に相当する。XXXIII層は第3次調査のXXXI層に相当する。

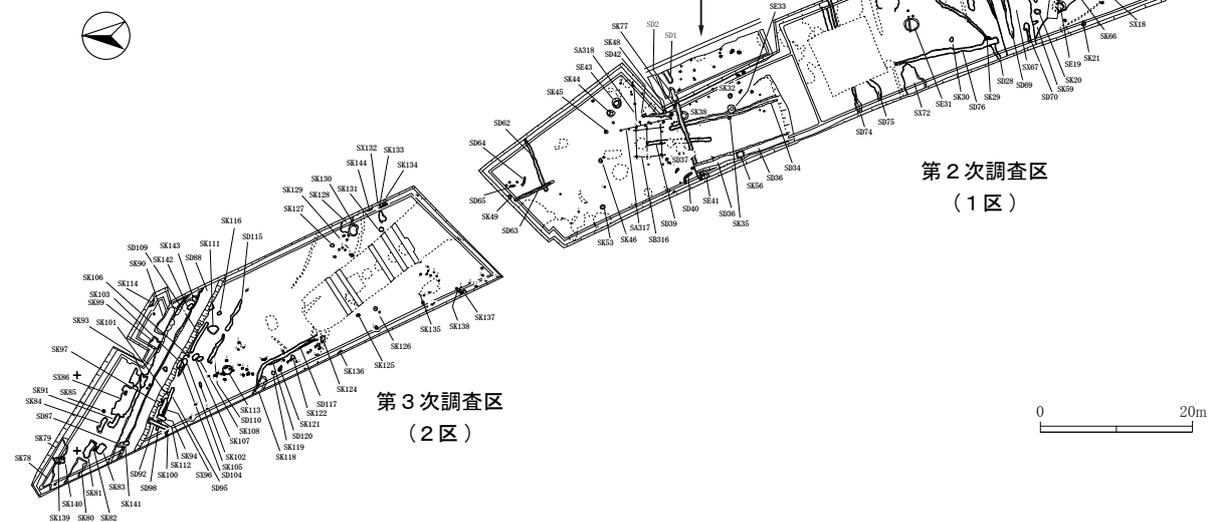


図2 第2～4次調査全体図 (1/1,000)

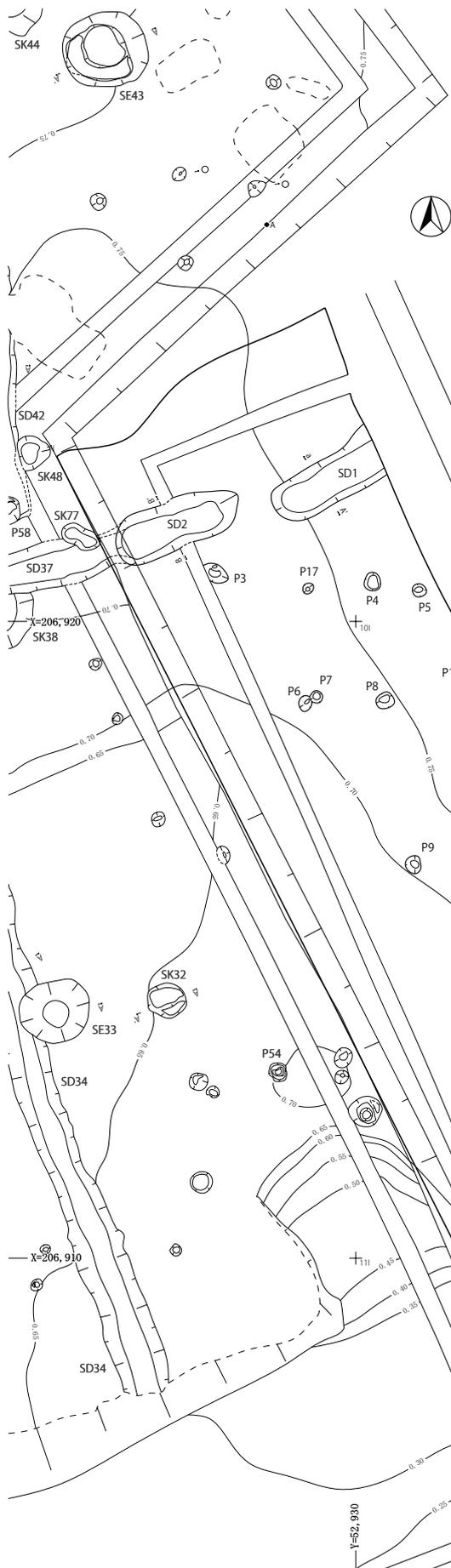
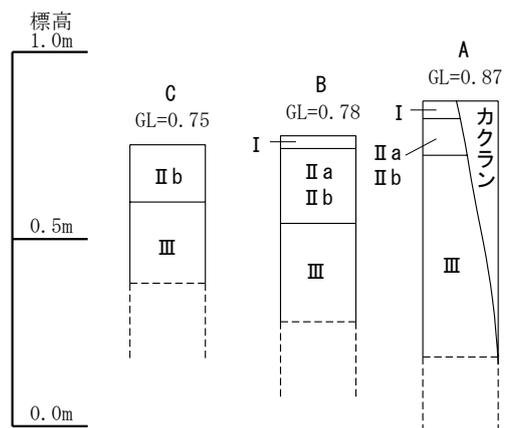


図3 遺構全体図 (1/100)



- I 層 10YR3/3 暗褐色粘土 粘性あり、しまり強い。  
 II a層 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性あり。しまり強い。  
 10YR4/2 黄褐色粘土、φ5~10mmの10YR4/3にぶい黄褐色砂ブロック多く含む。  
 II b層 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性あり。しまり強い。  
 III 層 10YR4/3 にぶい黄褐色砂 粘性・しまり弱い。

図4 土層柱状図 (1/20)



- SD 1  
 1 10YR6/1 褐灰色シルト 粘性、しまり強い。  
 φ1mm前後の炭化物を少し含む。  
 2 10YR6/2 灰黄褐色粘土 粘性、しまり強い。  
 φ1mm前後の炭化物を若干含む。

- SD 2  
 1 7.5YR6/1 褐灰色シルト 粘性強い、しまりやや弱い。  
 2 7.5YR4/1 褐灰色シルト 粘性やや強い、しまり強い。

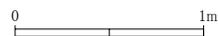
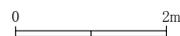


図5 遺構断面状図 (1/40)



る。Ⅱ層上面は遺構検出面である。灰黄褐色シルトに黄褐色粘土が混じる層で1・2区調査Ⅴa層に対応する。Ⅲ層は黄褐色砂層で河川由来と考えられる。1・2区調査ではこれに対応する層は確認されていない。

**検出遺構** 検出した遺構は溝2条（SD1・2）、ピット15基である（図3・5）。溝はいずれも南西から北東方向に延び、SD1は北東端が調査区外へ続く。SD2は1区調査で確認されたSD37の続きである。ピットは柱痕を確認したものもある（P14・15）が、建物は確認できなかった。すべての遺構から、時期を判断できる遺物は出土していない。しかし、遺構の時期は形態・大きさ・覆土の様相からすべて近世以降の所産と推測した。な

お、覆土の分類については、1・2区調査に従った。SD2は第2次調査における出土遺物や切り合い関係から近世以降の所産と判断した。

**出土遺物** P14から出土した土師器細片1点のみである。時期や器種などは不明である。

**まとめ** 以上から今回調査においては、1区調査と連続する古代の遺構の広がりには確認されなかった。調査地付近では、南西から北東側に向かって緩やかに高くなる地形であることから、調査範囲外の北東側に微高地部および遺跡の主体が存在する可能性がある。

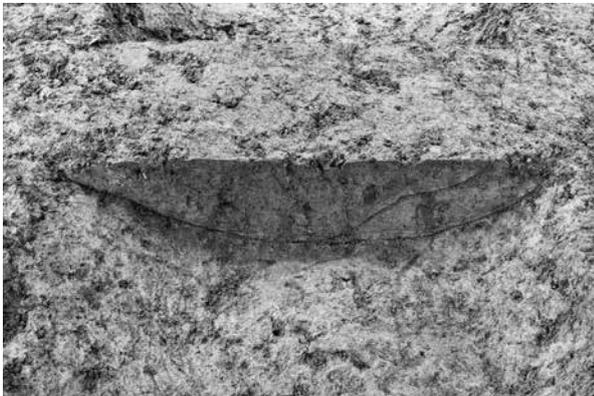
手代山北遺跡第4次調査については、本書の記述をもって正式報告とする。（遠藤恭雄）



着手前状況（南東から）



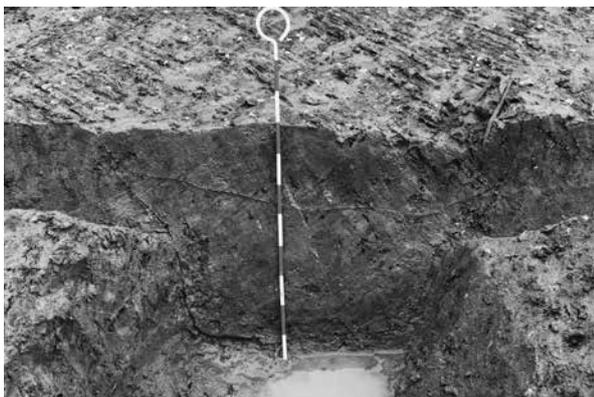
完掘状況（北西から）



SD1土層断面状況（南西から）



SD1完掘状況（南西から）



SD2土層断面状況（北東から）



SD2完掘状況（北東から）

### 3 整理作業の概要

平成26年度に文化財センターが実施した発掘調査等の整理作業一覧を調査番号順に表4に示した。整理作業のうち、主要なものについて以下に記述する。

#### (1) 試掘・確認調査、工事立会、本発掘調査の再整理事業

平成25年度の試掘・確認調査、工事立会に伴う遺物について収蔵のための再整理を行い、コンテナ約30箱を収蔵した。また、以前に新潟県教育委員会から譲与を受けた図面資料等についても台帳内容の確認を行った。

試掘・確認調査、工事立会は歴史文化課で実施し、出土遺物については文化財センターで水洗・注記・収蔵作業を行っている。

報告書刊行済みの調査資料については収蔵棚位置の確認作業を行い、管理台帳の整備を進めた。

平成24年度より実施している馬場屋敷遺跡等再整理では、下層出土の木製品実測図のトレース作業に着手した。(相澤裕子)

#### (2) 大沢谷内遺跡第19～21次調査の整理作業

**整理作業の概要と整理体制** 大沢谷内遺跡第19～21次調査は、一般国道403号小須戸田上バイパス整備工事に伴い平成23～25年度に実施した本発掘調査である。整理作業の対象区は8・9区で、第19次調査(平成23年度)：8・9区、第20次調査(平成24年度)：9区、第21次調

査(平成25年度)：8区である。なお、8・9区では、奈良・平安時代や鎌倉時代を中心とする時期の建物や畑・水田等が確認されている。遺物については、奈良・平安時代では円面硯や奈良三彩、越州窯系青磁、石帯、アスファルト、木製品、鎌倉時代では筭や栗形、アスファルト、鉄や櫛の木製品等が出土している。

平成23・24年度に、発掘調査と並行して遺物の洗浄や注記、接合、記録類の基礎整理及び現場で採取した土壌水洗等を行っていたが、本報告書作成に係る本格的な整理作業は平成25・26年度の2か年で実施した。平成25年度は現場作業終了後に、8区を中心とした遺構図面の整理や、抽出遺物の実測図作成及びデジタルトレース、写真撮影等を行った。平成26年度は9区を中心とした遺構図面・遺物の整理作業を行い、遺構では、図面校正及び仮レイアウトを、遺物では、実測図作成・デジタルトレース、実測遺物の写真撮影、レイアウト等を行った(表5)。さらに報告書の原稿執筆、各種図面の版下作成や編集等を行った。なお、平成25・26年度の整理作業体制は表6のとおりである。

**整理作業の成果** 大沢谷内遺跡において、既刊の発掘調査報告書〔川上1989b、細野ほか2012、前山ほか2012〕に続く4冊目の報告書であるため、『大沢谷内遺跡Ⅳ 第19・20・21次調査』〔相田ほか2015a〕として平成27年3月に刊行した。(相田泰臣)

表4 平成26年度整理作業一覧

遺跡名・事業名	調査回数	調査番号	整理原因	整理担当	主な作業内容
沖ノ羽遺跡	19・22・24	2006005・2007004・2008002	本発掘調査に伴う整理	遠藤恭雄・澤野慶子	遺物実測・報告書作成・収蔵作業・台帳作成
中谷内遺跡	15・16	2011002・2012004		遠藤恭雄・澤野慶子・笹澤正史(㈱吉田建設)	報告書作成
内野遺跡	8・9	2011003・2012003			
細池寺道上遺跡	26・27・30・31・41・44	2008006・2010003・2011005・2012006・2013004・2014001	本発掘調査に伴う整理	立木宏明・相澤裕子・澤野慶子・牧野耕作・細井吉浩・不破野希春・松井 智・長沼吉嗣・安達尊伸・南波 守(㈱吉田建設)	基礎整理・遺物実測・報告書作成・印刷刊行・収蔵作業
西江浦遺跡	3	2012005			
大沢谷内遺跡	19・20・21	2011006・2012001・2013002	本発掘調査に伴う整理	相田泰臣・金田拓也・八藤後智人	基礎整理・遺物実測・報告書作成・印刷刊行
下新田遺跡	6・8・9	2012008・2013005・2013006	本発掘調査に伴う整理	龍田優子	基礎整理・遺物実測・写真整理・報告書作成
峰岡上町遺跡	3	2013003	本発掘調査に伴う整理	前山精明	基礎整理・遺物実測・写真整理・報告書作成
細池寺道上遺跡	43	2014002	本発掘調査に伴う整理	遠藤恭雄・青木 誠・日聖裕輔(㈱イビック)	基礎整理・遺物実測・報告書作成・印刷刊行・収蔵作業
手代山北遺跡	4	2014003	本発掘調査に伴う整理	遠藤恭雄・大谷祐司(㈱吉田建設)	基礎整理・報告書作成
馬場屋敷遺跡ほか 試掘調査・確認調査・ 工事立会・本発掘調査 再整理事業	1・2・3 —	1983006ほか —	再報告に伴う整理 収蔵作業に伴う整理	相澤裕子・渡邊明和 相澤裕子・渡邊明和	再整理 収蔵作業・台帳作成

表5 平成25・26年度大沢谷内遺跡の主な整理作業の内容(8・9区)

年度	内容
平成25年度	第19次・20次・21次調査：遺物実測、遺物実測図デジタルトレース 第21次調査：遺物写真撮影
平成26年度	第19次・20次・21次調査：遺構図面・遺構写真図版デジタル編集、遺物実測、遺物実測図デジタルトレース、遺物写真撮影、遺物図面・遺物写真図版デジタル編集

表6 平成25・26年度大沢谷内遺跡整理作業体制

平成25年度		平成26年度	
調査主体	新潟市教育委員会(教育長 阿部愛子)	調査主体	新潟市教育委員会(教育長 阿部愛子)
所管課・事務局	新潟市文化財センター (所長：中野俊一・所長補佐：丸山徳幸・文化財センター主任：渡邊明和)	所管課・事務局	新潟市文化財センター (所長：中野俊一・所長補佐：福地康郎・文化財センター主任：渡邊明和)
整理担当	相田泰臣(新潟市文化財センター主査)	整理担当	相田泰臣(新潟市文化財センター主査)
調査員	金田拓也(新潟市文化財センター文化財専門員) 佐藤 俊(㈱ノガミ)	調査員	金田拓也(新潟市文化財センター文化財専門員) 八藤後智人(新潟市文化財センター専門臨時職員)
整理補助員	小柳和香・関根里江・西郡大輔 (新潟市文化財センター臨時職員)	整理補助員	北見順子・小柳和香・古山利美子・佐々木陽子・関根里江・森岡綾子(新潟市文化財センター臨時職員)

## 4 資料の収蔵・保管

### (1) 収蔵方針

文化財センターでは、新潟市内で発掘調査によって出土した遺物や、写真・図面などの記録類を一括集中管理している。なお、文化財センター開館以前の発掘調査によらない考古資料や個人寄贈・寄託資料に関しては、各区の博物館や資料館などで保管・管理が行われている。

### (2) 収蔵・保管施設

収蔵・保管施設は、埋蔵文化財収蔵庫・特別収蔵庫1（木製品）・2（金属製品）・資料収蔵庫・図書室・民俗資料収蔵庫がある。民俗資料収蔵庫は（6）に記載した。

**埋蔵文化財収蔵庫** 土器や石器などの比較的周辺の影響による劣化のしづらい資料を収蔵している。平成27年3月末時点で11,717箱収蔵している。

**特別収蔵庫1・2** 保存処理が完了した木製製品や金属製品などを収蔵している。平成27年3月末時点で特別収蔵庫1に649箱（木製品）、特別収蔵庫2に189箱（金属製品101箱、骨・骨製品88箱）収蔵している。

**資料収蔵庫** 発掘調査の図面や写真フィルム・CD・DVDなどの記録類を収蔵している。

**図書室** III 6(6)に記載した。

### (3) 発掘調査番号

遺物や調査記録類をまとめるために、新潟市内における全ての発掘調査及び工事立会に対し調査番号を付けている。

### (4) 再整理作業

文化財センター開館以前の資料について、平成26年度も継続して作業を継続中である。

### (5) 収蔵資料のデジタル化及びデータベース化

保存と活用のために、遺構に関しては遺構台帳を作成し、図面や写真等の記録類に関しても紙やフィルムなどのアナログデータのデジタル化を実施している。

発掘調査図面は、殆どが業者に委託したデジタルデータ（CADデータ）が存在する。

写真に関しては、発掘調査終了後速やかにデジタル化を行っており、データ形式も汎用性を考えてtiffデータとしている。

発掘調査報告書に関しては、印刷業者に報告書を入稿する前もしくはその後にpdfデータを作成している。

収蔵図書に関しても書誌データ（CSV形式）を継続して登録している。

### (6) 民俗資料等

民俗資料収蔵庫には、農具・漁労具・生活用具等の民具を中心に収蔵している。非常勤職員を雇用し、整理作

業や台帳作成を行っている。平成26年度も所蔵数に変化はなく、約3,000件が収蔵されている。また、平成26年度には民俗資料収蔵庫において防虫処理（ブンガノン散布）を行った。

その他、文化財センターに隣接する旧木場小学校校舎は、「大形民具収蔵庫」として利用され、敷地・建物を文化財センターが、収蔵品の民俗資料は歴史文化課・新潟市歴史博物館が管理している。

### (7) 埋蔵文化財情報管理システム

埋蔵文化財の管理と活用、デジタル化した記録類のデータ管理を目的として、『埋蔵文化財情報管理システム』を活用している。遺跡管理のための地理情報管理システム（GIS）と発掘調査記録や収蔵品管理のためのデータベースの機能を併せ持ったシステムである。このシステムは、新潟市役所の統合型GISのサブシステムとして構築されている。

平成25年度に新潟市役所のGeoBase版統合型GISのOSサポート期間が平成27年度に満了となることに伴い、GeognoSIS版統合型GISに新潟市役所全庁のシステムを統合することが決定した。そこで、『埋蔵文化財情報管理システム』を含む全てのサブシステムについて再構築を行うこととなった。そのため、平成26年度は平成27年度5月にシステムの運用開始を目指し、サブシステムの設計作業が行われた。（金田拓也）



特別収蔵庫1 収蔵状況



特別収蔵庫2 収蔵状況

## 5 資料の公開・活用

### (1) 展示

『新潟市文化財センター条例』の設置目的にある「埋蔵文化財及び有形民俗文化財を保存し、及びこれらの活用を図る」主な事業の一つとして埋蔵文化財・有形民俗文化財の展示を行っている。

文化財センターの展示は以下のような方針で構成されている。文化財センターには市内から出土した埋蔵文化財が大量に所蔵されており、これからも毎年行う発掘調査で新資料が増えるので、博物館のようにストーリー性を持った固定的な展示ではなく、展示品・グラフィックパネル共に自ら容易に変更できるようにした。そして、平成26年度からは、年4回の企画展を開催することとした。企画展の内容については、市内8区の遺跡を順次紹介することを柱とし、今年度は西区と西蒲区について行い次年度以降に他の区を行うことにした。

**展示室1** 導入展示室兼展示室2の前室としての機能を有している。「歴史を伝える出土品の世界」と題して、市内で出土した縄文時代から近世の土器陶磁器、縄文時代から近世の木製品を壁一面に展示している。また、緒立遺跡出土の網代や御井戸遺跡の木柱などの大型木製品、市内出土の木簡レプリカ、近世新潟町出土の陶磁器をケースで展示している。

**展示室2** 大きく3つの展示に分かれている。「新潟市文化財センターの活動」では、文化財センターが行っている発掘調査現場を再現した西区四十石遺跡のジオラマと、発掘調査・整理作業で使用する器材を展示している。また、4面のウォールケースでは「遺跡が語る新潟市の歴史」と題して旧石器時代から江戸時代までの通史展示を行っている。一般になじみの薄い原始・古代・中世・近世等とせず、旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、飛鳥・奈良・平安時代、鎌倉・南北朝・室町時代、安土・桃山・江戸時代としている。大きく変更があったところとしては、弥生時代前期の資料を緒立遺跡

から西郷遺跡へと変更したことである。中央は企画展示コーナーで、平成26年度は4回の企画展を開催した(表7)。各展示詳細については次頁以降に記載する。なお、この企画展の開催によりこれまで企画展示コーナーで行ってきた「交流 交じり合う文化」を大型ケース2つに規模を縮小して展示することにした。

**エントランス** エントランスでは、大形品の展示のほか、速報性・話題性のある出土品の展示を不定期で行っている。平成26年度には、復元整備が完了し全面オープン控えた古津八幡山古墳についてのパネル展示を行った。速報展示としては平成26年度に調査を行った細池寺道上遺跡と下郷南遺跡の展示を行った。また、行燈型ケースでは平成25年度の海揚がり縄文土器に加え、平成26年度には新潟市の井村氏が発見した海揚がりの弥生土器(『年報』第2号掲載資料〔渡邊2015〕)を借用して展示を行った。平成27年3月には、大沢谷内遺跡のアスファルト関連遺物とアスファルト精製実験(『年報』第2号概要掲載〔今井2015〕)について紹介した。

来館者からは、企画展示が行われるようになってよかつたとの声が多く聞かれる。文化財センターとしても、これまで展示されてこなかつた収蔵資料を公開する機会が得られたこと、職員の展示能力の向上など多くのメリットがあつた。(今井さやか)



エントランスパネル展示(古津八幡山古墳)

表7 平成26年度文化財センター企画展一覧

企画展名	会期	企画担当	入館者数(人)	関連講演会・イベント			参加者数(人)
				演目 イベント名	年月日	講師	
泉史跡 的場遺跡・緒立遺跡展 ～平野に造られた古墳と古代の役所～	2014/4/1(火) ～6/1(日)	相田泰臣	3,181	水辺の古代官衙 ～流通漁業基地 的場遺跡～	2014/4/29(火・祝日)	坂井秀弥 (奈良大学文学部教授)	72
新潟県最古の弥生文化 緒立遺跡展 緒立遺跡と黒埼地方史研究会の活動 ～縄文の終末と弥生の始まりを求めて～	2014/6/3(火) ～8/3(日)	渡邊明和	2,406	緒立遺跡の時代 新潟界隈の縄文から弥生へ 緒立遺跡の発掘調査に参加して 1979～1981年の発掘調査 黒埼地方史研究会のこと	2014/6/15(日)	石川日出志 (明治大学文学部教授) 渡邊明和 八木 稔	60
出土品を残す技術	2014/8/5(火) ～11/30(日)	今井さやか 本間敏則	3,786	出土品を残す技術 文化財センター仕事体験	2014/8/10(日) 2014/9/21(日)	米村祥史 (東北芸術工科大学芸術学部准教授) 今井さやか	15 10
古代遺跡の多様性 ～変化に富んだ自然と人々の営み～	2014/12/2(火) ～2015/3/29(日)	前山精明 龍田優子	3,014	西蒲区の古代 低湿地での暮らし	2014/12/14(日) 2015/3/15(日)	春日真実 (公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団 調査課長代理) 中島栄一 (潟東歴史民俗資料館館長)	45 51

(2) 企画展1「県史跡 的場遺跡・緒立遺跡展  
—平野に造られた古墳と古代の役所—」

会 期 平成26年4月1日(火)～6月1日(日)  
担 当 相田泰臣  
入館者数 3,181人

**展示概要** 新潟市西区に所在する的場遺跡・緒立遺跡は、平成6年に県の史跡に指定され、平成26年度で指定から20周年を迎えた。本企画展1は、その節目を記念して、的場遺跡・緒立遺跡のこれまでの歩みを振り返るとともに、古墳時代から平安時代の資料をとおして新潟市の歴史を探ることを目的として企画した。また、両遺跡は文化財センターから約3kmと近く、企画展と現地を一緒に見学してもらえるという利点もあった。

的場遺跡と緒立遺跡は近い距離関係にあることや出土遺物の内容などから、奈良・平安時代には、一連の遺跡と考えられ、どちらも漁撈に関する官衙関連遺跡として相互に補完するような関係にあったと考えられている。

平成8年、的場遺跡の奈良・平安時代の主要遺物5,585点は県指定文化財になったが、今回の企画展は、的場遺跡出土遺物として最初のまとまった展示となった。

**展示構成**

- 1) 的場・緒立遺跡の歩みと関連文献
- 2) 的場・緒立遺跡の調査概要と遺物
- 3) 緒立八幡宮古墳の調査概要と遺物
- 4) 的場・緒立遺跡の概要と遺物
- 5) 木簡・墨書土器に残された文字資料
- 6) 役所と祭祀関係遺物
- 7) サケ漁と関係遺物
- 8) 各種生産関係遺物

**主要展示** 展示室2に入ってすぐの目立つ位置に展示した昭和27年に発見された緒立八幡宮古墳の壺は、緒立遺跡の発見の契機ともなった資料である。

的場遺跡出土の「杵(杉)人鮭」「狄食」と書かれた木簡は、前者が杉人なる人物が納めたサケに付けられていた荷札、後者が「狄」(東北地方日本海側の蝦夷)をもてなした食料を意味すると考えられている。緒立遺跡では「甕一 甕六 水戸四 □二 酒杯九十」など器名や数量を記した木簡があり、定量出土した大形須恵器甕は水産物の貯蔵や加工に使用された可能性が指摘されている。

また、墨書土器では「乙長」「廣成」「秋庭女」などの人名や、「酒屋」といった施設名が確認できる。

的場遺跡出土の灰釉・緑釉陶器、篠窯産須恵器、内外面黒色処理された椀、赤彩された杯や暗文土器、木製の

櫛・扇、黒漆を塗った木杓、帯金具、太刀金具、鈴等は、当遺跡が公的な機能を有した遺跡であることを示す。

的場遺跡では、調査区の北側と西側の湿地から斎串や人形、舟形、馬形、刀形などの形代が多く出土し、水辺の祭祀を行っていたと考えられる。他にも、建物の柱の穴から20枚まとまって出土した和同開珎は、地鎮の祭祀に使用されたと推測される。

漁撈関連の遺物では、土製の錘と木製の浮子が最も多く、ほかに網針などがある。木製の浮子は、長さ25～28cmの大形品(約15点)と、長さ7～15cmの小形品(約80点)があり、大形品はサケなど大きい魚に使用したと考えられている。土製の錘は管状のもので、長さ5～11cm、重さ30～200gの大形品(約300点)と、長さ2～6cm、重さ2～20gの小形品(約3,800点)があり、大形



ポスター



パンフレット

品は曳網・巻網に使用されたと推測されている。また、サケ・ボラ・スズキなどの骨や貝殻の他、製塩土器が出土しており、塩生産も行っていたことが分かる。

関連講演会 企画展の関連講演会を1回開催した。

演 目 水辺の古代官衙遺跡

－流通漁業基地 的場遺跡－

講 師 坂井秀弥氏（奈良大学文学部教授）

日 時 平成26年4月29日（火・祝日）

午後1時30分～午後3時

参加者数 72人

入館者の声 展示遺物の隣にある「的場遺跡」などのキャプションでどの遺跡から出土したかは分かるが、時

代も書かれているとより分かり易く、その時代背景が想像できる、といった声があった。確かに解説パネルだけではなく、遺物のキャプションにも時代を記入することで、理解がより深まると考えられる。今後の企画展で改善していきたい。

まとめ 関連講演会は、的場・緒立遺跡の発掘調査や実務に実際携われ、両遺跡の研究・論考も多い坂井秀弥氏にお願いした。的場・緒立遺跡のこれまでの歩みや、調査から県史跡までの裏話、両遺跡の性格や位置づけまで、全国的視野からご講演頂いた。講演終了後には、講師による展示遺物の解説を行い、参加者に大変好評であった。講演直後に実際の遺物を見学することで、遺跡の性格を推定した根拠等について知ることができ、遺跡に対する理解がより深まったと考える。

会期中、緒立遺跡や的場遺跡へ実際に行ったという方は一定数いたようであるが、企画展の一環として、職員が同行して現地で説明するなどの企画も行えば良かったと感じた。また、パンフレットは一般向けのものとは別に小学生用のものも作成して配布した。解説パネルも含め、分かり易い文章を心掛けたが、専門用語などを分かりやすく簡潔な文章でまとめることの難しさを痛感した。文章や表現方法の改善は大きな課題である。

（相田泰臣）



展示風景（展示室2）



展示状況（6 役所と祭祀関係遺物）



展示状況（7 サケ漁と関係遺物）



関連講演会風景（水辺の古代官衙遺跡）



関連講演会風景（展示解説）

(3) 企画展2「新潟県最古の弥生文化 緒立遺跡展  
緒立遺跡と黒埼地方史研究会の活動  
—縄文の終末と弥生の始まりを求めて—」

会 期 平成26年6月3日(火)～8月3日(日)  
担 当 渡邊朋和  
入館者数 2,406人

**展示概要** 西区緒立遺跡の縄文時代～弥生時代の移行期と、現在の新潟市内で教育委員会が調査主体となって行われた最古の発掘調査である1957(昭和32)・1958(昭和33)年の調査を主導した黒埼地方史研究会の活動についての展示を行った。また、平成17年の市町村合併により、旧豊栄市と旧黒埼町が新潟市になったことにより、縄文時代晩期終末の「鳥屋式」と弥生時代初頭の「緒立式」を一緒に展示する初めての機会になった。

**展示構成**

- 1) 緒立遺跡の発見
  - 2) 黒埼村教育委員会・黒埼地方史研究会による発掘調査
  - 3) 東日本における縄文時代～弥生時代の研究
  - 4) 「緒立式」-『石器時代』第9号掲載土器-
  - 5) 縄文土器と弥生土器-「鳥屋式」と「緒立式」-
  - 6) 信仰と生活
  - 7) 黒埼地方史研究会の活動
  - 8) 緒立遺跡・的場遺跡の今昔 -空中写真で見る今昔-
  - 9) 再埋葬の成立 -大形壺形土器の世界-
- 参考パネル展示 村尻遺跡・猫山遺跡

**主要展示**

- 1) 緒立八幡宮古墳出土壺形土器(古墳時代)
  - 2) 1957・1958年の発掘調査写真・図面・作業日誌、縄文土器「緒立B群」
  - 3) 4) 「緒立式」-『石器時代』第9号掲載土器の検証
  - 5) 北区鳥屋遺跡の「鳥屋式」(『石器時代』第4号他)
  - 6) 緒立遺跡石器・穿孔人骨・抜歯人骨・土製品他
  - 7) 黒埼地方史研究会の活動(発掘調査記録他)
  - 8) 空中写真で見る今昔地図・空中写真
  - 9) 再埋葬の成立 -大形壺形土器の世界-
- 参考パネル展示 村尻遺跡・猫山遺跡

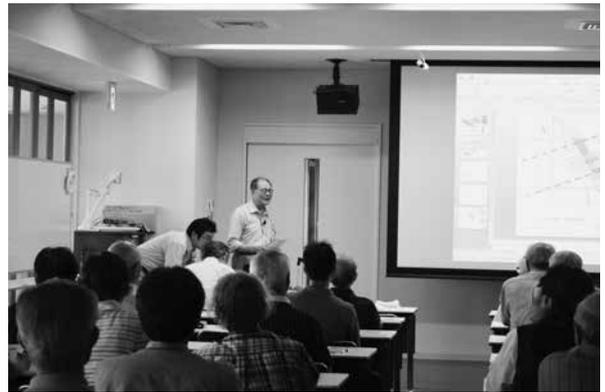
**関連講演会**

演 目 緒立遺跡の時代  
—新潟界隈の縄文から弥生へ—  
講 師 石川日出志氏(明治大学文学部教授)  
日 時 平成26年6月15日(日)  
参加者数 60人

講演会の前に、渡邊朋和「緒立遺跡の発掘調査に参加して-1979～1981年の発掘調査-」の報告と、黒埼地方



関連講演会風景(緒立遺跡の時代)



関連講演会風景(黒埼地方史研究会のこと)



展示風景(エントランス)



展示風景(展示室2)

史研究会の会員であった八木稔氏に「黒埼地方史研究会のこと」として1957・1958年の発掘調査の会の経緯などについてお話いただいた。

**入館者の声** エントランスに発掘調査のスナップ写真をA4サイズにして展示したところ、調査参加者の方々から懐かしいという意見が寄せられた。

**展示調査成果** 企画展では弥生時代の初頭の遺物がまとまって出土した緒立B遺跡を中心とし、1957・1958年、1979（昭和54）・1980（昭和55）年の発掘調査出土品を中心に展示を行った。また、磯崎正彦氏のご遺族から黒埼町（当時）に寄贈された資料や、青木宏氏のご遺族から新潟市に寄贈された資料のうち、『石器時代』第9号の草稿や、これまで知られていなかった1957・1958年の発掘調査写真や図面類、黒埼地方史研究会関係資料などの展示も行うことができた。

#### (a) 緒立遺跡の概要

遺跡は新潟市西区黒鳥・緒立流通一丁目・緒立流通二丁目に所在する。西川右岸、低湿地の中の小砂丘上にある。縄文時代晩期、弥生時代前期～中期、古墳時代前期、奈良・平安時代、鎌倉・室町時代の遺構・遺物が検出されている。

緒立遺跡は、1952（昭和27）年に緒立八幡宮（新潟市西区黒鳥）の社殿改修工事の際に口頸部の欠損する完形の大形壺が出土したことを契機に見えられた。2014（平成26）年までに10回以上の発掘調査が行われており、新潟市内では古くから研究が行われている遺跡の一つである。現在では、地点によってA・B・Cの3地点に分けられており、遺跡発見のきっかけとなった緒立八幡宮古墳のある緒立A遺跡は県指定史跡となっている。

#### (b) 発掘調査の経緯と意義

緒立遺跡は、黒埼村教育委員会、鷺尾年秀・坂倉伝三郎・青木宏氏を中心とした黒埼地方史研究会（黒埼村郷土史研究会）により1957年11月と1958年8月に発掘調査が行われた。発掘調査には、永峯光一・上原甲子郎・磯崎正彦氏の指導の下、黒埼地方史研究会や黒埼中学校歴史クラブ生徒・黒埼青年団が参加した。この緒立遺跡の調査は、教育委員会が調査主体となって行われた新潟市内で最も古い発掘調査であり、郷土の歴史を明らかにしたいという黒埼地方史研究会や村民の熱意により村当局が発掘調査費用を予算化して行われた画期的なものである。

発掘調査の成果は、[黒埼村郷土史研究会編1958『緒立遺跡』]と[黒埼地方史研究会・黒埼中学校歴史クラブ編集1959『緒立 黒埼村緒立遺跡発掘調査中間報告』黒埼村教育委員会・黒埼村公民館発行]の2冊が謄写版

（ガリ版刷）で作られ村民に広く配布された〔坂井2000〕。

また、[上原甲子郎・永峯光一・磯崎正彦1968「越後緒立遺跡の古式土師器」『考古学雑誌』第52巻第3号]、[磯崎正彦・上原甲子郎1969「亀ヶ岡文化の外郭圏における終末期の土器型式－新潟県・緒立遺跡の土器をめぐって－」『石器時代』第9号]として考古学専門雑誌にも報告され、発掘調査成果は学界でも注目された。なかでも、『石器時代』第9号で報告された土器群は、磯崎正彦氏らによって縄文時代晩期終末期の土器型式「緒立式」と命名され、縄文時代終末期の研究に一石を投じることになった。

その後、1979・1980年の県道建設に伴う発掘調査で、東海系や北陸系の櫛描文土器・条痕文土器（弥生土器）が共伴したことにより、「緒立式」土器は弥生土器と認識されることになり、このことがきっかけで、東日本の当該期の研究が大きく進展することになる〔中村1988〕。

#### (c) 1957・1958年調査箇所を検討

これまで、1957・1958年の調査箇所が明確ではなかったが、青木宏氏の寄贈資料にトレンチ設定図が発見されたので、黒埼町都市計画図（平成3年10月作図、平成7年12月修正 2千5百分の1）と1979・1980年のグリッド設定図に重ね合わせる事が可能となった。水田・畑・水路等で合わせているので正確な発掘調査箇所は不明であるが、県道新潟－燕線特殊改良工事に伴う発掘調査地点の東側に隣接する場所だったと推察された。両者の遺物で接合するものや明らかに同一個体と考えられる個体があり、このことから調査区の一部が重複していることを裏付けている。

#### (d) 『石器時代』9号報告遺物の検証

1957年・1958年調査資料で現存する土器については黒埼町史編纂時点で出来る限り図化作業を行ったが、『石器時代』第9号報告資料との同定作業を十分に行うことができなかった。そこで、企画展にあたり、『石器時代』第9号報告資料と町史掲載資料との同定作業を行い、現存する遺物と石器時代掲載実測図を併せて展示した。

両者の対応関係は以下の通りである。石器時代No.1・町史No.87（以下、石器時代No.・町史No.省略。）、4・90、6・88、7・141？、9・85、10・92、11・168？、16・207、17・84？、21・115、22・91、23・135、25・26・353、28・219、29・223・224、31・220、32・218、36・60、38・228、39・229？、44・65、45・230、46・238、51・232、59・98、65・94・95、67・107？、68・104、100・316・698～707、69・304、71・110？、72・109？、73・307、76・44、77・41、78・42、79・43、80・40、85・111、89・86、90・125、92・116、93・214、94・

225、95・479、97・100。

『石器時代』第9号では条痕文壺（町史325）や磨消縄文のある破片（町史187・188等）が報告されていないが、縄文時代晩期終末の「緒立式」設定に配慮したためであろう。いずれにしても、1957・1958年調査資料は1979・1980年調査資料と比較して、大形壺が少ないこと、磨消縄文のある土器が少ないという傾向は見受けられる。

(e) 1979・1980年調査の土坑・大形壺・焼人骨

1979・1980年の緒立B遺跡の発掘調査区南側からまともな検出された土坑群周辺からは、焼人骨片や大形壺・人面付土器などの遺物が出土している。当該期の再葬墓では土坑の中から大形壺がまともに出土することが一般的であるが、緒立遺跡では土坑の中から大形壺が出土するような状況は見られなかった。出土状況から土坑の上部に大形壺が置かれていた可能性が高いものと考えられる。

縄文時代晩期終末の北区鳥屋遺跡3号土坑でも土坑上部に大形壺が置かれており、似た状況を示している。また、福島県伊達市根古屋遺跡の再葬墓からも焼けた人骨や多数の土坑が検出されている。再葬墓の埋葬工程の一部の可能性もある〔関ほか1980〕。

1957・1958年の発掘調査では大形壺はほとんど見つかっていない。同じ遺跡の中でも、場所（調査区）によって遺跡の性格が異なることによるものと考えられる。1957・1958年の調査区は居住域、1979・1980年の調査区は墓域から居住域にかけて発掘調査を行ったものと推察される。

また、再葬墓では一般的ではない鉢などの小形土器も多くあり、居住域が近くにあった可能性も高いと思われるが、竪穴住居や掘立柱建物などの遺構も確認されていない。砂丘上に立地する遺跡のために、季節風などの影響により削平を受けた可能性もある。そのために遺構の検出が難しくなったことも考えられる。

(f) 「緒立式」土器

緒立遺跡の土器は、磯崎正彦氏によって「緒立式」土器として設定されることになるが、当初、縄文土器とするか弥生土器とするか、その位置づけは揺れ動いている。

磯崎氏の恩師である山内清男氏が1961（昭和36）年京都大学に提出した学位請求論文〔山内清男1979『日本先史土器の縄紋』先史考古学会〕では、「直前段反撚RRL P15「近年新潟方面の晩期末の一形式〔5A下右〕」に発見された。」として、緒立遺跡出土土器の写真が掲載されている。同じく山内氏や磯崎氏が執筆した〔山内清男・佐藤達夫・江坂輝弥・磯崎正彦 1964『日本原始美術Ⅰ』講談社〕の編年表の弥生時代の欄（波線の下）

には「（緒立1）／（猫山）」と記載され、弥生土器と考えていたようである。同書では阿賀野市猫山遺跡の土器は参考写真図版で「弥生式」と記載されており、弥生土器と認識されていたことは明確である。猫山遺跡の土器は〔上原甲子郎・磯崎正彦 1968「北陸地方Ⅱ」『弥生式土器集成 本編2』〕にも北陸地方Ⅱの第1様式土器「猫山式」として記載されている。

その後、最終的には〔磯崎正彦・上原甲子郎 1969「亀ヶ岡文化の外郭圏における終末期の土器型式－新潟県・緒立遺跡の土器をめぐって－」『石器時代』第9号〕では、縄文時代晩期終末の土器型式「緒立式」とされる。この辺の明確な理由はわからないが、猫山遺跡のように弥生時代の再葬墓では大形壺が多く出土するのに対し、緒立遺跡では大形壺が少なかったことから、最終的に縄文時代の土器と考えたのではないかと推測される。

磯崎氏が、「緒立式」土器を縄文時代終末期に位置づけたことで、新潟県内だけではなく東日本の縄文時代晩期終末期から弥生時代初頭の土器編年研究に多大な影響を及ぼすことになる。（渡邊朋和）



発掘調査風景（1958年撮影）



縄文時代の配石遺構（1958年撮影）

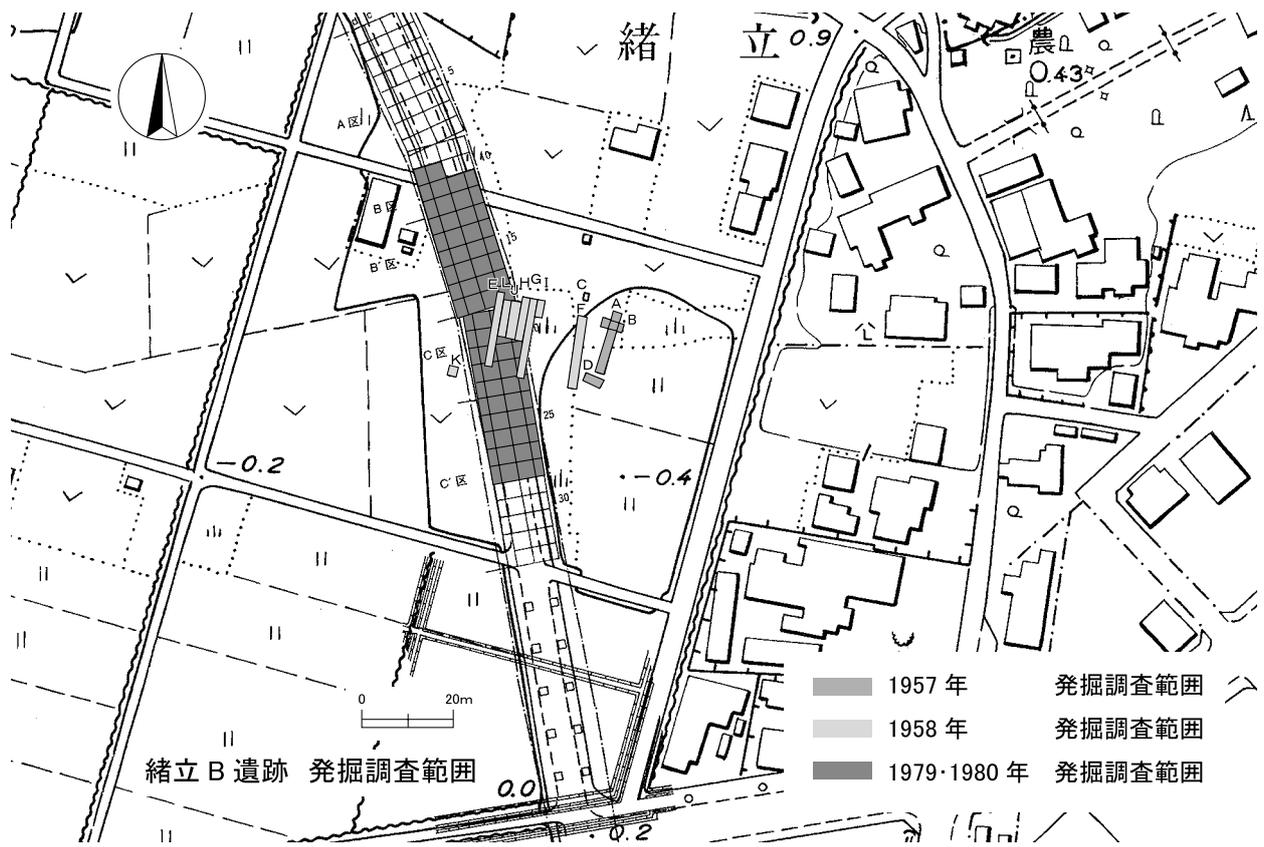


図1 緒立B遺跡発掘調査範囲

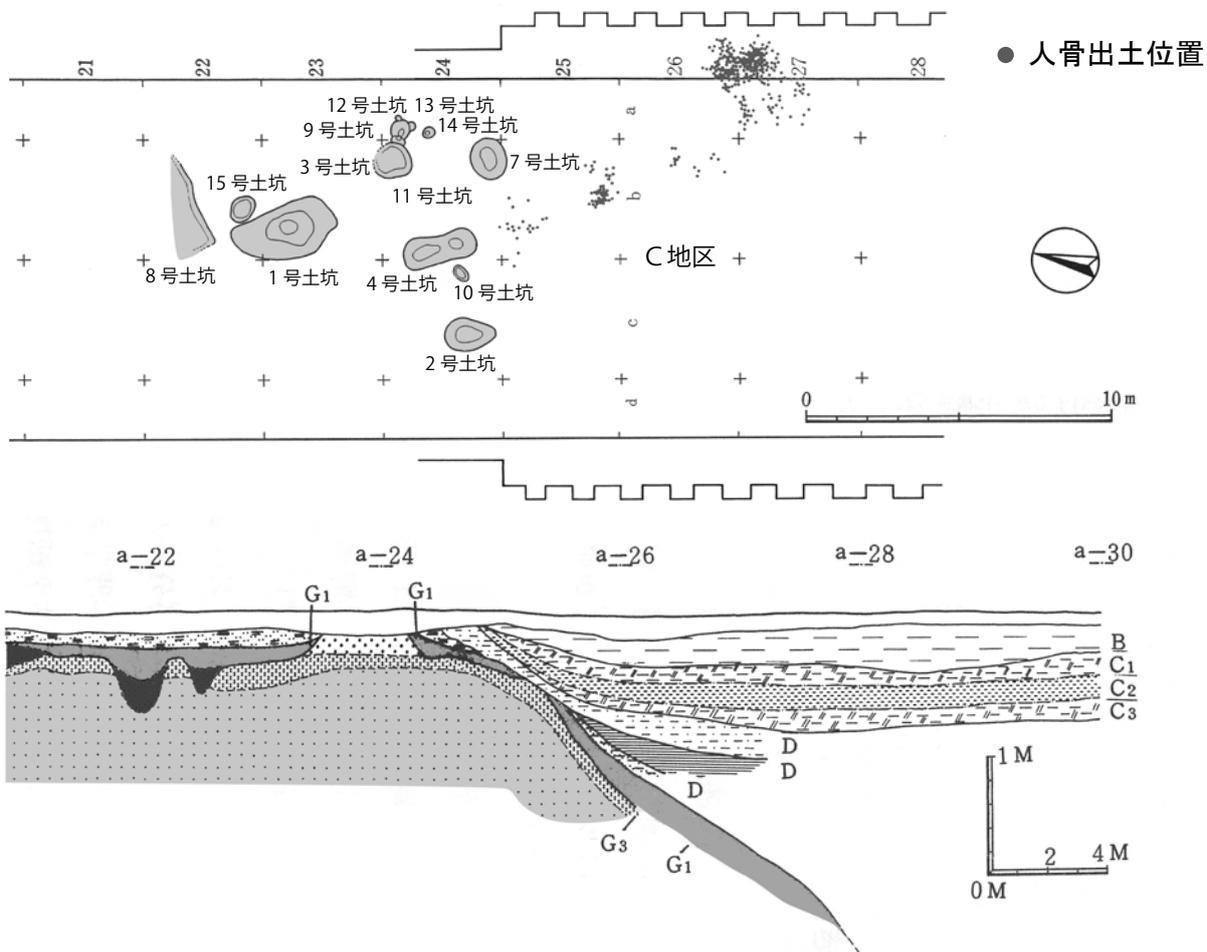


図2 弥生時代の土坑と人骨出土位置図

**(4) 企画展3 「出土品を残す技術」**

会 期 平成26年8月5日(火)～11月30日(日)

担 当 今井さやか・本間敏則

入館者数 3,786人

**展示概要** 文化財センターの業務である出土品を残す技術について紹介する企画展を開催した。土器・金属製品・木製品と種類ごとに劣化のメカニズムや保存方法についてパネルと遺物で展示した。特に土器の本物の部分と充填して補彩した部分を観覧者が直接触れる「さわって確かめるコーナー」が好評であった。

**展示構成**

- 1) 土器の復元
- 2) 復元された場所と本物の場所をさわって確かめる
- 3) 金属製品の保存処理
- 4) 木製品の保存処理
- 5) 出土品から情報を引き出す

**主要展示** 1の土器の復元では秋葉遺跡の深鉢について、復元過程を4コママンガのようにしたパネルで展示した。2では中田遺跡の古墳時代土師器甕3点を土器の本物の部分と復元された部分との違いを触って確かめられるようカバーをかけない状態で展示した。3では金属製品の保存処理に使う道具と薬品類、山木戸遺跡の青銅製品と鉄製品を展示した。4では和納館跡、小坂居付遺跡の下駄と漆器を例に保存処理をせず自然乾燥した木製品と保存処理をした木製品を比較展示したほか、小坂居付遺跡の田下駄や人形などの木製品を展示した。また、1本の木を3分割しPEG・トレハロースそれぞれで処理をしたものと自然乾燥したものとを展示し、ここでも触ったり持って重さを感じられる展示とした。5では川根遺跡の烏帽子について漆膜の顕微鏡写真を展示することによって烏帽子の芯材がわかることを紹介した。

**関連講演会** 企画展の関連講演会と関連イベントをそれぞれ1回開催した。

演 目 出土品を残す技術

講 師 米村祥央氏

(東北芸術工科大学芸術学部准教授)

日 時 平成26年8月10日(日)

午後1時30分～午後3時

参加者数 15人

遺跡出土の保存処理について、木製品と金属製品それぞれの方法とメカニズムについて解説していただいた。また、保存処理の歴史は浅く、まだ研究がはじまって50年しか経っていない分野だということ、特に保存処理後の経年劣化については今後の大きな課題だという問題提起がなされた。

イベント 文化財センター仕事体験

講 師 今井さやか

日 時 平成27年9月21日(日)

午後1時30分～午後3時

参加者数 10人

文化財センターの仕事のうち、土器の洗浄と接合・充填作業を体験した。接合・充填作業についてはあらかじめ作成して割った復元土器を用いた。特に接合・充填作業は難しかったようで、展示されている土器の多くが美しく接合されていることに、感心していた。

**入館者の声** 「出土品を残す作業・技術・大変さがわかり、今後展示品の見方が変わると思う。」「甘味料であるトレハロースが保存処理に使われていると知って驚いた。」「(遺物に直接)触れられる体験がとてもよかった。」

**まとめ** 遺跡そのものでなく、文化財センターの仕事に焦点をあてた展示であったが、興味を持ってもらえたと感じた。特に触って確かめるコーナーが好評であり、今後も遺物の盗難や破損の危険が少ない展示状況であれば、取り入れていきたいと感じた。

その一方で、木製品や金属製品の「盤」や「刀子」の用語がわかりにくくもっと平易な表現にして欲しいと言った声もあり、今後検討する必要があると感じた。

(今井さやか)



チラシ(表)



パンフレット（一般向け）



パンフレット（小学生向け）



展示風景（展示室2）



触ってみようコーナー



関連講演会風景（出土品を残す技術）



関連イベント風景（文化財センター仕事体験）

(5) 企画展4 「古代遺跡の多様性  
～変化に富んだ自然と人々の営み～」

会 期 平成26年12月2日(火)  
～平成27年3月29日(日)

担 当 前山精明・龍田優子  
入館者数 3,014人

**展示概要** 西蒲区に分布する飛鳥時代から平安時代の遺跡を、平野・丘陵・砂丘・海辺という立地で分け、当時の暮らしに焦点をあてて紹介した企画展である。出土した古代の土器に含まれる様々な情報から、今までにない方法で土器の作られた場所や環境などを推測し展示した。そして、豊かな自然環境を背景にした西蒲区の古代の魅力的な姿を浮き上がらせた。

**展示構成**

- 1) 各エリアから出土した主要な古代土器
- 2) 湖底に沈んだ飛鳥時代の遺跡
- 3) 沖積地の営み
- 4) 丘陵上の営み
- 5) 内陸砂丘の営み
- 6) 海辺の営み
- 7) 土器からの情報① 土師器に混じる小さな石
- 8) 土器からの情報② 圧痕の正体を探る

**主要展示** 1では大島橋遺跡・下新田遺跡・重稲場窯跡・下稲場遺跡などから出土した須恵器・土師器と日本海から揚がった須恵器、2では鎧潟湖底のボーリングデータと大島橋遺跡出土の土製品、3では下新田遺跡・林付遺跡の遺構・遺物と鎧潟の民俗、4では峰岡上町遺跡の遺構・遺物と沖積地の樹木利用、5では下稲場遺跡の遺物と四十石遺跡から出土した種子、6では銭原遺跡・うぶすめ遺跡・沙山遺跡の遺物と海辺の地層に残る津波の痕跡、7では新潟市周辺から採取した川砂と土師器の混和材、8では下新田遺跡の土器に残る種実や木葉の圧痕とシリコンを用いて作成したレプリカを紹介した。

**関連講演会** 企画展の関連講演会を2回開催した。

演 目 西蒲区の古代  
講 師 春日真実氏  
(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団調査課長代理  
日 時 平成26年12月14日(日)  
午後1時30分～午後3時

参加者数 45人

西蒲区の飛鳥時代から平安時代を中心として、発掘調査などで見つかった生活の痕跡や出土品などから当時の暮らしを語る講演会。当日の資料では、西蒲区を含む周辺地域の古代遺跡から出土した土器の最新の編年案が示された。

演 目 低湿地での暮らし  
講 師 中島栄一氏(潟東歴史民俗資料館館長)  
日 時 平成27年3月15日(日)  
午後1時30分～午後3時

参加者数 51人

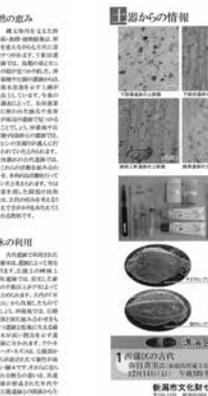
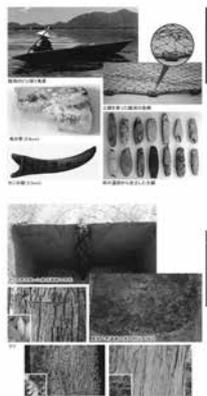
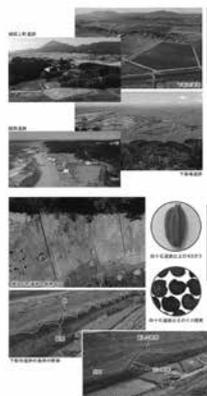
越後平野にかつてあった鎧潟の民俗事例を基に、周辺の古代遺跡とも関連づけながら古代の低湿地での暮らしを語る講演会。明治時代に描かれた鎧潟で舟上遊びを楽しむ日本画や、鎧潟干拓工事の状況を記録した映像を交えた分かりやすい講演であった。

**入館者の声** 「昭和の鎧潟での漁と同じような形の道具が千年以上も昔の漁でも使われていたと知った。昔の人の知恵はすごいと思った。」「西蒲区に焦点をあて、県内でよく取り上げられる縄文や古墳時代ではなく古代(飛鳥～平安時代)に絞った企画展は画期的である。」「貴重品や出土の多い土器ばかりでなく、沖積地・丘陵上・砂丘地・海辺における古代の多様な生活がわかるような展示になっていて興味深かった。」

**まとめ** 企画展で焦点をあてた西蒲区は、これまで発掘調査があまり行われてこなかった地域である。特に近年の発掘調査によって見えてきた豊かな自然環境の中で古代の多様な営みを見せる西蒲地域の魅力を伝えられた。この企画展をきっかけとして、西蒲区内の資料館・公民館等でも同様の展示や、発掘調査成果を紹介する企画展の開催が期待されている。(龍田優子)



チラシ(表)



パンフレット



展示風景（展示室2）



展示状況（1 各エリアから出土した主要な古代土器）



展示状況（2 湖底に沈んだ飛鳥時代の遺跡）



展示状況（8 土器からの情報② 圧痕の正体を探る）



関連講演会風景（西蒲区の古代）



関連講演会風景（低湿地での暮らし）

## 6 教育普及活動

### (1) 公開講座

文化財は歴史的・文化的資産としてだけでなく、地域の成り立ちなどを知る地域資産や教育的資産でもある。新潟市ではこれらの資産を普及事業として積極的に公開・活用し、地域の歴史や文化に対する意識や愛着を育てていきたいと考えている。以下、平成26年度に実施した公開講座の概要について述べる(表8)。

**講座** 考古学と民俗学関連の講座を行った。考古学関連の講座では、平成26年度企画展の内容に関連した講演会を行った。詳細は各企画展の頁(V5)を参照いただきたい。民俗学講座については、文化財センターの民俗資料の中から、黒埼に関係の深いテーマを2つ取り上げた。

また観察再現講座として、ものを観察しその作り方をじっくり学ぶ講座を開催した。縄文土器を観察して再現する内容の講座では、文化財センターのボランティアが講師となって参加者に教えた。

**体験イベント** 子ども向け歴史体験「縄文土器づくり」「文化財センター仕事体験」を夏休みに開催した。いずれも3年継続している事業であるが、定員にすぐに達する人気イベントである。

地域の方々との交流を目的としたイベントとして、「旧武田家住宅で民具とお茶を楽しむ会」と「黒埼の民具と民話を楽しむ会」を開催した。「黒埼の民具と民話を楽しむ会」は、平成26年度に初めて開催したイベントであり、旧武田家住宅を会場に、地元で活動している「新潟語りの交流会黒埼とんと」による昔語りを行った。

**速報会** 平成26年度の遺跡発掘調査速報会では、昨年度に引き続き講演の部に新潟大学の橋本博文教授を招

き、新潟大学が9月に発掘調査を行った「牡丹山諏訪神社古墳」の調査成果について講演をしていただいた。

**出前講座・職員派遣** 文化財センターでは、研究団体、地方自治体、市民団体などに依頼に応じて職員派遣を行っている。新潟市では、通常の派遣申請以外に、市民が市政に関するテーマについて学びたい場合に職員を派遣する「市政さわやかトーク宅配便」制度がある。これはFAXやメールで必要事項を記載し担当課に送れば、その他の書類手続きが不要という簡便さが利点の制度である。

表8 平成26年度公開講座一覧

年月日	内容	講師	人数
2014/4/29 (火・祝日)	水辺の古代官衙遺跡 - 流通遺棄基地 的場遺跡 -	坂井秀弥 (奈良大学文学部教授)	72
2014/6/15 (日)	縄立遺跡の縄文 新潟歴史の織文から弥生へ	石川日出志 (明治大学文学部教授)	60
	縄立遺跡の発掘調査に参加して 1979-1981年の発掘調査 黒埼地方史研究会のこと	渡邊明和 八木 稔	
2014/8/10 (日)	出土品を残す技術	米村祥央 (東北芸術工科大学芸術学部准教授)	15
2014/12/14 (日)	西蒲区の古代	春日真幸 ((公財)新潟県縄文文化財調査事業 調査課長代理)	45
2015/3/15 (日)	低湿地でのくらし	中島栄一 (尚東歴史民俗資料館館長)	51
民俗学講座			
年月日	内容	講師	人数
2014/5/10 (土)	黒埼地域の民俗について	鈴木秋彦 (新潟県図書館館長)	30
2014/9/6 (日)	黒埼地域に伝わる伝説	高橋郁子 (新潟県民俗学会)	36
観察再現講座			
年月日	内容	講師	人数
2014/6/7 (土)	砂前遺跡の縄文土器をつくる 【大人向け】3選連続 6/7、6/14、6/21	今井浩男・佐藤英世 (まいふんポートボランティア)	10
2014/11/1 (土)	十日町市笹山遺跡の【国宝】火焔型土器をつくる 【大人向け】5選連続 (11/1、11/8、11/15、11/22、11/29)	齊藤正三・佐藤英世・今井浩男 (まいふんポートボランティア)	10
夏休み子ども歴史体験			
年月日	内容	講師	人数
2014/7/27 (日)	文化財センター仕事体験 若も考古学者	今井さやか	10
2014/8/3 (日)	縄文土器を作ってみよう ~高さ15cmの土器づくり	今井さやか まいふんポートボランティア	36
交流イベント			
年月日	内容	講師	人数
2014/5/18 (日)	旧武田家住宅で民具とお茶を楽しむ会	江戸千家新潟不白会	73
2014/7/5 (日)	黒埼の民具と民話を楽しむ会	新潟民話の語り手交流会黒埼とんと	60
新潟市遺跡発掘調査速報会			
年月日	内容	講師	人数
2015/2/22 (日)	講演 新潟市東区牡丹山諏訪神社古墳をめぐって ~2014発掘調査でわかったこと~	橋本博文 (新潟大学教授)	222
	報告 細池寺遺跡 - 平安から室町の拠点集落 -	立木宏明	
	報告 細池寺上遺跡 - 中世の屋敷地をつなぐ道 -	遠藤恭雄	
	報告 下郷南遺跡 - 意図的に捨てられた中世土器器 -	朝岡政康 (歴史文化課)	
ボランティア養成講座			
年月日	内容	講師	人数
2014/4/13 (日)	オリエンテーション・新潟市の遺跡概説①	本間敏則	16
2014/4/20 (日)	新潟市の遺跡概説②・展示解説の実践	本間敏則・今井さやか	18
2014/5/11 (日)	弥生の丘展示館と古津八幡山遺跡概説、弓矢・石斧体験	寺崎祐助・今井さやか	12
2014/5/25 (日)	火起こし・勾玉・和同開珎土器づくり体験	本間敏則・今井さやか	8

表9 平成26年度職員派遣・出前講座一覧

年月日	内容	会場	依頼者	派遣職員名
2014/5/17 (土)	講演「考古学から見た新潟市の歴史1」旧石器・縄文時代	小針青山公民館	小針青山公民館	前山精明
2014/6/7 (土)	講演「考古学から見た新潟市の歴史3」古墳時代	小針青山公民館	小針青山公民館	相田泰臣
2014/8/6 (水)	勾玉づくり	江南区郷土資料館	江南区地域課	今井さやか
2014/8/20 (水)	縄文土器づくり	江南区郷土資料館	江南区地域課	今井さやか
2014/8/22 (金)	大江山の縄文遺跡を探訪	大江山地区	大江山地区コミュニティ協議会	酒井和男
2014/9/10 (水)	江南区の遺跡現地案内	江南区内	福岡県立大学	酒井和男
2014/9/17 (水)	わくわく防災教室「木場地区のむかしの生活」	黒埼南小学校	黒埼南小学校	今井さやか
2014/9/20 (土)	ふるさと塾「古津八幡山遺跡の見学」	古津八幡山遺跡ほか	金津地区コミュニティ協議会	渡邊明和
2014/10/5 (日)	ふれふれ西区ふれあいまつり「弓矢体験」	みどり森の運動公園	西区地域課(※主催)	福地康郎 今井さやか
2014/10/11 (土)	わくわくランド「勾玉づくり」	関屋地区公民館	関屋地区公民館	今井さやか
2014/10/12 (日)	六郷界隈の遺跡群について	六郷公会堂	秋葉区六郷村史編纂委員会	立木宏明
2014/10/13 (月・祝)	大江山縄文市	大江山公園	大江山地区コミュニティ協議会	廣野耕造 今井さやか
2014/10/20 (月)	6学年社会科授業「遺跡現地学習」/17名参加	菅蒲塚古墳ほか	松野尾小学校	前山精明
2014/10/26 (日)	金津ふら散歩	古津八幡山遺跡ほか	金津地区コミュニティ協議会	相田泰臣
2014/10/26 (日)	沼垂小文化祭PTA行事勾玉づくり	沼垂小学校	沼垂小学校	本間敏則 今井さやか
2014/12/12 (金)	3学年社会科授業「昔のくらし」/163名参加	大形小学校	大形小学校	本間敏則 酒井和男
2015/1/22 (木)	3学年社会科授業「昔のくらし」/50名参加	立仏小学校	立仏小学校	本間敏則 酒井和男
2015/2/10 (火)	3学年社会科授業「昔のくらし」/77名参加	大通小学校	大通小学校	本間敏則 酒井和男
2015/2/23 (月)	3学年社会科授業「昔のくらし」/75名参加	大野小学校	大野小学校	今井さやか

表10 平成26年度体験利用人数

個人	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
メニュー													
拓本体験	2	0	1	5	13	5	1	2	0	0	1	0	30
勾玉づくり	59	120	24	47	217	37	28	23	19	29	44	26	673
勾玉づくり(スピード)	1	1	0	0	7	2	0	0	1	0	0	2	14
鑄造体験(和陶間珠)	15	24	13	19	85	7	9	9	11	7	12	7	218
鑄造体験(鏡)	-	-	-	-	-	-	-	-	24	11	20	5	60
火起こし体験(夏季)	-	-	-	40	250	-	-	-	-	-	-	-	290
窯き織り体験(冬季)	-	-	-	-	-	-	-	-	26	21	32	-	79
合計	77	145	38	111	572	51	38	34	81	68	109	40	1,364
団体													
メニュー													
拓本体験	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
勾玉づくり	94	303	3	47	17	4	162	94	28	17	0	0	769
鑄造体験	0	0	4	0	0	8	0	0	0	0	0	0	12
土器・土偶づくり	120	170	13	0	51	25	162	60	0	0	0	0	601
火起こし体験	214	514	0	47	0	156	79	105	28	0	0	0	1,143
合計	428	987	20	94	68	193	403	259	56	17	0	0	2,525

表11 平成26年度旧武田家住宅利用状況

年月日	利用者名	目的
2014/10/25(土)	自由が丘自治会	自治会交流行事
2014/12/23(火)	足立茂久商店	商品の写真撮影

表13 平成26年度団体利用・行政視察一覧

年月日	団体名	利用内容	人数
2014/4/9(水)	木戸の歴史を知る会	見学	8
2014/4/23(水)	ノルディックウォーキングの会	武田家見学	20
2014/5/4(日)	水の都にいがた湯バスツアー	見学	35
2014/5/6(火・祝)	水の都にいがた湯バスツアー	見学	8
2014/5/11(日)	水の都にいがた湯バスツアー	見学	15
2014/5/18(日)	福寿会	見学	15
2014/5/28(水)	西区健康福祉課	見学	16
2014/5/30(金)	早通南一丁目自治会	見学	17
2014/6/1(日)	水の都にいがた湯バスツアー	見学	16
2014/6/3(火)	動く市政教室「個人で参加 古墳めぐり」	見学	35
2014/6/4(水)	動く市政教室「白一町内会」	見学	20
2014/6/5(木)	動く市政教室「個人で参加 古墳めぐり」	見学	30
2014/6/5(木)	アイサービスセンター小新	見学	17
2014/6/15(日)	水の都にいがた湯バスツアー	見学	20
2014/6/25(水)	西区健康福祉課	見学	25
2014/6/26(木)	大通小学校支援学級PTA行事	見学・勾玉・土偶・和陶間珠	22
2014/7/2(木)	下田郷土史研究会	見学	19
2014/7/4(金)	新潟応用地質研究会平野地盤研究グループ	見学	5
2014/7/15(火)	動く市政教室「伝説」	見学	36
2014/7/17(木)	動く市政教室「個人で参加 古墳めぐり」	見学	34
2014/7/21(月)	長岡郷土史研究会	見学	26
2014/7/24(木)	動く市政教室「伝説」	見学	25
2014/7/25(金)	動く市政教室「北山池の自然を守る会」	見学	27
2014/9/27(土)	黒埼まめっこクラブ	見学・土器・かまど体験	48
2014/9/28(日)	新潟県地名研究会	見学	35
2014/10/2(木)	みつわクラブ	見学	23
2014/10/8(水)	動く市政教室「文化財保護を考える」	見学	32
2014/10/8(水)	老人クラブ南もみじ会	見学	17
2014/10/10(金)	動く市政教室「文化財保護を考える」	見学	25
2014/10/10(金)	西区健康福祉課	見学	21
2014/10/10(金)	アイサービスセンター味方	見学	8
2014/10/19(日)	青山新町第一自治会	見学・火起こし・勾玉	37
2014/10/24(金)	アイサービスセンター味方	見学	7
2014/10/25(土)	京王自治会育成部	見学・火起こし・土偶	42
2014/10/25(土)	自由が丘自治会	見学	9
2014/10/30(木)	水場保育園	見学(武田家住宅)	33
2014/10/30(木)	アイサービスセンター味方	見学	9
2014/11/11(火)	アイサービスセンター黒埼荘	見学	8
2014/11/13(木)	黒埼南小2学年親子行事	土偶	51
2014/11/14(金)	株式会社 大石組	見学	24
2014/11/18(火)	東青山民生児童委員協議会	見学	15
2014/11/22(土)	雲雲寺地区公民館風の子クラブ	見学・火起こし・勾玉	23
2014/11/26(水)	クラブツーリズム・カルチャー旅行センター	見学	18
2014/11/27(木)	アイサービスセンター優友	見学	11
2014/11/28(金)	新潟大学考古学研究室	見学	11
2014/12/18(木)	株式会社 池井組	見学	9
2014/12/26(金)	株式会社 吉田建設	見学	12
2015/1/18(日)	升海小6年保護者会	見学・勾玉	34
2015/2/26(木)	黒埼地区ふれあい協議会	見学	29
合計			1,082

表12 平成26年度化財センター入館者数

月	開館日数(日)	入館者数(人)		
		個人	団体	小計
4	25	1,020	252	1,272
5	27	1,215	647	1,862
6	25	858	185	1,043
7	27	831	363	1,194
8	27	1,087	0	1,087
9	24	620	389	1,009
10	27	551	395	946
11	26	633	327	960
12	22	555	181	736
1	24	537	194	731
2	23	713	108	821
3	26	701	25	726
合計	303	9,321	3,066	12,387

年月日	団体名	利用内容	人数(引率込)
2014/4/18(金)	大鷲小学校(南区)	見学・火起こし・土偶	33
2014/4/23(水)	浜浦小学校(中央区)	見学・火起こし・土偶	74
2014/4/24(水)	亀田西小学校(江南区)	見学・火起こし・勾玉	98
2014/4/25(金)	升海小学校(西蒲区)	見学・火起こし・土器	19
2014/5/1(木)	内野小学校(西区)	見学・火起こし・土偶	119
2014/5/1(木)	黒埼南小学校(西区)	見学・土器	24
2014/5/2(金)	南中野山小学校(東区)	見学・火起こし・勾玉	73
2014/5/2(金)	赤塚小学校(西区)	見学・火起こし・土器にさわる	45
2014/5/8(木)	坂井東小学校(西区)	見学・火起こし・勾玉	66
2014/5/9(金)	木戸小学校(東区)	見学・火起こし・勾玉	74
2014/5/14(水)	藤見中学校(東区)	総合学習	6
2014/5/15(木)	岩室小学校(西蒲区)	見学・火起こし・土偶	32
2014/5/16(金)	雲山小学校(中央区)	見学・火起こし・勾玉	102
2014/7/8(火)	小針小学校(西区)	見学・火起こし	42
2014/7/23(水)	笹口小学校(中央区)	見学・火起こし・勾玉	149
2014/9/2(火)	桃山小学校(東区)	見学・民具学習	97
2014/9/5(金)	五十嵐小学校(西区)	見学・火起こし	133
2014/9/9(火)	内野中学校(西区)	見学・勾玉・和陶間珠	12
2014/9/24(水)	黒埼南小学校(西区)	写生	30
2014/9/24(水)	関屋中学校(中央区)	職場体験	4
2014/9/25(木)	関屋中学校(中央区)	職場体験	4
2014/9/25(木)	新築田市立中浦小学校	見学・火起こし	26
2014/10/1(水)	坂井輪小学校(西区)	見学・火起こし・土偶	122
2014/11/5(水)	湯川小学校(北区)	見学・火起こし・勾玉	73
2014/11/6(木)	新潟翠江高校(西区)	見学・火起こし	56
2014/11/7(金)	大野小学校(西区)	見学・民具学習	37
2014/12/5(金)	南浜小学校(北区)	見学・火起こし・勾玉	28
2014/12/11(木)	新潟小学校(中央区)	見学・民具学習	103
2014/12/16(火)	根岸小学校(南区)	見学・民具学習	29
2015/1/15(木)	坂井東小学校(西区)	見学・民具学習	64
2015/1/20(火)	升海小学校(西蒲区)	見学・民具学習	18
2015/1/22(木)	黒埼南小学校(西区)	見学・民具学習	21
2015/1/29(金)	立仏小学校(西区)	見学・民具学習	57
2015/2/4(水)	赤塚小学校(西区)	見学・民具学習	41
2015/2/20(金)	矢代田小学校(秋葉区)	見学・民具学習	38
2015/3/13(金)	黒埼南小学校(西区)	見学・民具学習	25
合計			1,974

年月日	団体名	利用内容	人数
2014/5/6(火)	アスファルト研究会	研究会・資料調査	35
2014/8/22(金)	十日町市博物館	施設見学・資料保存環境調査	4
2014/10/22(水)	埋蔵文化財保護対策五県協議会	施設見学	10
合計			49



十日町市笹山遺跡の【国宝】火焰型土器をつくる



文化財センター仕事体験 君も考古学者

平成26年度には、菖蒲塚古墳などや江南区笹山前遺跡など、実際に遺跡を訪れて職員による解説を聞くといった依頼があった(表9)。また、3学年の「昔の暮らし」において、学校への出前授業を4件受けた。当初は民具だけを貸して欲しいといった学校からの要望であったが、専門家による正しい民具の知識を伝えることと、実際に体験することによって理解を深めてもらうことが必要と考え、職員が出前授業を行うスタイルとしている。

## (2) 施設利用

文化財センターでは、展示見学のほかに「体験コーナー」として研修室の一部を使用して新潟や埋蔵文化財に関連した体験学習ができるスペースを設置している。体験コーナーでは、「開館時間中であれば、いつでもだれでも予約なしでできる個人向けの体験」と、「予約をいただいた団体向けの体験」の2種類がある。いずれも材料費相当の負担をいただいている。また、無料の体験として新潟市から出土した土器をもとに制作した「土器パズル」が5点ある。

また季節限定体験として夏休み期間は火起こし体験、冬休み期間中は裂き織り体験・綿切り体験を行った。結果、火起こし体験が290名、裂き織り体験が79名の参加者があった(表10)。

また、旧武田家住宅及び体験広場(芝生)の貸出(有料)を行っている。利用状況は表11のとおりである。

## (3) 入館者数

文化財センターの入館者数は表12のとおりである。平成25年度に比べておよそ2,000人増加し、開館以来最も多い年間入館者となった。企画展を開催したことと、冬季の団体利用が増えた事が要因として考えられる。

入館者のアンケートからは、「日曜日なのに空いている。もっと宣伝した方がいい。」、「解説文の文字が小さい。」、「囲炉裏を囲んだイベントを企画して欲しい」等、今後の改善につながるご指摘をいただいた。

平成26年3月末までの開館からの累計入館者数は30,992人である。

## (4) 団体見学・施設見学

小学校や子ども会などの子どもが主体の団体では、見学だけではなく体験活動を組み込むことが多い。特に小学校では社会科の授業として4・5月には6学年の歴史で、1月は3学年の昔の暮らしの学習で利用する傾向にある。平成26年度では、小学校・中学校の利用は35校であり平成25年度より10校増加した。社会科の授業以外に、職場体験実習として利用する学校もある。また、介護老人施設の見学利用が増加してきているのが、文化財センターの特徴でもある。(今井さやか)



冬の旧武田家住宅



黒崎の民具と民話を楽しむ会



平成26年度新潟市遺跡発掘調査速報会



中学生職場体験

表14 平成26年度資料対応件数一覧

考古資料

特別利用許可

件数	申請者	資料	点数	来館日	備考
1	個人	的場遺跡 木製品	2	平成26年4月13日	調査研究
2	個人	南赤坂遺跡 石器	11	平成26年7月11日	研究・論文執筆
3	個人	南赤坂遺跡 石器	40	平成26年8月18日・19日	研究・論文執筆
4	個人	西郷遺跡ほか 土器	47	平成26年10月9日	新潟県における土器の焼成方法の変化を調査
5	個人	南赤坂遺跡ほか 土器	75	平成26年11月7日	新潟市文化財センター企画展関連講演会準備
6	個人	笹山前遺跡ほか 土器	58	平成26年12月18日	研究
7	個人	大沢谷内遺跡 土器ほか	68箱	平成26年12月25日	県内市町村等専門職員研修講義準備
9	個人	的場遺跡 土器	35	平成27年3月7日	新潟県考古学会での発表
8	個人	釈迦堂遺跡 デジタル画像	一式	平成27年3月12日	地震痕跡の調査
10	個人	的場遺跡 土器	30	平成27年3月28日	新潟県考古学会での発表

貸出許可

件数	申請者	資料	点数	貸出期間	備考
1	医療社団法人幸人会 理事長 阿達敏幸	諏訪畑遺跡 土器	5	平成26年4月1日～平成27年3月31日	常設展示
2	新潟市江南区郷土博物館 市長 篠田 昭	砂崩遺跡ほか 土器ほか	51	平成26年4月1日～平成27年3月31日	常設展示
3	新潟市北区郷土博物館 館長 宮崎芳春	鳥屋遺跡 土製品・石器 鳥屋遺跡 土器レプリカ	23 12	平成26年4月1日～平成27年3月31日	常設展示
4	新潟市中之口先人館 市長 篠田 昭	茶院A遺跡 土器ほか	8	平成26年4月1日～平成27年3月31日	常設展示
5	新潟市歴史博物館 館長 小林昌二	笹山前遺跡ほか 土器ほか	84件	平成26年4月1日～平成27年3月31日	常設展示
		的場遺跡 土錘・石錘	48		
		的場遺跡 レプリカ	54		
6	信濃川火焔街道連携協議会 会長 篠田 昭	秋葉遺跡 王冠型土器	1	平成26年7月9日～平成26年7月11日	信濃川火焔街道連携協議会総会（縄文サミット） 報道発表・展示
7	十日町博物館 館長 佐野芳隆	笹山前遺跡 深鉢形土器 南赤坂遺跡 「の」字状石製品	1 1	平成26年9月1日～平成26年11月28日	秋季特別展「縄文時代のムラ 赤羽根遺跡」展示
8	島根県立古代出雲歴史博物館 館長 黒崎寿政	的場遺跡 帯金具ほか	29	平成27年3月1日～平成27年6月20日	企画展「入りの記憶」展示

掲載許可

件数	申請者	資料	点数	許可日	備考
1	国立歴史民俗博物館 館長 久留島 浩	馬場屋敷遺跡 萱札写真	4	平成26年4月22日	「歴博」184号掲載
2	新潟県海揚がり陶磁器研究会 代表 寺崎裕助	新潟市西蒲区角田山沖発見の縄文土器写真	11	平成26年5月21日	「新潟県における海揚がり品調査報告 -新潟県内海揚がり品の実態調査-」掲載
		新潟市西蒲区弥彦山沖発見の珠洲焼写真			
		新潟市西蒲区角田山沖発見と伝えられる珠洲焼写真 佐渡近海発見の珠洲焼写真			
3	株式会社集英社 新書編集部 部長 梶島良介	大沢谷内遺跡 土器・アスファルト写真	2	平成26年6月11日	集英社新書「縄文人からの伝言」掲載
4	信濃川火焔街道連携協議会 会長 篠田 昭	秋葉遺跡 王冠型土器写真	3	平成26年7月1日	信濃川火焔街道連携協議会総会（縄文サミット）で 報道発表用及び説明パネルに使用
5	新潟県海揚がり陶磁器研究会 代表 寺崎裕助	新潟市西蒲区角田山沖発見の縄文土器実測図・写真	28	平成26年7月22日	「新潟県における海揚がり品調査報告 -新潟県内海揚がり品の実態調査-」掲載
		新潟市西蒲区弥彦山沖発見の珠洲焼実測図・写真			
		新潟市西蒲区角田山沖発見と伝えられる珠洲焼実測図・写真 佐渡近海発見の珠洲焼実測図・写真			
6	株式会社プロメディア新潟 営業制作部 永井一郎	緒遺跡 発掘調査風景写真	1	平成26年8月13日	テレビ新潟「夕方ワイド新潟一番」の「いい旅にいがた」 にて使用
7	株式会社アム・プロモーション 代表取締役 横山光衛	秋葉遺跡 王冠型土器写真	1	平成26年9月8日	「縄文カレンダー2015 火焔型土器」制作
8	個人	和納館跡 木簡赤外線写真	1	平成26年9月30日	「木簡研究」36号掲載
9	株式会社オリス 社長 石黒定雄	四十石遺跡 空中写真	1	平成26年10月23日	パンフレット掲載
10	学校法人河合塾 理事長 河合弘登	的場遺跡 木簡写真	1	平成26年11月5日	模擬試験掲載
11	島根県立古代出雲歴史博物館 館長 黒崎寿政	的場遺跡 帯金具ほか写真	7	平成26年11月12日	企画展「入りの記憶」展示図録掲載
12	公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団 事務局長 土肥 茂	菖蒲塚古墳 空中写真	1	平成27年3月3日	展示用パネル作成



西区ふれあいまつり「弓矢体験」



小学校3学年「むかしのくらし」民具出前講座

## (5) 資料利用

### (a) 手続きに関する条例・規則

**特別利用許可** 文化財センター内で考古資料の熟覧・実測・撮影等を行う場合：『新潟市文化財センター条例』及び『新潟市長から委任を受けた新潟市文化財センター管理に関する規則』により許可申請書を市教委宛に提出する。

**貸出許可** 考古資料の寄託・借用・貸出等をする場合：『新潟市文化財センター考古資料の寄託、借用及び貸出に関する規則』により許可申請書等を市教委宛に提出する。

**寄附申込** 考古資料の寄附申し込みをする場合：『新潟市物品管理規則』により物品寄附申込書を市長宛に提出する。

**民俗資料** 民俗資料の利用・貸出をする場合：『新潟市物品管理規則』により許可申請書を市長宛に提出する。

なお、分析資料提供・掲載許可手続きは適用規則がないため、任意書式提出を依頼している。

### (b) 利用件数

以下、平成26年度の各利用件数について記す(表14)。

**特別利用許可** 考古資料に関して熟覧・実測・撮影の利用件数は10件である。

**貸出許可** 考古資料と民俗資料の貸出許可は、博物館等の常設展示に伴う年度単位の貸出と企画展等の短期間の貸出がある。前者では次年度も引き続き貸出を希望する場合は年度ごとに手続きを行っている。公民館等では地域の歴史に親しみを感ぜてもらおう観点からその地域の遺跡から出土した遺物の貸出を行っている。資料の貸出期間等は『新潟市文化財センター考古資料の寄託、借用及び貸出に関する規則』に規定されている。常設展示に伴う長期貸出5件、企画展等に伴う短期貸出3件である。

**掲載許可** 文化財センターが保管する写真や報告書等掲載資料の提供を希望する場合や申請者が貸出を受けて撮影したものを印刷物等で使用する場合がある。利用件数は12件であった。

**寄附申込** 平成26年度は0件である。

各利用件数とも前年度より減少している。

## (6) 図書の収蔵と閲覧

### (a) 収蔵

図書室の面積は89.33㎡で、室内には単式固定5段8連1台、複式移動7段7連5台、複式移動7段8連6台の棚が列設置されている。棚段数は総数で1,202段、約5万冊の図書の収蔵が可能である。なお、分類整理作業が必要な図書や登録未了図書に関しては、隣接する埋蔵文化財収蔵庫の棚に仮置きをし、登録が終わったものか

ら順次配架を行っている。

図書の収蔵状況は、旧市町村で所蔵していた発掘調査報告書が合併に伴い集められた結果、新潟県内の発掘調査報告書には複本が多数生じるようになった。複本があり利用頻度の高い報告書は、文化財センター図書室の他、調査研究室と保存処理室、そして秋葉区にある弥生の丘展示館に置いて利用している。

書誌情報の入力作業は、司書(臨時職員)3名を雇用し継続して行っている。なお、書誌情報の入力は平成21年度に構築した埋蔵文化財情報管理システムを利用して。入力作業と併せ、図書の管理のために寄贈者印・所蔵印を押捺し、3段ラベル・バーコードを貼る作業を行っている。平成27年6月に新潟市役所の地理情報管理システム再構築に伴い、遡った時点での入力数集計は不可能となったが、平成27年10月末までの入力数は43,684冊である。平成26年4月から5,630冊更新している。

### (b) 利用状況

図書室では、2名分の閲覧スペースがある。だまかに配架作業が終了した平成24年6月から閲覧開始するとともに、著作権法の範囲内でコピーサービス(有料)も開始した。図書室の利用人数とコピーサービス利用人数は表15のとおりである。前年度比では利用者数は1人減、コピーサービス利用人数は13人増である。なお、収蔵図書は発掘調査報告書等の発行部数の少ない稀覯本がほとんどのため、館外貸出は行っていない。(相澤裕子)

表15 平成26年度図書室・コピー利用者数

月	図書室利用(人)	コピー利用(人)
4月	5	1
5月	10	3
6月	8	3
7月	4	1
8月	2	2
9月	8	3
10月	6	2
11月	6	4
12月	4	3
1月	14	5
2月	11	3
3月	9	4
合計	87	34



図書室

## 7 保存処理

### (1) 木製品の保存処理について

**処理の概要** 文化財センターでは、木製品の保存処理は資料の形態・材質・劣化度を考慮しPEG（ポリエチレングリコール）含浸法を中心に行っており、PEG法では漆被膜がはがれて行えない漆器や木質が丈夫で若干の強化で済む近世遺跡出土の木製品についてはトレハロース含浸法で行っている。詳細な方針及び方法については、『年報』第1号に記載されている〔今井2014〕。

**平成26年度** 平成26年度には22遺跡33調査分1,943点の木製品の保存処理を行った（表16）。発掘から20年以上が経過し劣化の著しい上浦A遺跡（1992001）、和納館跡（1995004）出土木製品の保存処理をPEG含浸法で行った。また6月に県から譲与を受けた小坂居付遺跡の木製品については、（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団により脱鉄処理の工程までが済んでいたため、多くの遺物を譲与後すぐに含浸槽へ入れることができた。なお厚みが5cm以下の小型木製品については、タッパーを使ったPEG含浸を行っている。平成26年度には、劣化の著しい箸類とひょうたんを中心に処理を行った。

### (2) 金属製品・その他の保存処理について

**処理の概要** 文化財センターでは、木製品の保存処理の含浸期間中に金属製品の保存処理を行うというサイクルで業務を行っている。保存処理を行う順序は、原則調査年次が古いものからとしている。詳細な方針及び方法については、『年報』第1号に記載されている〔今井2014〕。

**平成26年度** 平成26年度は、山木戸遺跡（1991004）出土鉄製品72点の保存処理を行った（表16）。なお、遺跡出土の青銅製品の保存処理が2010年度調査分まで終わっているため、新たに青銅製品の保存処理を行わなかった。次年度以降県から譲与された小坂居付遺跡のものを処理する必要がある。



木製品 保存処理前（長沼遺跡・1990005）

### (3) 保存処理外部委託について

PEG処理法に向かない木製品など文化財センターで保存処理ができないものについて、外部委託を行っている（表17）。（今井さやか）

表16 平成26年度木製品・鉄製品保存処理一覧

遺跡名	調査番号	材質	器種	処理方法	点数(点)	備考
小丸山遺跡	1986001	木製品	板状木製品	PEG	1	
長沼遺跡	1990005	木製品	箸他	PEG	6	
上浦A遺跡	1992001	木製品	木柱他	PEG	9	
舟戸遺跡	1993004	木製品	木柱他	PEG	23	
石動遺跡	1995003	木製品	箸他	PEG	3	
和納館跡	1995004	木製品	木柱他	PEG	210	
石動遺跡	1997001	木製品	漆器碗	トレハロース	1	
内野遺跡	1999001	木製品	付け木他	PEG	3	
内野遺跡	2000003	木製品	草履芯	PEG	1	
下前川原	2002004	木製品	箸他	PEG	2	
結七島遺跡	2003001	木製品	杭	PEG	1	
桜大門	2004002	木製品	箸他	PEG	2	
大沢谷内遺跡	2005299	木製品	漆器碗	トレハロース	1	立会
西郷遺跡	2005321	木製品	箸	PEG	1	県試掘調査
西郷遺跡	2005321	木製品	下駄	トレハロース	1	県試掘調査
松浜橋試掘	2005325	木製品	漆器碗	トレハロース	1	県試掘調査
駒首湯遺跡	2006004	木製品	ひょうたん	PEG	1	
大沢谷内北遺跡	2007002	木製品	漆器碗	トレハロース	1	
沖ノ羽遺跡	2007004	木製品	ひょうたん	PEG	1	
手代山北遺跡	2008003	木製品	箸	PEG	1	
手代山北遺跡	2008003	木製品	漆器碗他	トレハロース	2	
大沢谷内遺跡	2008005	木製品	ひょうたん他	PEG	3	
大沢谷内遺跡	2008005	木製品	棒状木製品他	トレハロース	2	
細池寺道上遺跡	2008006	木製品	箸他	PEG	48	
近世新潟町跡	2008247	木製品	箸他	PEG	4	立会
近世新潟町跡	2008142	木製品	飾	トレハロース	1	立会
大沢谷内遺跡	2009001	木製品	箸	PEG	1	
小坂居付遺跡	2009007	木製品	杭他	PEG	1,354	
小坂居付遺跡	2009007	木製品	漆器碗他	トレハロース	76	
近世新潟町跡	2009241	木製品	箸他	PEG	2	県試掘調査
林付遺跡	2010001	木製品	箸他	PEG	13	
大沢谷内遺跡	2012001	木製品	箸他	PEG	111	
大沢谷内遺跡	2012001	木製品	漆器碗他	トレハロース	2	
近世新潟町跡	2012119	木製品	竹筥	PEG	1	
大沢谷内遺跡	2013002	木製品	箸他	PEG	36	
大沢谷内遺跡	2013002	木製品	漆器碗他	トレハロース	2	
下新田遺跡	2013005	木製品	斎申他	PEG	10	
近世新潟町跡	2014145	木製品	漆器碗他	トレハロース	4	
庄瀬館跡	2014154	木製品	漆器碗	トレハロース	1	
合 計					1,943	

遺跡名	調査番号	材質	器種	処理方法	点数(点)	備考
山木戸遺跡	1991004	鉄製品	釘等	クリーニング・樹脂含浸	72	
合 計					72	

表17 平成26年度外部委託保存処理一覧

遺跡名	調査番号	点数	備考	委託先	金額(円)	合計(円)
大沢谷内遺跡	2006002	7	曲物3点、他2遺跡の漆器・木柱	元興寺文化財研究所	4,619,462	9,743,327
小坂居付遺跡	2009007	7	漆器	元興寺文化財研究所	1,404,345	
細池寺道上遺跡	2014001	5	曲物4点、例りぬき井戸枠1点	元興寺文化財研究所	3,719,520	



木製品 保存処理後（長沼遺跡・1990005）

## 8 新潟市文化財センター運営協議会

文化財センターでは、文化財センターの運営について、市民、学校教育関係者、学識経験者からの幅広い意見を聴衆することを目的として、「新潟市文化財センター運営協議会」（以下「協議会」）を平成25年度から開催した。協議会開催にあたっては、開催要項を定め、委員10名を市長が選任し（表18）、事務局は文化財センターに設置した。この協議会は原則公開としている。

そして、平成25年7月23日（火）に新潟市文化財センターに於いて第1回協議会を開催し、翌年の平成26年4月16日（水）に新潟市新津美術館レクチャールームに於いて第2回協議会を開催した。

協議会では、昨年度の事業報告及び新年度の事業計画を中心に報告され、その内容を踏まえて委員による意見交換が行われた。意見交換は活発に行われ、複数の議論がなされ、文化財センターの運営の参考になっている。実際に、文化財センターの場所が分かりにくいいため、文化財センターへの案内標識が必要という意見に対して、付近の主要交差点に案内標識を設置する等の取り組みを行っている。

今後も運営協議会での意見を参考に、文化財センターの活動が市民に浸透し、より活発になるように取り組んでいく必要がある。（金田拓也）

表18 文化財センター運営協議会委員名簿（平成25・26年度）

委員長	高橋郁子	新潟県民俗学会理事・全国良寛会理事
委員	本間信昭	(元) (財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団調査課長
	長井久美子	新潟県民俗学会会員
	三ツ井朋子	(公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団調査課班長
	杉中規彦	新潟市立黒埼南小学校校長
	永井良二	新潟市立黒埼中学校校長
	渡邊良仁	新潟市立黒埼南小学校PTA会長
	小林忠芳	木場地区連合自治会長
	濱口順子	新潟市歴史博物館ボランティア
	田澤則夫	公募委員



第1回文化財センター運営協議会風景

## 9 決算額

平成26年度の文化財センターの決算額は表19の通りである。（福地康郎・上田俊哉）

表19 平成26年度文化財センター決算額

■歳入 (一般会計)		決算額 (円)
区 分		
○使用料及び手数料		997,400
文化財センター設備使用料		1,400
行政財産使用料		996,000
○国庫支出金		135,304,000
市内遺跡範囲等確認調査事業費		19,075,000
埋蔵文化財保存処理		8,406,000
満日地区圃場整備発掘調査費		1,100,000
両新地区圃場整備発掘調査費		13,250,000
道上地区圃場整備発掘調査費		600,000
史跡古津八幡山遺跡整備・保存活用事業費		82,135,000
文化財センター保存・活用事業		10,738,000
○諸収入		269,100,000
満日地区圃場整備発掘調査		19,800,000
両新地区圃場整備発掘調査		238,500,000
道上地区圃場整備発掘調査		10,800,000
小規模緊急発掘調査		0
○雑入		1,157,610
○市債		75,300,000
(合併) 史跡古津八幡山遺跡整備事業債		75,300,000
合 計		481,859,010

■歳出 (一般会計)		決算額 (円)
区 分		
○文化財保護調査事業		1,371,684
埋蔵文化財保護費		1,371,684
○市内遺跡範囲等確認調査事業		21,815,286
○出土品整理活用事業		※
○埋蔵文化財本格発掘調査事業		299,000,000
満日地区圃場整備発掘調査		22,000,000
両新地区圃場整備発掘調査		265,000,000
道上地区圃場整備発掘調査		12,000,000
小規模緊急発掘調査		0
○古津八幡山古墳保存整備事業		158,583,310
○史跡古津八幡山遺跡整備活用事業		3,337,981
○史跡古津八幡山遺跡及びガイダンス施設管理運営費		13,770,728
○文化財センター管理運営費		83,488,269
合 計		581,367,258

※H26から「文化財センター管理運営費」に統合。

## IV 史跡古津八幡山遺跡歴史の広場

### 1 史跡古津八幡山遺跡保存整備活用事業の概要

#### (1) 史跡・整備概要

古津八幡山遺跡は、弥生時代後期から古墳時代の北陸から東北における社会情勢を考える上で重要な遺跡として、平成17年に国史跡に指定された。現在は平成23年の追加指定を含め、約12haが国史跡となっている。

平成17年に遺跡の大半が公有地化された後、平成18年から史跡整備を進め、平成21年度までに弥生時代の高地性環濠集落内の竪穴住居7棟・環濠・土塁・方形周溝墓や前方後方形周溝墓の復元整備を行った。また、平成24年4月21日、麓にガイダンス施設「史跡古津八幡山 弥生の丘展示館」（以下「弥生の丘展示館」）が開館するとともに、「新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場」として暫定オープンした。

古津八幡山古墳やその周辺域は、平成22年に追加指定されたのを受けて、平成23年（第17次）から平成25年（第19次）の3か年にわたり復元整備のための確認調査を行い、その成果を基に平成25・26年度に周辺域も含めた復元整備工事を行った（復元整備工事の詳細についてはIV 3掲載）。平成27年4月17日、古墳も含めた史跡公園として全面オープンとなった。

#### (2) 施設情報

「新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場」には、ガイダンス施設である弥生の丘展示館と竪穴住居等が復元されている史跡公園が存在している。詳細な施設情報については、『年報』第1号に記載されている〔渡邊2014〕。

弥生の丘展示館は、基本的に月曜日等の休日の翌日が休館日だが、隣接する新潟市新津美術館に合わせて臨時開館する日もある。

管理は、文化財センターが直接管理している。史跡公園における芝刈り・草刈り、竪穴住居の燻蒸作業や枯れ枝の伐採、園路周辺の草刈り等については、NPO法人にいがた森林の仲間の会に委託している。史跡公園では休館日を除き、4～11月は毎日3～4人、冬期間の12～3月は2人ずつ常駐して作業を行っている。

弥生の丘展示館は、平常時は非常勤職員1～2名と臨時職員1～2名で施設管理や体験学習の指導を行っており、イベント等で来館者が多い時には文化財センター職員も一緒に事業を行っている。

### 2 教育普及活動

#### (1) 展示

弥生の丘展示館は、鉄筋コンクリート1階建て、床面積430㎡で、展示室180㎡、体験学習室118㎡が主な施設である。展示室には古津八幡山遺跡から出土した旧石器時代から平安時代の土器や石器など500点以上を展示するほか、弥生時代のムラの様子を縮尺300分の1の復元ジオラマ模型で再現している。また、遺跡への親近感や理解が深まるよう、展示ケースの壁面には全面に考古イラストレーター早川和子さんによる時代毎の復元画を貼っている。

ガイダンスシアターでは、65インチの大型モニターで、古津八幡山遺跡の概要やこれまでの調査成果等を映像で見ることができる。平成26年度には、平成23年度から平成26年度にかけて実施した古津八幡山古墳の確認調査や復元整備工事の記録映像を新たに追加した。



古津八幡山古墳復元経過一般公開（まいぶん祭り）



弥生の米作り 古津八幡山遺跡で稲作体験（田植え）

表1 平成26年度弥生の丘展示館体験学習（事前申し込み不要）一覧

メニュー	単位	料金 (円)	所要時間 (分)
勾玉づくり	1個 紐付	200	60
管玉づくり	1組4個 紐付	200	60
土器・土偶づくり		100	120
土笛・土鈴づくり	粘土500g	100	60
鑄造体験（銅鐸・銅鏡）	銅鏡1個 紐付	400	30
	銅鐸1個 紐付	900	30
編布（アンギン）編み	初心者コース カラムシ5g	300	120
	上級者コース カラムシ10g	500	180
鹿角ペンダントづくり	先端部以外1個 紐付	100	60
	先端部1個 紐付	500	15
土器パズル	飽きるまで	無料	10
火起こし体験	-	無料	15
弓矢体験	1人3本	無料	10
石斧体験	疲れるまで	無料	10
クラフトづくり (桜の枝の鉛筆)	桜の枝1本 鉛筆芯1本	無料	30

表2 平成26年度弥生の丘展示館体験学習（事前申し込み不要）参加者数

月	体験学習メニュー		参加者数（人）			1日平均
	屋内体験（有料）	屋外体験（無料）	個人	団体	合計	
4	土器・土偶・土笛・土鈴づくり	火起こし体験	473	110	583	22
5	勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり	弓矢体験	898	554	1,452	54
6	鑄造体験（銅鐸・銅鏡）	石斧体験	276	61	337	13
7	土器・土偶・土笛・土鈴づくり	火起こし体験	497	101	598	21
8	鑄造体験（銅鐸・銅鏡）	弓矢体験	1,031	61	1,092	39
9	勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり	石斧体験	525	556	1,081	43
10	土器・土偶・土笛・土鈴づくり	弓矢体験	486	364	850	30
11	鑄造体験（銅鐸・銅鏡）	石斧体験	457	133	590	23
12	勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり	火起こし体験	103	0	103	4
1	土器・土偶・土笛・土鈴づくり	クラフトづくり（屋内）	271	0	271	11
2	編布（アンギン）編み	クラフトづくり（屋内）	356	0	356	15
3	編布（アンギン）編み	火起こし体験	419	11	430	16
合計			5,792	1,951	7,743	25

表4 平成26年度弥生の丘展示館分類別団体利用数

分類名	団体利用数 (件)	人数 (人)
小学校	33	1,724
サークルなど	13	346
中学校	4	109
幼稚園	3	108
公民館・自治会・町内会	6	101
企業	5	97
行政	5	86
大学	3	82
動く市政教室	3	80
高校	1	13
研究団体	1	11
その他	7	202
合計	84	2,959

表5 平成26年度弥生の丘展示館イベント・体験学習（事前募集）・公開講座一覧

年月日	内容	人数 (人)
2014/4/27 (日)	弥生時代の米作り 古津八幡山遺跡で稲作体験（田起こし）	33
2014/5/18 (日)	弥生時代の米作り 古津八幡山遺跡で稲作体験（田植え）	41
2014/5/25 (日)	春の植物観察	22
2014/6/1 (日)	第13回にいつ花ふるフェスタ（当日受付）	969
2014/6/8 (日)	弥生時代の米作り 古津八幡山遺跡で稲作体験（田・雑穀草取り）	30
2014/6/22 (日)	弥生時代の米作り 古津八幡山遺跡で稲作体験（田・雑穀草取り）	23
2014/6/29 (日)	発掘体験1	23
2014/8/2 (土)・3 (日)	弥生堅穴住居宿泊体験	17
2014/8/17 (日)	発掘体験2	17
2014/9/7 (日)	弥生時代の米作り 古津八幡山遺跡で稲作体験（稲刈り①）	40
2014/9/20 (土)	まいふん祭り（当日受付）	624
2014/10/5 (日)	発掘体験3	6
2014/10/12 (日)	弥生時代の米作り 古津八幡山遺跡で稲作体験（稲刈り②・脱穀）	24
2014/10/26 (日)	秋の植物観察	19
2014/11/9 (日)	弥生時代の米作り 古津八幡山遺跡で稲作体験（脱穀・味覚体験）	29
2014/12/14 (日)	里山のクラフトづくり	17
2015/1/11 (日)	弥生の餅つき（当日受付）	834
2015/2/7 (土)・8 (日)	冬の堅穴住居宿泊体験（中止）	-
2015/3/22 (日)	春を探しに行こう（植物観察）	16
合計		2,784

表3 平成26年度弥生の丘展示館団体利用一覧

年月日	団体名	人数 (人)
2014/4/9 (水)	米沢女子短期大学	70
2014/4/17 (水)	北区さわか教室	23
2014/4/18 (金)	新潟市視覚障害者福祉協会	21
2014/4/24 (水)	巻南小学校（西蒲区）	65
2014/4/24 (水)	北区菟川ゆうあい会	45
2014/4/24 (水)	秋葉区小中学校地域教育コーディネーター	30
2014/4/25 (金)	根田小学校（南区）	37
2014/4/30 (水)	五泉市立東本小学校	18
2014/5/1 (水)	小林小学校（南区）	28
2014/5/1 (水)	東新潟中学校（東区）	5
2014/5/2 (金)	味方小学校（南区）	29
2014/5/8 (水)	田上町立羽生田小学校	66
2014/5/14 (水)	長岡市福山町福寿会	11
2014/5/16 (水)	アイサービスセンター白根そよ風の社	9
2014/5/18 (日)	ふるさと歴史探訪クラブ	33
2014/5/22 (水)	山形県鶴岡市立羽根第三小学校	41
2014/5/29 (水)	阿賀町立阿賀小学校	49
2014/5/30 (金)	市瀬小学校（南区）	43
2014/6/8 (日)	ボーイスカウト新潟第7団	25
2014/6/11 (水)	佐渡市立新穂小学校	6
2014/6/11 (水)	小針町町自治会（動く市政教室）	23
2014/6/19 (水)	五泉市立十全小学校	10
2014/6/19 (水)	新潟カトリック幼稚園（秋葉区）	39
2014/6/19 (水)	山形県鶴岡市立小野小学校	8
2014/6/20 (金)	A k i h a 森の幼稚園（秋葉区）	41
2014/6/27 (金)	東芝ホームテクノ	6
2014/7/1 (水)	金津中学校（秋葉区）	60
2014/7/4 (金)	西川小学校（江南区）	24
2014/7/8 (水)	物見山北新会（東区）	30
2014/7/12 (土)	柏崎市立第一中学校科学部	10
2014/7/18 (金)	全国コンピューター委員会（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団	11
2014/7/20 (日)	上組子供会（長岡市）	10
2014/7/25 (金)	江南区 北山池の自然を守る会	20
2014/7/25 (金)	秋葉区役所総務課	25
2014/7/26 (土)	長岡市立野野町小学校PTA	31
2014/8/19 (水)	三条東公民館	19
2014/8/20 (水)	名古屋市議会教育子ども委員会	15
2014/8/29 (金)	満日小学校（秋葉区）	28
2014/9/2 (水)	松浜小学校（北区）	124
2014/9/5 (金)	五十嵐小学校（西区）	133
2014/9/9 (水)	新潟第三小学校（秋葉区）	129
2014/9/10 (水)	金津小学校（秋葉区）	58
2014/9/12 (金)	結小学校（秋葉区）	113
2014/9/12 (金)	大野小学校（西区）	77
2014/9/18 (水)	加茂ウオーキングの会	20
2014/9/19 (金)	満日小学校（秋葉区）	66
2015/9/20 (土)	金津コミセンふるさと塾（秋葉区）	31
2014/9/21 (日)	新日本婦人の会新潟支部	20
2014/9/22 (月)	立仏小学校（西区）	80
2014/9/26 (金)	新潟第二中学校（秋葉区）	34
2014/9/30 (水)	新潟県高齢者大学	5
2014/10/1 (水)	小合小学校（秋葉区）	13
2014/10/3 (金)	東青山小学校（西区）	84
2014/10/8 (水)	動く市政教室「文化財保護を考える」	32
2014/10/9 (水)	秋葉区自治協議会	13
2014/10/10 (水)	動く市政教室「文化財保護を考える」	25
2014/10/11 (土)	このユビとまれの会	20
2014/10/15 (水)	新潟県高齢者大学	7
2014/10/15 (水)	二葉町三丁目自治会（中央区）	21
2014/10/16 (水)	新潟第二小学校（秋葉区）	82
2014/10/19 (日)	新潟県公園緑地建設業協会	40
2014/10/21 (水)	山崎小学校（中央区）	67
2014/10/22 (水)	埋蔵文化財保護対策五県協議会	10
2014/10/23 (水)	私立みどり幼稚園（中央区）	28
2014/10/23 (水)	福島市教育委員会「じゅーもびあ」	23
2014/10/26 (日)	こみふら散歩（秋葉区）	46
2014/10/30 (水)	桜が丘小学校（中央区）	83
2014/10/30 (水)	長岡市柳尾公民館「寿大学」	15
2014/11/2 (日)	山崎小学校（中央区）	4
2014/11/5 (水)	小須戸小学校（秋葉区）	49
2014/11/5 (水)	みのりクラブ（中央区）	30
2014/11/7 (金)	早通1旅クラブ（北区）	18
2014/11/8 (土)	阿賀浦コミュニティ協議会（阿賀野市）	40
2014/11/11 (水)	金津小学校（秋葉区）	4
2014/11/13 (水)	関屋大川前一區自治会（中央区）	25
2014/11/14 (金)	株式会社大石組（長岡市）	24
2014/11/15 (土)	新潟県立新発田南高等学校（新発田市）	13
2014/11/15 (土)	花の歳時記（長野県松本市）	22
2014/11/16 (日)	ボーイスカウト新潟第5団（中央区）	18
2014/11/20 (水)	支え合い軽トラウオーキングの会（秋葉区）	16
2014/11/26 (水)	クラブツーリズム(株)カルチャー旅行センター	18
2014/12/3 (水)	万代長嶺小学校（中央区）	69
2015/1/17 (土)	船内市観光ボランティアガイド研修会	40
2015/3/13 (金)	阿賀野市立堀越小学校	6
合計		2,959

表6 平成26年度弥生の丘展示館入館者数

月	開館 日数	来館者数（人）				累計 (開館から)
		個人	団体	合計	1日平均	
4	27日	3,134	309	3,443	128	72,887
5	27日	4,756	314	5,070	188	77,957
6	25日	2,780	158	2,938	118	80,895
7	28日	2,215	221	2,436	87	83,331
8	28日	3,337	62	3,399	121	86,730
9	25日	2,913	890	3,803	152	90,533
10	28日	2,307	609	2,916	104	93,449
11	26日	4,573	281	4,854	187	98,303
12	23日	829	69	898	39	99,201
1	25日	2,327	40	2,367	95	101,568
2	24日	1,793	0	1,793	75	103,361
3	27日	2,442	6	2,448	91	105,809
合計	313日	33,406	2,959	36,365	116	

## (2) 平成26年度の新たな取り組み

平成27年4月17日に、古津八幡山古墳のエリアを含む歴史の広場が全面オープンしたことから、古津八幡山古墳の解説を加えたリーフレットを新たに作成した。

また、古津八幡山古墳の解説として、『弥生の丘展示館ガイドブックNo.6（古津八幡山古墳編）』を作成した。容易に携帯できるよう、A5版の大きさとした。ガイドブックは弥生の丘展示館の来館者に無料で配布している。

古津八幡山古墳の調査及び整備工事の記録として、新潟市教育委員会『国史跡 古津八幡山遺跡 保存整備事業報告書2-1600年の時を越え よみがえる蒲原の王墓-』〔相田ほか2015b〕を刊行した。

## (3) 体験学習

弥生の丘展示館では、個人が来館すればいつでも体験できる事前申し込み不要の体験学習メニューを月毎に決めている（表1・2）。これらの参加者数は、平成25年度7,818人に対し、7,743人と若干減少している。

概ね10人以上の団体の場合は事前に申し込みをお願いしているが（表3・4）、件数・人数とも平成25年度に比

べ約1.5倍増加した。とりわけ、小学校での利用が多く、平成25年度の16件から倍増している。

## (4) イベント等

市報やホームページ等で広報して、事前募集して行うイベントを月に1回から2回程度実施している（表5）。

また、当日受付のものでは、6月に新潟県立植物園をメイン会場として行う第13回にいつ花ふるフェスタの協賛イベントとして、鹿角ペンダントや土偶作り、古代米の脱穀体験、弓矢体験等を行った。また、9月には新潟県埋蔵文化財センターと連携してまいぶん祭りをを行い、弓矢体験や石斧体験、鋳造体験、脱穀体験、石包丁・木包丁を使った稲刈り体験等の他、復元整備途中の古津八幡山古墳の特別公開を行った。なお、1月には弥生の餅つきを行っている。いずれも500人以上の参加者があり、大盛況であった（表5）。

## (5) 入館者数

平成26年度の弥生の丘展示館の入館者数は、36,365人である（表6）。昨年度よりも818人増加したことになる。内訳を見ると、団体入館者数が約1.5倍に増加したが、

個人入館者はやや減少した。

これまで課題として挙げられていた冬季における入館者数は昨年度に比べやや増加した。とりわけ、2月は昨年度に比べ2倍以上の増加となった。一方、積雪が早かったこともあり、12月は昨年度に比べ半数以下に減少した。

入館者数の増減については、隣接する新潟市新津美術館の企画展内容や入館者数も影響していると考えられるが、冬期間の12～3月を主とした入館者数の増加に向けた取り組み・工夫は今後の検討課題といえる。

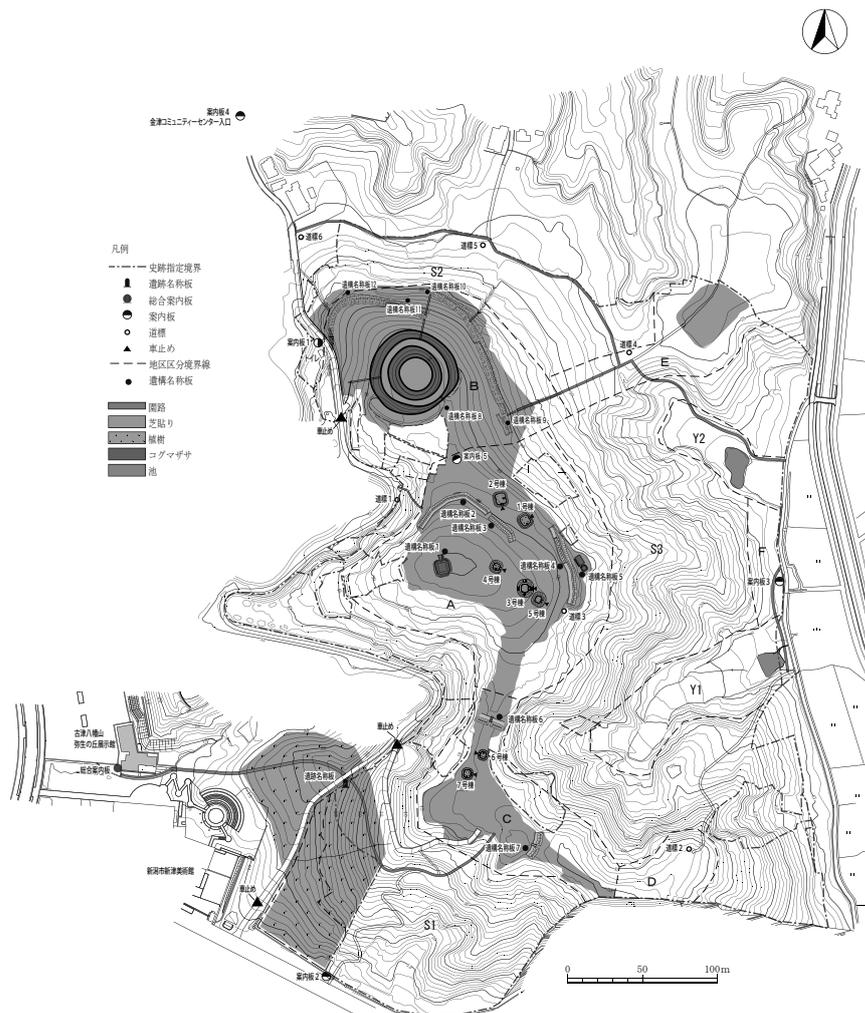


図1 史跡古津八幡山遺跡復元整備全体図（古津八幡山古墳復元整備後 1/5,000）

### 3 古津八幡山古墳復元整備の概要

#### (1) はじめに

古津八幡山古墳及びその周辺は、第2次世界大戦前後の畑地造成のための切り盛りによって本来の形状が大きく変更されていた。そのため、復元整備を行うにあたり、築造時の形態や規模等を確認する必要があり、平成23年度から平成25年度に確認調査を実施し、その結果をもとに平成25・26年度に古墳及びその周辺の復元整備工事を行った。なお、復元整備工事の詳細については報告書〔相田ほか2015b〕を参照頂きたい。

新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場は、平成27年4月17日に古墳の地区を含めて全面オープンとなった。

#### (2) 復元整備の概要

①概 要 古墳が位置する地区は、平成24年度に実施設計を行い、平成25・26年度に復元整備工事を行った(図2)。工事内容は、古墳の墳丘や周濠の復元の他、古墳の北から東側にかけて存在する弥生時代の環濠の園路標示工事である。この他、古墳説明用の案内板1基と周濠や環濠説明用の遺構名称板5基を設置した。

古津八幡山遺跡基本設計の「復元的整備に伴う造成は原則として現況地盤の上で行う工事とし、盛土を原則とする」とある方針に従い、古墳及びその周辺は現況地盤を極力壊さないよう、古墳については確認調査で復元された当時の墳丘面より基本的に1m高く盛土を行い復元した。古墳周辺についても基本的に盛土を行い造成した。

土砂の流出を防止するため、古墳斜面にはコグマザサを、それ以外の全面に芝を植栽した。墳丘斜面をコグマザサにしたのは周囲と植栽を変えることで墳端を分かりやすくする目的もあった。また、コグマザサは芝ほど生育が良くないため、管理がしやすい利点もあった。

史跡内では視界を遮るような構築物は極力造らないよう努めており、遺構名称板は地面と同じ高さに、案内板についても極力視界の妨げにならないよう低い台座とした。また、急な斜面部分7か所に木製階段を設置したが、景観に配慮し、近景写真などを撮影する際になるべ

く写りこまない位置になるよう配慮した。他には、整備工事の一環として古墳周辺の杉の間伐を行った。

②墳 頂 部 墳頂部は平安時代に削平を受けており、その後も畑の利用や大気測定所の設置などにより影響を受けていたことが調査で判明している。そのため、本来の墳丘高・墳頂平坦面については不明である。調査の結果、埋葬施設は確認されなかったが、埋葬施設があったとすれば、墳丘の築造方法から墳丘の中心部では旧表土直上(標高約47.5m)から最低でも4工程分の盛土の高さ(約2.5m)が必要であることから、墳頂標高50m(復元整備後51m)で復元を行った。

③テ ラ ス テラスの勾配については、確認調査成果や整備検討委員会・調査指導部会での指導をもとに、約6%の勾配で復元した。テラスが平坦でないのは築造前の旧地形の影響と考え、調査結果を活かし、あえて平らに復元していない。

④周 濠 南西側の周濠は、確認調査で深い所で濠底から1.5mほど埋まった状態であることが確認されたが、復元については埋まった状態の上に保護盛土を行い、芝で植栽するのみとした。また、周濠外側については、民地が大半を占めるため現況のままとした。

⑤園路(環濠) これまでの調査で、古墳の北西から南東側には外環濠A・B・Dが確認されている。これらについては、古墳と時代が異なることから自然土舗装材による園路として整備・標示した。(相田泰臣)



古津八幡山古墳 (復元整備後)

整備工事内容	平成25年度												平成26年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
仮設工事 (工事用道路設置・撤去)																								
造成工事 (盛土・切土・法面整形)																								
園路工事 (外環濠A~D)																								
雨水排水工事 (集水溝・集水管)																								
階段工事																								
間伐・切株処理																								
植栽工事																								
サイン工事 (第19次確認調査)																								
施工管理																								

図2 古津八幡山古墳復元整備工事の流れ

## V 研究活動－資料報告・研究ノート等－

### 1 西蒲区御井戸B遺跡出土の石製模造品について

#### (1) はじめに

西蒲区（旧巻町）に所在する御井戸B遺跡から平成9（1997）年に実施された本発掘調査で石製模造品が出土しており、平成15（2003）年度に実施した確認調査の概要報告書〔前山・相田2004〕に遺跡を考える上で重要な遺物という形で報告されている。石製模造品は、古墳時代中期を中心に盛行する祭祀遺物であり、列島の広い範囲で確認されるが、地域的偏在が激しい特徴的な遺物である。新潟市内では、現時点で管身の知る限り、御井戸B遺跡出土例のみである。ここでは、御井戸B遺跡出土の石製模造品について紹介し、若干の考察を行う。

#### (2) 御井戸B遺跡出土石製模造品について

**御井戸遺跡** 御井戸遺跡は越後平野の西縁を日本海に沿って連なる山地帯の北端、角田山の南麓、矢垂川によって形成された扇状地ないし自然堤防上に立地する。縄文時代晩期に集落が形成され、古墳時代後期に至るまで断続的に集落が営まれたと考えられている。特に、縄文時代晩期と古墳時代前期を中心に多量の遺物が出土している。古墳時代前期には、近接した山地上に前方後方墳である山谷古墳が所在しており、その関係が指摘されている〔前山・相田2004〕。御井戸遺跡は隣接して御井戸A遺跡と御井戸B遺跡に分かれているが、一体の遺跡として評価できるため、細かく調査や出土場所を述べる場合はA・Bを分けるが、全体の評価においては御井戸遺跡と述べる。

**出土状況** 既に述べたように、石製模造品は平成9年実施の本発掘調査で出土した。調査によって、古墳時代の御井戸B遺跡東部は北部に埋没谷、中央に微高地、南部に低湿地が広がることが判明した。石製模造品はこのうち北部埋没谷の南岸斜面から7点出土している。集中した分布と限定された点数から、一括性の高い資料と考えられている。

**石製模造品** ここでは個別の資料について述べる。なお、資料番号は報告書記載の番号を用い、石製模造品の分類等については〔金田2015〕を用いる。

1は扁平円型の剣形である。最大長4.2cm、最大幅2.2cm、厚さ5.0mm、孔径2.0mmである。全面に擦痕が確認できる。2は扁平半月型の勾玉形である。最大長

3.6cm、最大幅1.7cm、厚さ7.0mm、孔径1.0mmである。全面に擦痕が確認できる。3は双孔円型の板形である。最大長1.6cm、最大幅1.6cm、厚さ3.0mm、孔径1.5mmである。全面に擦痕が確認できる。他の板形に比べて、若干小形である。4は双孔楕円型の板形である。最大長2.3cm、最大幅1.9cm、厚さ2.5mm、孔径1mmである。前面に擦痕が確認できる。5は双孔円型の板形である。最大長2.1cm、最大幅1.9cm、厚さ3.5mm、孔径1.0mmである。全面に擦痕が確認できる。6は単孔楕円型の板形である。最大長2.3cm、最大幅1.9cm、厚さ3.0cm、孔径2.0cmである。表・裏面に擦痕が確認できるが、側面にはほぼ確認できない。7は単孔円型の板形である。最大長2.0cm、最大幅1.9cm、厚さ3.5mm、孔径1.0mmである。表・裏面に擦痕が確認でき、側面にも一部擦痕が確認できる。石材は、蛇紋岩を微量に含む滑石と報告されている。個々の色調は緑色から青色と異なり、特に7は若干異質な感じも受けるが、率先して異なる石材として分類できるものは無い。調整は、どれも全面に擦痕が確認でき、各形式で一般的に確認できる調整である。双孔型板形の側面は、擦痕の一つの纏まりの単位が少ないため、その境界の角が目立ち、少し角張る曲線を描く。単孔型板形のみ側面の擦痕が希薄で、粗雑な印象を受ける。

以上のように御井戸B遺跡では、勾玉形・剣形・板形の3種類の形式が確認でき、これらは定形三種類に分類され、多くの集落から出土する形式である。さらに、この時期について考える。新潟県は資料が少ないため、隣接地域の東北の例を参考にすると〔金田2015〕、概ね須恵器型式のTK73からTK208の時期の可能性が高く、なかでもTK216からTK208の時期の可能性もある。御井戸B遺跡出土の土器でも、TK73からTK208と併行する時期の土師器が確認されており、当該期の可能性は十分にある。

#### (3) 新潟県出土の石製模造品について

〔金田2015〕を基に新潟県の石製模造品の分布について概観する。新潟県において石製模造品が出土する遺跡は大きく2つに分類できる。実用品類（玉類形・紡錘車形）のみが出土する遺跡と、狭義の石製模造品として評価できる定形三種類（勾玉形は円型を含まない）が出土する遺跡である。このうち、定形三種類が出土する遺跡はほぼ中越地域以南である。この定形三種類が出土する遺跡は、分布の纏まりからさらに、糸魚川市周辺（以下

「糸魚川」、南魚沼市周辺（以下「南魚沼」、長岡市・新潟市西蒲区周辺（以下「長岡・旧巻」）の3つの地域に分けることができる。このうち糸魚川は、円型勾玉形や実用品類などと共に板形が中心となる。そして、石製模造品出土遺跡の多くは玉作遺跡である。一方、南魚沼では、定形三種類の中でも剣形が出土する。そして、長岡・旧巻である御井戸遺跡から定形三種類の3つの形式が出土している状況である。

#### (4) 御井戸遺跡出土石製模造品の意義

御井戸遺跡は、新潟県内で定形三種類が出土する石製模造品出土遺跡で最北に位置する（日本海側で見ると山形県庄内地域等で出土している）。御井戸遺跡出土の石製模造品は剣形を含む定形三種類の3つの形式が確認でき、南魚沼との様相と類似している。そのため、南魚沼との関係が深いと考える。

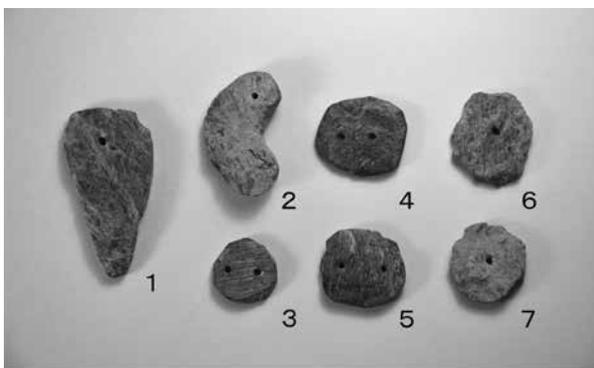
御井戸遺跡は、角田山の南麓から流れる矢垂川の氾濫源の微高地上に立地する。矢垂川は矢川に合流し、さらに西川に合流する。この西川は大河内分水路が開削される以前は、江戸時代に信濃西川と呼ばれる流路と同様の流路と考えられ、信濃川が寺泊市大河内付近で分岐する2つの流路のうちの1つである〔榎根1985〕。この信濃西川はもう一方の信濃東川（現在の信濃川とほぼ同様の流路）と新潟市平島で再び合流したと考えられ、信濃西川と信濃東川は川幅に大きな違いが無く、どちらも主要な流路であったと考えられている。また、信濃西川のような新潟平野の西側を流れる主要な流路は、弥生時代や古墳時代にも存在していたと考えられている〔鴨井・安井2004〕。

以上を踏まえ現在の河川で考えると、南魚沼市を流れる魚野川から信濃川、西川へと河川に沿った交流経路を

想定することができる。また、長岡市島崎に所在する大武遺跡や奈良崎遺跡からも板形石製模造品〔春日ほか2002・2014〕が出土している。大武遺跡や奈良崎遺跡は東頸城丘陵北東側付近の沖積地に立地しており、大河内分水路開削以前は旧島崎川と呼ぶ西川に合流する河川が付近を流れていたと考えられている。そのため、この大武遺跡についても、魚野川から西川の交流経路との関係が考えられる。

このように、御井戸遺跡から出土する石製模造品は南魚沼との旧河川沿いによる交流経路によって波及したと考えられ、さらに南魚沼は魚野川沿いを南下すると群馬県へとつながる。南魚沼と群馬県との関係は既に指摘されており〔寺村1972、安立2001〕、群馬県からは剣形で言えば、両面鑄くびれ型等の新潟県出土よりも古い型式の石製模造品が出土することから考えれば、群馬県から南魚沼、さらに長岡・旧巻へと波及したと考えることができる。このことから、古墳時代中期に群馬県から新潟平野西側を通る内水面交通によって日本海へと抜ける交流経路を想定することができる。御井戸遺跡はその交流経路上に位置し、交通の要所であったために、石製模造品が出土したと考えられる。

最後に、本論は御井戸遺跡出土の石製模造品の資料を報告すると共に、〔金田2015〕を基に御井戸遺跡出土の石製模造品の意義について若干の予察を行ったものである。しかし、新潟県内の石製模造品については、筆者自身の観察や考察に不十分な点が多く、誤認や誤解が含まれている可能性がある。今後、新潟県内の石製模造品についてより詳細に検討することで、御井戸遺跡出土の石製模造品の意義をより明確にしていきたい。（金田拓也）



御井戸B遺跡出土石製模造品

表1 御井戸B遺跡出土石製模造品観察表

報告番号	調査年度	グリッド	類系	形式	型式	法量			調整		石材	色調	
						全長 (cm)	全幅 (cm)	厚さ (mm)	孔径 (mm)	表面			裏面
1	1997	B7f	定形三種類	板形	扁平円型	4.2	2.2	5.0	2.0	擦痕	擦痕	滑石	暗青灰色
2	1997	B6n	定形三種類	勾玉形	扁平半月型	3.6	1.7	7.0	1.0	擦痕	擦痕	滑石	明まりーブ灰色
3	1997	B6n	定形三種類	板形	双孔円型	1.6	1.6	3.0	1.5	擦痕	擦痕	滑石	緑灰
4	1997	B8d	定形三種類	板形	双孔楕円型	2.3	1.9	2.5	1.0	擦痕	擦痕	滑石	明青灰色
5	1997	B6v	定形三種類	板形	双孔楕円型	2.1	1.9	3.5	1.0	擦痕	擦痕	滑石	青灰色
6	1997	B6i	定形三種類	板形	単孔楕円型	2.3	1.9	3.0	2.0	擦痕	-	滑石	明青灰色
7	1997	B3-5	定形三種類	板形	単孔円型	2.0	1.9	3.5	1.0	擦痕	擦痕	滑石	明緑灰色

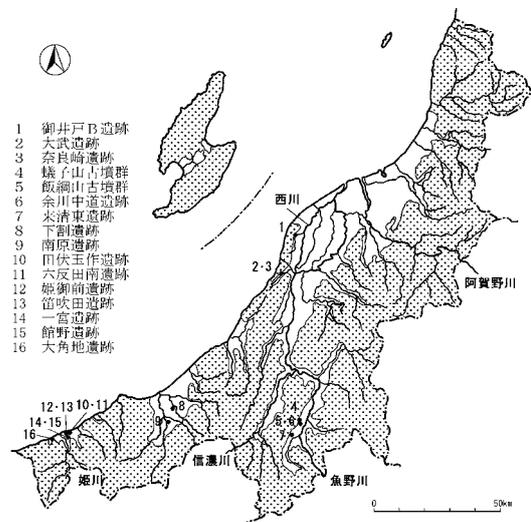


図1 新潟県における定形三種類（円型勾玉形除く）出土遺跡 (1/3,000,000)

## 2 沖ノ羽遺跡から出土した古墳時代後期の「甗」について

**報告に至る経緯** 2014年2月、新潟市教育委員から『沖ノ羽遺跡Ⅴ 第18・19次調査』が刊行された〔遠藤・澤野ほか2014〕。報告書中で、4区から出土した図1-29は、古墳時代後期の「甗」として分類、報告された〔澤野2014a・b〕。

以前、この種の土器について「頸部有孔受口付甗形土器」と仮称して集成及び若干の検討を行ったことがある〔相田2009〕。その後、春日真実氏は6・7世紀における越後の甗を総括的に検討する中で、「頸部付近に棧木孔があり、棧木孔のU字型の突起があるもの（「頸部有孔受口付甗形土器」と呼称されるもの）について、底部単孔の甗としてI d類に分類した〔春日2013〕。

2009年に集成した以後、類例が増加していることから、本稿では、現時点における集成を行うとともに、若

干の私見を述べたい。なお、この種の土器について、筆者も春日氏と同様に甗と考えており、以下では「頸部有孔受口付甗」として記述する。

**土器の概要** 図1-29は、沖ノ羽遺跡4区（2005年調査）の包含層出土遺物である。体部上方から口縁部の資料で、頸部から口縁部にかけて緩やかに外反する形状をなす。頸部には穿孔が1箇所確認でき、外面は孔の下に受け口状の突起が付く。器面の摩耗が激しく調整は不明な点が多いが、受け口部外面には指頭圧痕が、頸部外面には一部ハケメが認められる。復元口径は23.0cmである。

4区では古墳時代の土器が定量出土している（図2）。SX3出土の須恵器杯はTK10型式の特徴をもつ。また、杯・高杯は内面黒色処理されたものが大半を占める。杯の多くは半球状の体部に外反する口縁部が延びる形態で、体部の器壁は比較的厚いものが多い。高杯脚部は全て短脚で、ハの字状に裾が広がる形態をなす。これら土師器杯・高杯の特徴は須恵器の年代観と矛盾せず、図1

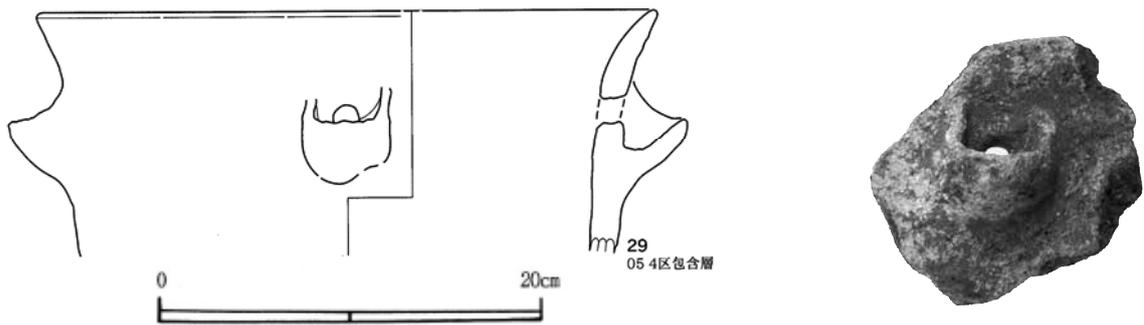


図1 沖ノ羽遺跡4区（2005年調査）出土の頸部有孔受口付甗〔遠藤・澤野ほか2014〕

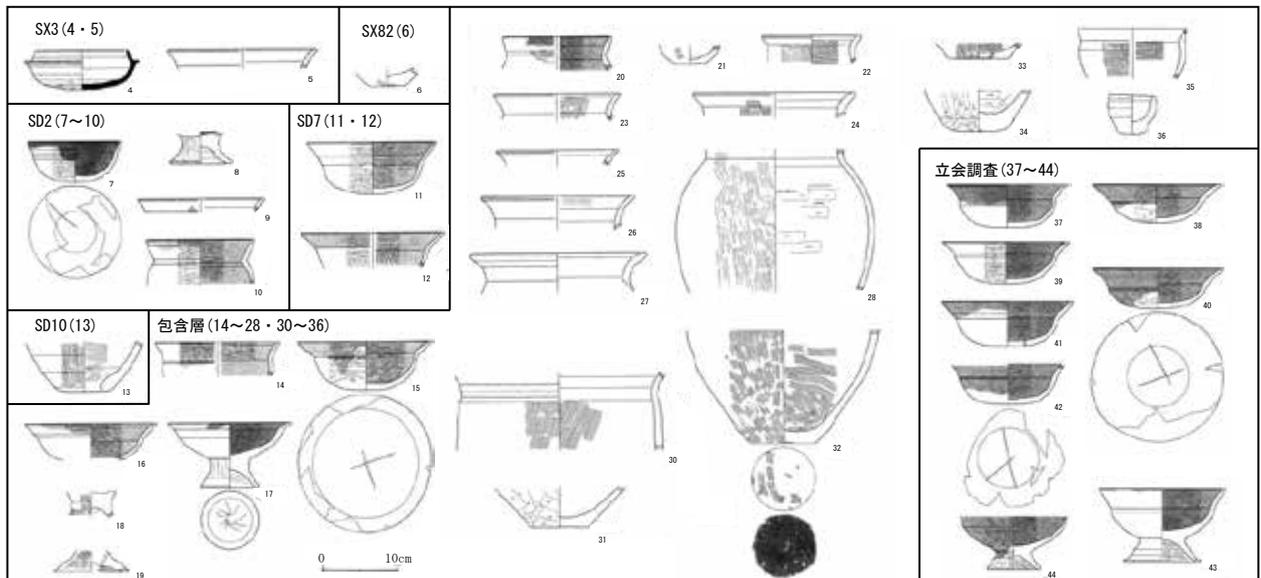


図2 沖ノ羽遺跡4区（2005年調査）出土の古墳時代の土器（図1-29除く）〔遠藤・澤野ほか2014〕

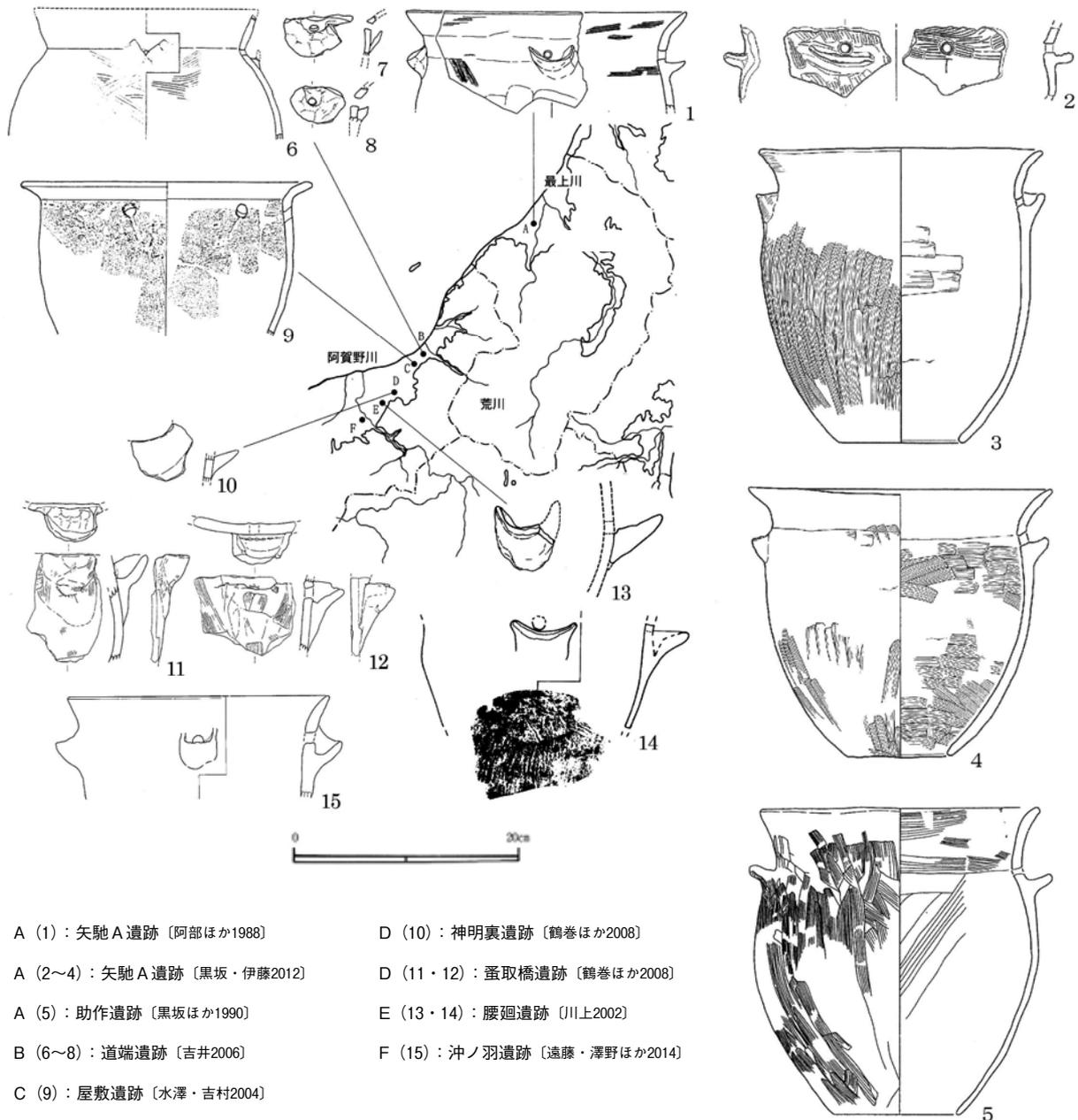
-29も、TK10型式並行期前後の時期の可能性が高い。

おわりに 頸部に棧木孔を穿ち、外面の孔の下に受口状の突起が付く頸部有孔受口付甗は、現時点において、管見の限り沖ノ羽遺跡を除けば、阿賀野川以北と庄内平野に分布が限定される(図3)。時期の特定が困難な資料も多いが、いずれもMT15・TK10型式前後の資料と推測している〔相田2009〕。

この種の土器について、新潟県内では底部の形状が判明している例は存在しないが、山形県鶴岡市の矢馳A遺跡と助作遺跡からは、類似した特徴をもつ単孔底の甗が出土している(図3-3~5)。図3の土器は、いずれも形態や調整が類似しており、年代も近いと推測されるこ

とから、矢馳A・助作遺跡例と同様に、単孔底の甗である可能性が高いと判断し得る。

繰り返しになるが、この種の土器の分布は、現状で沖ノ羽遺跡を除くと阿賀野川以北と庄内平野に限られる。なお、沖ノ羽遺跡は阿賀野川の西2.5kmに位置し、阿賀野川の支流、小阿賀野川から派生する能代川と至近距離にあるなど、内水面交通によって阿賀野川と結ばれた阿賀野川流域の集落といえる。この種の特徴をもつ土器が、この地域に分布する具体的な背景については今後の検討課題であるが、該期における阿賀野川流域以北と庄内平野との密接な関係を示す資料と考える。(相田泰臣)



- |                            |                             |
|----------------------------|-----------------------------|
| A (1) : 矢馳A遺跡〔阿部ほか1988〕    | D (10) : 神明裏遺跡〔鶴巻ほか2008〕    |
| A (2~4) : 矢馳A遺跡〔黒坂・伊藤2012〕 | D (11・12) : 蚕取橋遺跡〔鶴巻ほか2008〕 |
| A (5) : 助作遺跡〔黒坂ほか1990〕     | E (13・14) : 腰廻遺跡〔川上2002〕    |
| B (6~8) : 道端遺跡〔吉井2006〕     | F (15) : 沖ノ羽遺跡〔遠藤・澤野ほか2014〕 |
| C (9) : 屋敷遺跡〔水澤・吉村2004〕    |                             |

図3 頸部有孔受口付甗の分布

### 3 仲歩切遺跡から出土した骨様物質の組織形態学的分析結果

#### (1) 緒言

平成26年度に実施された仲歩切遺跡の工事立会(2014178、本書26頁概要報告)において、古代の土坑(SK 8) 1~3から灰白色の骨様物質小片が出土した。そのうちの数点に、焼成した陸生哺乳類四肢長骨の緻密質に類似する形状を認めたものの、細片化が著しく肉眼観察では骨と断定するのは困難であった。こうした微小な骨様物質の鑑定には、顕微鏡を用いた組織形態観察が有効であることが知られている〔Greenlee and Dunnell, 2010; Sawada et al., 2014〕。そこで、(1) 骨か否か、(2) 骨だとすればヒトか動物かを明らかにするため、骨様物質を薄切して検鏡し、組織形態学的検討を実施した。以下にその結果を報告する。

#### (2) 試料と方法

組織形態の分析に際し、SK 8-1~3から出土した骨様物質3点を試料とした(NB01~03、写真1)。各試料を70%エタノールに浸漬して脱気処理を行い、80%・90%・100%エタノールに各1.5時間、別の100%エタノールに1.5時間浸漬して脱水した。その後、スチレンモノマーに2時間、別のスチレンモノマーに2時間、スチレンモノマーと樹脂(Rigolac2004とRigolac70F (Nissin EM) を7対3で混合)の等量混合液に24時間浸漬した後、樹脂(同上)に24時間浸漬した。以上の過程を経た試料を、重合促進剤(Benzoyl Peroxide、和光純薬工業)を添加した別の樹脂(同上)に包埋して恒温器内に安置し、30℃から12時間毎に10℃ずつ60℃まで温度を上げて樹脂を重合した。樹脂が十分に硬化したのち、硬組織切断機(SP1600、Leica)で50 $\mu$ m厚に薄切してプレパラートに封入した〔澤田ほか、2010〕。

検鏡には明視野・偏光観察の可能な光学顕微鏡(Imager A1、Zeiss)を使用した。骨構造を確認できた試料については、Pfeiffer〔2000〕およびSawada et al.〔2004〕にしたがって、完形の二次オステオンの面積(On.Ar)とハバース管の面積(H.Ar)を計測した。計測にあたり、骨組織像は顕微鏡に接続したCMOSカメラ(Go-5、QImaging)で撮影し、画像解析にはImageJ(US National Institute of Health, <http://imagej.nih.gov/ij/>)を用いた。比較データとして、ヒト、ニホンザル、ウマ、イノシシ、ニホンジカ、カモシカ、ウシ、キツネ、タヌキ、イヌ、クマのOn.Ar、H.Ar、H-On示数(Sawada et al.〔2014〕と澤田・奈良〔2015〕に基づく。附表参照)を利用した。



写真1 出土試料  
左からNB01 (SK 8-1 出土)、NB02 (SK 8-2 出土)、NB03 (SK 8-3 出土)。スケール・バーは5 mm。

#### (3) 結果1：検鏡所見

試料の顕微鏡像を写真2に示す。全ての試料に骨構造の特徴が認められており、いずれも骨であることは疑いない。

NB01 (SK 8-1 出土) 骨質は劣化しており随所に亀裂や空隙が生じていたものの、二次オステオンを主体とする緻密質の組織構造が確認された(写真2-1)。偶蹄類などヒト以外の一部の動物に顕著に発達する葉状骨〔Hillier and Bell, 2007; Mulhern and Ubelaker, 2012〕(写真2-13)は見当たらない。二次オステオンの分布様相と緻密質の厚さは、中・大型の陸生哺乳類(写真2-4~2-12)に類似する。

NB02 (SK 8-2 出土) NB01と同様に二次オステオンを主体とする緻密質の組織構造が確認されたが、保存状態はきわめて不良である(写真2-2)。葉状骨は見当たらない。中・大型の陸生哺乳類に類似する。

NB03 (SK 8-3 出土) 二次オステオンを主体とする緻密質で、葉状骨は見当たらない(写真2-3)。他2点の試料に比べて組織形態の保存状態が良好で、二次オステオンの形状を明瞭に確認できる。二次オステオンの分布様相と緻密質の厚さは中・大型の陸生哺乳類に類似する。ハバース管の径は大きく、定性的な所見として成人骨(写真2-4)に近い印象を受けた。

#### (4) 結果2：骨組織形態計測値

試料NB01とNB03においては10個以上の完形二次オステオンおよびハバース管を確認し得たので、これら試料2点を対象として骨組織形態計測を実施した。試料NB02は組織構造の劣化が著しくオステオンの輪郭は不明瞭であったため計測に至らなかった。

試料の骨組織形態計測値を表1に示す。また、試料および各種動物四肢骨緻密質のOn.ArとH.Arを図1、H.ArとOn.Arの比(H-On示数)を図2にまとめた。NB01のOn.Arの平均値(39012.8 $\mu$ m<sup>2</sup>)、H.Arの平均値(2411.6 $\mu$ m<sup>2</sup>)、H-On示数の平均値(6.3)はいずれもヒトの平均値の範囲(On.Ar 31463.8-49038.7 $\mu$ m<sup>2</sup>、H.Ar 1734.3-2524.5 $\mu$ m<sup>2</sup>、H-

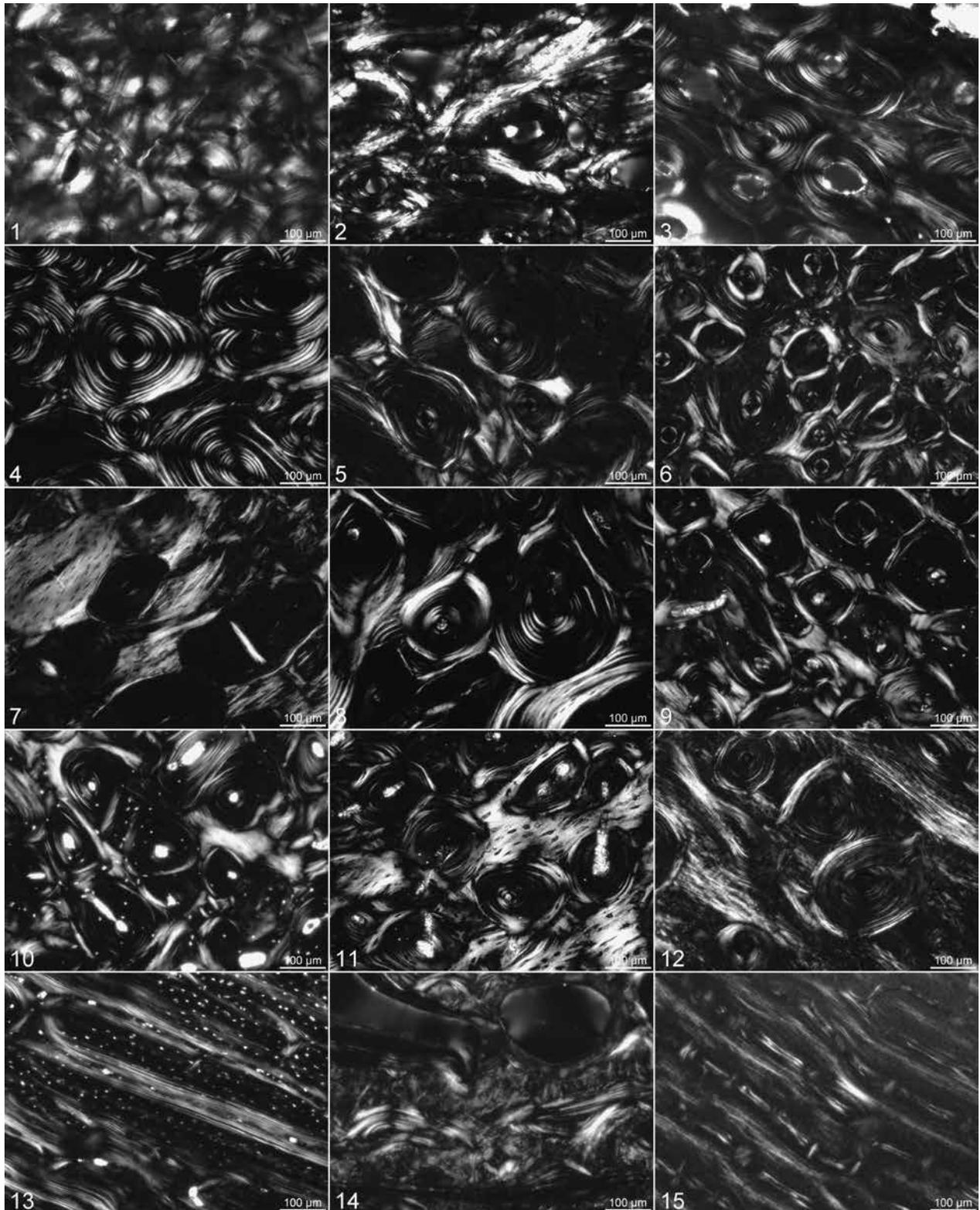


写真2 試料および比較動物四肢骨骨幹部の偏光顕微鏡写真

1 NB01、2 NB02、3 NB03、4 成人大腿骨、5 ニホンザル大腿骨、6 イヌ大腿骨、7 タヌキ大腿骨、8 クマ上腕骨、9 シカ大腿骨、10 イノシシ大腿骨、11 ウシ大腿骨、12 ウマ大腿骨、13 イノシシ大腿骨（葉状骨）、14 乳児大腿骨（一次骨）、15 オオハクチョウ大腿骨。4～12はいずれも二次オステオンを主体とする組織形態。

表1 仲歩切遺跡出土骨片試料の骨組織形態計測値

試料	n	On.Ar ( $\mu\text{m}^2$ )		H.Ar ( $\mu\text{m}^2$ )		H-On示数	
		Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD
NB01	12	39012.8	11022.6	2411.6	987.2	6.3	2.1
NB03	15	55856.1	18639.3	2456.3	1382.6	5.0	1.7

n: 完形の二次オステオンの個数 On.Ar: 完形の二次オステオンの面積 H.Ar: 完形の二次オステオン内にあるハバース管の面積 H-On示数: (H.Ar/On.Ar)×100

On示数5.4-7.3) に収まっていた。NB03 のH.Arの平均値 ( $2456.3\mu\text{m}^2$ ) もヒトの平均値の範囲にあり、On.Arの平均値 ( $55856.1\mu\text{m}^2$ ) とH-On示数の平均値 (5.0) はヒトの平均値の範囲からわずかに外れるものの、比較動物群の中ではヒトに最も近いところに位置していた。

### (5) 考察

骨組織形態の大きさは同じ種の中なかでも個体によって相違するが、大きさの平均値が顕著に異なる動物間で比較するときは、種内の個体差の影響は小さいとみなしてよい〔澤田ほか、2010〕。骨組織形態計測においてオステオンやハバース管の大きさは動物種の識別に有効とされており〔Currey, 1960; Harsányi, 1993〕、特にH-On示数は人獣鑑別に優れた指標である〔澤田ほか、2010; 澤田・奈良、2015〕。

試料はいずれも二次オステオンを主体とする緻密質であり、骨質が厚いことから中・大型哺乳類に比定される。このうち、試料NB01とNB03のOn.Ar、H.Ar、H-On示数は中・大型哺乳類の中でもヒトの値の範囲内ないしヒトに近い値を示したことから(図1・2)、これら2点の試料はヒトの可能性がきわめて高いと判断してよい。偶蹄目などヒト以外の一部の動物群に発達する葉状骨が試料に認められなかったことも、この見解と矛盾しない。なお、軟部組織に包まれた生骨が強く焼成したとき、高温により組織形態が変化することがある〔Nelson, 1992〕。しかしながら、試料の表面に生骨焼成に伴う亀裂〔cf. 池田, 1981〕が生じておらず、試料NB03に良好な組織形態が保存されていたことも考慮すると、焼骨であったとしても組織形態の変化の影響は小さいと思われる。

ヒトの骨組織形態は成長段階によって異なっており、例えば新生児から乳児の大腿骨幹部は一次骨を主体とするが(写真2-14)、2歳を過ぎると二次骨(二次オステオン)が散見されるようになり、成長に伴って二次骨の占める割合は増加していく〔Kerley, 1965; Sawada et al., 2004〕。試料は一次骨をほとんど含まず、二次オステオンを主体としていたことから、ある程度成長が進んだ個体に由来するとみなして大過ない。

試料NB02は中・大型哺乳類に類似していたものの、保存不良ゆえ人獣鑑別は困難であった。ただし、ヒトの特徴に合致しない組織形態は見られなかったことから、

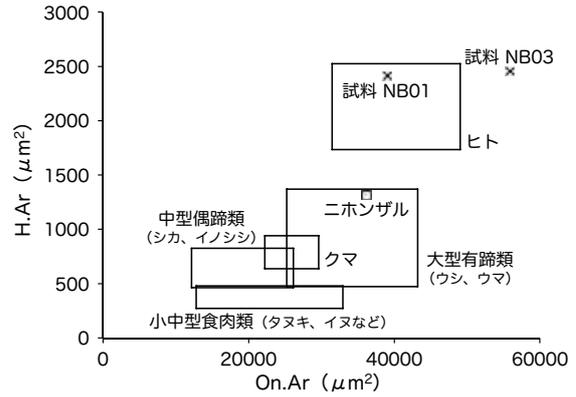


図1 オステオン面積 (On.Ar) とハバース管面積 (H.Ar)

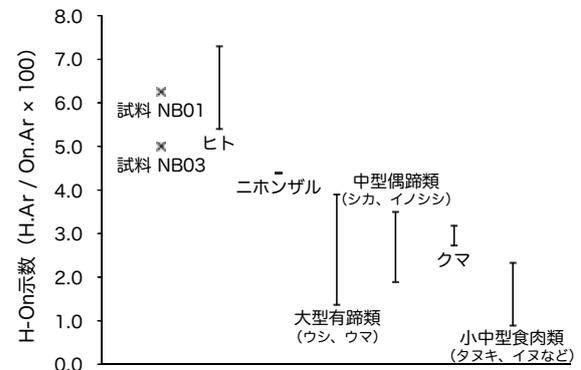


図2 オステオンとハバース管の面積比 (H-On示数)

ヒトの可能性は否定されない。

### (6) 結語

仲歩切遺跡平成26年度工事立会のSK 8-1 ~ 3 から出土した白色の骨様物質を組織形態学的に検討した結果、これらがいずれも中・大型哺乳類の緻密質であることを明らかにした。なかでもSK 8-1・3 から出土した骨片は、人骨の可能性が高いと考えられた。SK 8-2 から出土した骨片は保存状態が悪く、人獣鑑別に至らなかった。(澤田純明・佐伯史子・奈良貴史)

### 引用・参考文献

- Currey J.D. (1960) Differences in the blood-supply of bone of different histological types. *Quart J Microscopic Sci*, 101: 351-370.
- Greenlee D.M. and Dunnell R.C. (2010) Identification of fragmentary bone from the Pacific. *J Archaeol Sci*, 37: 957-970.
- Harsányi L. (1993) Differential diagnosis of human and animal bone. In: Grupe G. and Garland A.N. (eds.) *Histology of Ancient Human Bone: Methods and*

Diagnosis, Springer, Berlin, pp. 79-94.

Hillier M. and Bell L.S. (2007) Differentiating human bone from animal bone: a review of histological method. *J Forensic Sci*, 52: 249-263.

Kerley E.R. (1965) The microscopic determination of age in human bone. *Am J Phys Anthropol*, 23: 149-164.

Mulhern D.M. and Ubelaker D.H. (2012) Differentiating human from nonhuman bone microstructure. In: Crowder C.M. and Stout S.D. (eds.), *Bone Histology*, CRC Press, Boca Raton, pp. 109-134.

Nelson R. (1992) A microscopic comparison of fresh and burned bone. *J Forensic Sci*, 37: 1055-1060.

Pfeiffer S. (2000) Palaeohistology: health and disease. In: Katzenberg M.A. and Saunders S.R. (eds.), *Biological Anthropology of the Human Skeleton*, Wiley-Liss, New York, pp. 287-302.

Sawada J., Kondo O., Nara T., Dodo Y., Akazawa T. (2004) Bone histomorphology of Dederiyeh Neanderthal child. *Anthropol Sci*, 112: 247-256.

Sawada J., Nara T., Fukui J., Dodo Y., Hirata K. (2014) Histomorphological species identification of tiny bone fragments from a Paleolithic site in the Northern Japanese Archipelago. *J Archaeol Sci*, 46: 270-280.

池田次郎 (1981) 出土火葬骨について. 奈良県立橿原考古学研究所編, 太安萬侶墓, 奈良県教育委員会, 橿原市, pp. 79-88.

澤田純明・奈良貴史・中嶋友文・斉藤慶吏・百々幸雄・平田和明 (2010) 骨組織形態学的方法による骨小片の人獣鑑別: 東北北部の平安時代遺跡から出土した焼骨の分析. *Anthropol Sci (J Ser)*, 118: 23-36.

澤田純明・奈良貴史 (2015) 大沢谷内遺跡出土焼骨の肉眼観察および骨組織形態学的所見. 新潟市文化財センター編, 大沢谷内遺跡Ⅳ第19・20・21次調査, 新潟市教育委員会, 新潟, pp. 154-158.

附表 比較動物標本の骨組織形態計測値

分類群	薄切標本番号	n	On.Ar ( $\mu\text{m}^2$ )		H.Ar ( $\mu\text{m}^2$ )		H-On示数	
			Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD
霊長類								
ヒト	Homo03Ha	39	31463.8	10540.8	2040.9	894.7	6.9	3.2
ヒト	Homo01Fa	54	41846.8	15999.8	2524.5	1189.9	6.4	3.1
ヒト	Homo02Fa	55	33931.6	12228.2	1734.3	994.3	5.4	3.0
ヒト	Homo04Fa	46	35774.2	11193.3	2336.2	920.5	6.9	3.0
ヒト	Homo05Fa	22	36560.1	12066.7	1748.7	985.1	5.4	3.5
ヒト	Homo06Fa	26	49038.7	22959.9	2334.5	1327.7	5.4	3.6
ニホンザル	Macaca01Fa	12	36154.1	10694.8	1317.3	605.3	4.4	1.3
奇蹄類								
ウマ	Eq01F	55	41422.9	23738.4	1371.1	692.8	3.9	2.4
偶蹄類								
イノシシ	Sus01H	28	25294.5	11043.3	463.7	166.8	2.0	0.7
イノシシ	Sus01F	11	24932.9	10758.4	680.7	386.8	3.0	1.7
イノシシ	Sus02H	87	19673.2	7155.0	646.0	287.1	3.5	1.6
イノシシ	Sus02F	29	25740.1	7559.2	827.7	359.7	3.2	1.0
ニホンジカ	Cervus02Ha	51	19076.6	6231.2	469.4	139.4	2.6	0.9
ニホンジカ	Cervus03Ha	30	20618.6	7048.2	503.5	172.9	2.6	0.8
ニホンジカ	Cervus01Ra	49	12144.2	4344.5	-	-	-	-
ニホンジカ	Cervus01Fp	39	17965.2	8821.4	506.8	220.8	3.2	1.4
ニホンジカ	Cervus03Fp	48	22522.9	9747.8	722.2	317.6	3.4	1.4
カモシカ	Cap01F	32	26140.1	8269.3	485.8	208.0	2.0	1.0
ウシ	Bos04Ha	71	43209.7	14662.3	591.4	241.9	1.5	0.7
ウシ	Bos02Fa	25	31532.4	10001.6	699.6	283.2	2.3	0.8
ウシ	Bos03Fa	16	28061.3	10802.0	714.8	338.1	2.6	1.0
食肉類								
キツネ	Vulpes01M	21	32937.9	10748.3	294.6	142.3	1.9	0.5
タヌキ	Nyctereutes01Fp	13	22022.3	11545.9	480.1	192.8	2.5	1.1
イヌ	Canis01Fa	26	12789.2	5187.9	298.2	163.3	3.7	2.1
イヌ	Canis01Ta	65	15291.4	4916.0	273.3	131.0	2.8	0.8
クマ	Ursus01Ha	114	26356.1	11206.4	719.5	296.4	3.1	1.6
クマ	Ursus01Ra	109	29614.9	11581.4	942.1	400.1	3.4	1.2
クマ	Ursus01Fa	131	22203.2	8273.8	637.3	318.1	3.0	1.4
クマ	Ursus01Ta	138	22496.6	8158.6	715.9	356.1	3.3	1.3

n: 完形の二次オステオンの個数. On.Ar: 完形の二次オステオンの面積.  
H.Ar: 完形の二次オステオン内にあるハバース管の面積. H-On示数: (H.Ar/On.Ar) × 100.  
データはSawada et al. (2014) と澤田・奈良 (2015) に基づく.

## 引用・参考文献

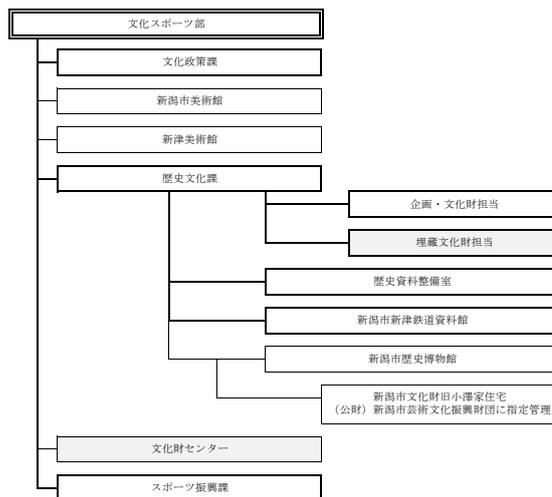
- 相田泰臣 2009 「古墳時代の角田山麓と阿賀北における土器の様相」『新潟県の考古学』Ⅱ 新潟県考古学会
- 相田泰臣 2015 「Ⅴ 研究活動－資料報告・研究ノート等－ 3 新潟市秋葉区舟戸遺跡出土遺物」『新潟市文化財センター年報－平成25（2013）年度版－』第2号 新潟市文化財センター
- 相田泰臣ほか 2015 a 「大沢谷内遺跡Ⅳ 第19・20・21次調査－一般国道403号小須戸田上バイパス整備工事に伴う大沢谷内遺跡第12・13・14次調査－」新潟市教育委員会
- 相田泰臣ほか 2015 b 「国史跡 古津八幡山遺跡 保存整備事業報告書2－1600年の時を越え よみがえる蒲原の玉墓－」新潟市教育委員会
- 朝岡政康ほか 2009 「手代山北遺跡 第2・3次調査－市道亀田南線建設事業に伴う手代山北遺跡第2・3次発掘調査報告書－」新潟市教育委員会
- 安立 聡 2001 「第5章 まとめ 第3節 祭祀について」『来清東遺跡－県道建設に伴う発掘調査報告書』塩沢町教育委員会
- 阿部明彦ほか 1988 「鶴岡西部地区遺跡群 矢馳A遺跡 矢馳B遺跡 清水新田遺跡発掘調査報告書」山形県教育委員会
- 甘粕 健ほか 1986 「六地山遺跡－1982年発掘調査を中心に－」新潟市教育委員会
- 諫山えりかほか 2004 「新潟市山木戸遺跡 マンション等建設予定地内発掘調査報告書」新潟市教育委員会
- 石原正敏・木村祐治 1996 「新潟県新潟市原遺跡出土の耳形土製品」『縄文時代』第7号 縄文時代文化研究会
- 犬塚又兵 1896 「越後國中蒲原郡程島村字畜生ヶ原石器時代に遺跡発見に付きて」『東京人類学会雑誌』11巻119号 東京人類学会
- 今井さやか 2014 「Ⅲ 文化財センター事業 8 保存処理」『新潟市文化財センター年報－平成23（2011）年度・平成24（2012）年度版』第1号 新潟市文化財センター
- 今井さやか 2015 「Ⅴ 研究活動－資料報告・研究ノート等－ 7 アスファルト精製実験について」『新潟市文化財センター年報－平成25（2013）年度版－』第2号 新潟市文化財センター
- 遠藤恭雄・青木 誠ほか 2015 「細池寺道上遺跡Ⅳ 第43次調査－市道大安寺第5号大関線改良工事に伴う細池寺道上遺跡第3次発掘調査報告書－」新潟市教育委員会
- 遠藤恭雄・澤野慶子ほか 2014 「沖ノ羽遺跡Ⅴ 第18・19次調査－県営ほ場整備事業（担い手育成型）満日地区に伴う沖ノ羽遺跡第11・12次発掘調査報告書－」新潟市教育委員会
- 春日真実 1999 「第4章 古代 第2節 土器編年と地域性」『新潟県の考古学』高志書院
- 春日真実 2000 「考古編 第5章 まとめ」『吉田町史』資料編1 考古・古代・中世 吉田町
- 春日真実 2013 「越後の甌－6・7世紀を中心に－」『研究紀要』第7号 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実ほか 2002 「奈良崎遺跡 国道116号和島バイパス・二級河川郷本川広域基幹河川改修工事関係発掘調査報告書」新潟県教育委員会
- 春日真実ほか 2014 「大武遺跡Ⅱ（古代～縄文時代編）一般国道116号和島バイパス関係発掘調査報告書Ⅳ」新潟県教育委員会
- 金田拓也 2015 「東北における石製模造品の展開」『阿武隈川流域における古墳時代首長層の動向把握のための基礎的研究』福島大学行政政策学類
- 鴨井幸彦・安井 賢 2004 「古地理図でたどる越後平野の生いたち」『土と基礎』第52巻 第11号 社団法人地盤工学会
- 樞根 勇 1985 「越後平野の一、〇〇〇年」新潟日報事業社
- 川上貞雄 1989 a 「第二編 考古」『新潟市史』資料編第一巻 原始・古代・中世 新潟市
- 川上貞雄 1989 b 「大沢谷内遺跡発掘調査報告書」小須戸町教育委員会
- 川上貞雄 1995 「舟戸遺跡 発掘調査報告書」新潟市教育委員会
- 川上貞雄 2002 「腰廻遺跡」笹神村教育委員会
- 黒坂雅人・伊藤純子 2012 「矢馳A遺跡第2～4次発掘調査報告書」財団法人山形県埋蔵文化財センター
- 黒坂雅人ほか 1990 「助作遺跡第1次発掘調査報告書」財団法人山形県埋蔵文化財センター
- 坂井秀弥 1988 「越後・佐渡における古代土器の生産と流通－8～10世紀を中心にして－」『シンポジウム 北陸の古代土器研究の現状と課題』報告編 石川考古学研究会・北陸古代土器研究会
- 坂井秀弥 1990 「新潟県三島郡与板町の製鉄遺跡」『新潟考古』第1号 新潟県考古学会
- 坂井秀弥 2000 「原始・古代・中世 第一章 越後平野のあけぼの 第二節 黒埼のはじまり 第一項 緒立遺跡の発見」『黒埼町史』通史編 黒埼町
- 坂井秀弥ほか 1989 「新新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀Ⅱ遺跡」新潟県教育委員会・建設省新潟国道工事事務所
- 坂井陽一 1991 「Ⅰ 地学 第1章 地形」『新潟市史』資料編12 自然 新潟市
- 澤野慶子 2014 a 「第Ⅴ章 第1節 A 古墳時代の土器」『沖ノ羽遺跡Ⅴ 第18・19次調査－県営ほ場整備事業（担い手育成型）満日地区に伴う沖ノ羽遺跡第11・12次発掘調査報告書－』新潟市教育委員会
- 澤野慶子 2014 b 「第Ⅶ章 第2節 A 古墳時代の土器について」『沖ノ羽遺跡Ⅴ 第18・19次調査－県営ほ場整備事業（担い手育成型）満日地区に伴う沖ノ羽遺跡第11・12次発掘調査報告書－』新潟市教育委員会
- 関 雅之 1980 「鳥屋遺跡Ⅰ－新潟県豊栄市・縄文晩期土坑群の発掘調査報告－」新潟県豊栄市教育委員会
- 龍田優子ほか 2015 「下新田遺跡 第6・8・9次調査 県営ほ場整備事業（経営体育成基盤整備型）道上地区に伴う第3・5・6次発掘調査報告書」新潟市教育委員会
- 立木宏明 2015 「Ⅲ 文化財センターの事業 2 平成25年度の本発掘調査（4）細池寺道上遺跡 第41次調査（2013004）」『新潟市文化財センター年報－平成25（2013）年度版－』第2号 新潟市文化財センター
- 土本 匠ほか 2008 「西部遺跡Ⅴ」新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 鶴巻康志ほか 2008 「蚤取橋遺跡・神明裏遺跡 発掘調査報告書」新潟市教育委員会
- 寺村光晴 1960 「越後六地山遺跡」『上代文化』第30輯 國學院大學考古学会
- 寺村光晴 1972 「北陸」『神道考古学講座』第二巻 雄山閣
- 中村二郎 1988 「弥生文化の曙光 縄文・弥生両文化の接点」未來社
- 新潟市教育委員会 2015 「平成26年度 新潟市文化財調査概要」新潟市教育委員会
- 新潟市文化財センター 2014 「新潟市文化財センター年報－平成23（2011）年度・平成24（2012）年度版」第1号 新潟市文化財センター
- 新潟市史編さん原始古代中世史部会 1994 「新潟市史」資料編1 原始古代中世 新潟市
- 細野高伯ほか 2012 「大沢谷内遺跡Ⅱ 第7・9・11・12・14次調査－一般国道403号小須戸バイパス整備工事に伴う大沢谷内遺跡第2・4・6・7・9次発掘調査報告書－」新潟市教育委員会
- 前山精明・相田泰臣 2004 「御井戸遺跡Ⅱ－2003年度確認調査の概要－」巻町教育委員会
- 前山精明ほか 2012 「大沢谷内遺跡Ⅲ 第18次調査－市道鎌倉横川線改良工事に伴う大沢谷内遺跡第2次発掘調査報告書－」新潟市教育委員会
- 水澤幸一・吉村光彦 2004 「屋敷遺跡2次」中条町教育委員会
- 吉井雅勇 2006 「道端遺跡」荒川町教育委員会
- 渡邊朋和 2014 「Ⅴ 史跡古津八幡山遺跡歴史の広場 1 史跡古津八幡山遺跡保存活用事業の概要」『新潟市文化財センター年報－平成23（2011）年度・平成24（2012）年度版』第1号 新潟市文化財センター
- 渡邊朋和 2015 「Ⅴ 研究活動－資料報告・研究ノート等－ 2 海揚がりの須恵器2点」『新潟市文化財センター年報－平成25（2013）年度版－』第2号 新潟市文化財センター

平成26年度刊行発掘調査・整備事業報告書一覧

書名	副書名	発行年月日	執筆者
細池寺道上遺跡Ⅲ 第26次調査	県営ほ場整備事業（担い手育成型）両新地区に伴う第12次発掘調査報告書	平成26年 7月31日	立木宏明ほか
国史跡 古津八幡山遺跡 保存整備事業報告書2 -1600年の時を越え よみがえる蒲原王墓-		平成27年 3月25日	相田泰臣ほか
細池寺道上遺跡Ⅳ 第43次調査	市道大安寺第5号大関線改良工事に伴う細池寺道上遺跡第3次発掘調査報告書	平成27年 3月31日	遠藤恭雄ほか
大沢谷内遺跡Ⅳ 第19・20・21次調査	一般国道403号小須戸田上バイパス整備工事に伴う大沢谷内遺跡第12・13・14次調査	平成27年 3月31日	相田泰臣ほか

平成26年度文化財センター・歴史文化課埋蔵文化財担当職員名簿

文化財センター		
所長	中野俊一	統括
所長補佐	福地康郎	事務
主任（学芸員）	渡邊朋和	埋蔵文化財
主任（学芸員）	遠藤恭雄	埋蔵文化財
主任	本間敏則	事務
副主幹（学芸員）	前山精明	埋蔵文化財
主査（学芸員）	立木宏明	埋蔵文化財
主査	上田俊哉	事務
主査（文化財専門員）	今井さやか	埋蔵文化財
主査（学芸員）	相田泰臣	埋蔵文化財
主査（学芸員）	潮田憲幸（宮城県へ派遣）	埋蔵文化財
主査（文化財専門員）	龍田優子	埋蔵文化財
副主査（文化財専門員）	相澤裕子	埋蔵文化財
吏員（文化財専門員）	金田拓也	埋蔵文化財
非常勤職員	酒井和男	民俗文化財
非常勤職員	八藤後智人	埋蔵文化財
非常勤職員	澤野慶子	埋蔵文化財
非常勤職員	寺崎裕助	埋蔵文化財
非常勤職員	宮下佐貴子	埋蔵文化財
非常勤職員	土佐夕美子	事務
非常勤職員	牧野耕作	埋蔵文化財
歴史文化課埋蔵文化財担当		
主幹（文化財専門員）	廣野耕造	埋蔵文化財
主査（文化財専門員）	諫山えりか	埋蔵文化財
主査（文化財専門員）	朝岡政康	埋蔵文化財
非常勤職員	真田 敦	事務



※一部省略

※平成26年度より文化観光・スポーツ部は、文化スポーツ部に改変。

平成26年度文化スポーツ部の組織機構図

新潟市文化財センター年報 第3号  
—平成26（2014）年度版—

2016年 3月28日印刷・発行

編集・発行 新潟市文化財センター  
〒950-1122 新潟市西区木場2748番地 1  
電話 025-378-0480

印刷 株式会社ウィザップ  
〒950-0963 新潟市中央区南出来島2丁目1-25